



# 授業評価報告書

—よりよい授業への改善を目指して—

2006



四條畷学園短期大学  
Shionawate Gakuen Junior College

## 序

昨年、四條畷学園 短期大学の「自己点検・自己評価」の一環として、平成17年度に実施した「学生による授業評価・教員自身による自己点検評価」の結果を「授業評価報告書 ～ よりよい授業への改善をめざして - 2005」として公表した。

平成18年度も引き続いて一昨年度に施行した学生による授業評価をおこなうと共に、新たに授業形態やクラス構成員数と学生評価との関連性にも検討を加えた。

2年間にわたる学生による授業評価の推移において、保育学科とライフデザイン総合学科とでは2年目の評価が大きく異なった。この意義に関しては、今年度以降の評価時に検討を加えなければならない。

平成18年度に、初めておこなわれた授業形態・クラス構成員数と学生評価との関連性からは、教科内容によっては授業形態のあり方、工夫など、将来的に検討すべきと考えられる結果が得られた。また、クラス構成員数からは、授業内容に応じた臨機応変なクラス構成も極めて重要と再認識された。

また、教員による自己点検・評価では、学生の評価を虚心坦懐に受け止め、改めるべき内容については前向きに取り組むコメントが参加した全教員から得られた。

教育提供体制の改善・改革が、教員によって自主的に組織内からおこなわれつつあることを非常に喜ばしく感じている。

平成19年10月には、財団法人 短期大学規準協会による第三者評価受審が予定されている。自分たちが歩んできた道を振り返り、自分たちの進むべき道を自分たちで切り拓いて行きつつあることを、革めて実感している。

平成19年8月

四條畷学園短期大学学長

廣 島 和 夫

## もくじ

1	はじめに	
	授業評価の目的	3
2	調査の方法	
	調査の対象	4
	調査の実施方法	4
	学生による授業評価	4
	教員による自己評価	4
	教員による自己点検評価報告書	4
3	調査の結果	
	実施授業数と延べ人数	5
	授業への出席状況	5
	学生による授業評価と教員による自己評価の結果	6
	A 教員の授業への取り組み姿勢	6
	B 授業内容について	8
	C 学生の授業への反応、意識について	9
	D 設備	11
	E 実技・実習	11
	2005年度と2006年度の比較	12
	受講者数との関係	12
	授業形態との関係	16
4	教員による自己点検評価報告書の結果	16
5	全体的な考察と今後の問題	19
6	要約	20

### 付表

教員による自己点検報告書（保育学科・ライフデザイン総合学科）

### 別紙

- 1 授業評価の実施要領
- 2 学生による授業評価アンケート
- 3 教員による授業評価アンケート
- 4 教員による自己点検評価報告書

# 1 はじめに

## 授業評価の目的

本学では昨年度に初めて全学的に授業評価を実施し、その結果を報告書にまとめた。今年度は昨年度の結果から示唆された問題点をふまえながら、基本的には昨年度と同じ目的、実施方法で行い、昨年度と本年度の授業評価の結果の相違点を中心にして報告することにした。すなわち、今回の報告では2006年度に在籍する学生の授業評価を明らかにするとともに、2005年度の結果との比較検討することを第一の目的とした。

昨年度の報告では、学生による授業評価と担当教員自身による自己評価との関係をみるのが第一の目的であった。調査項目を「教員の授業への取り組み姿勢」、「授業内容について」、「学生の授業への反応、意識」、「設備」、「実技・実習」の5つのカテゴリーに分け、それぞれについて学生の授業評価と教員の自己評価の結果を分析した。その結果、総じて「教員の授業への取り組み姿勢」については教員自身は高く評価しているものの、学生による授業評価では「教員の授業への取り組み姿勢」への評価が低く、教員の意識と学生の意識にズレが認められた。これに対して、「学生の授業への意識」については学生による評価が教員の自己評価よりも高いことが示された。このように、評価項目のうち上記に分類される項目では、学生の授業評価と教員の自己評価間に差異が見られた。本年度においても、この傾向が認められるかどうかについて検討することを目的とした。昨年度と比較することによって、得られた結果が信頼性のあるかどうかを明らかにされるだろう。

次に、本学では2つの学科があり、その性質が大きく異なっているが、これら2つの学科によって結果が異なり、昨年度の結果ではライフデザイン総合学科の授業評価の得点が保育学科よりも高いことが示された。ライフデザイン総合学科が保育学科よりも学生による授業評価が高いということの原因について、一つはカリキュラムの柔軟性が学生の授業参加への動機づけに関係しているためではないかと推察された。また、2学科の違いが、一つの授業あたりの受講者人数が異なることにもあるのではないかと推察された。さらに、授業形態が講義・演習形態と実習・実技形態の違いにも関係しているのではないかということも指摘された。今回の報告では、これら前回の報告において示唆された問題点についての分析も併せて行うことにした。

さて、昨年度授業評価を実施したところ、授業評価を測定する方法について考慮すべきではないかということが考えられた。ほとんどの授業評価がそうであるが、本学の授業評価においても5段階の評定尺度によって評価を実施している。評定尺度だけでは学生の奥深い感想や心情は伝わることは不可能であろう。学生の授業に対する生の声を担当教員に伝えることも、担当教員にとっては関心の深いところであろうと思われる。授業評価に関する学生の心情をより深く理解するために、今年度は学生に自由記述による報告も求めることにした。評定尺度だけでは表すことのできない学生の授業への思いが教員に伝わるかもしれないことを期待してのことである。

さらに、教員からの報告書においても、学生の授業評価と教員自身の自己評価についての教員自身のコメントを求め、次年度の授業構築にあたっての一つの指標として頂くことが目的の一つであった。このことが今年度どのようにして生かされているのかについて、教員からの報告書に新たな項目を付け加えることによって、この点について検討した。

## 2 調査の方法

### 調査の対象

授業評価アンケートを実施した学生は保育学科 207 名（1 年 107 名、2 年 100 名）とライフデザイン総合学科 225 名（1 年 120 名、2 年 105 名）の合計 432 名であった。

教員による自己評価及び自己点検報告書を実施した教員は保育学科 60 名、ライフデザイン総合学科 67 名の計 127 名であった。同一教員が 2 学科、及び数種類の授業を担当しているため延べの人数にすると 349 人となり、回収率は 100%であった。

### 実施の時期

授業評価は各学期の最後の授業で実施された。前期の授業では 2006 年 7 月、後期の授業では 2007 年 2 月に実施された。

### 調査の実施方法

調査の実施は、学生による 2 種類の授業評価（5 段階評定尺度によるアンケート、自由記述）、教員による自己評価（5 段階評定尺度によるアンケート）、教員による自己点検評価報告書の 3 種類から成り立っている。

### 学生による授業評価

学生による授業評価は昨年度実施したものと同様のアンケートと今年度新たに導入した自由記述用紙を使用した。アンケートは授業への出席状況についての 1 項目と授業評価に関する 20 項目の計 21 項目から構成されている。授業評価項目の内容の内訳は「授業の実施や教授態度」に関する 6 項目、「授業内容」に関する 5 項目、「学生の授業への意識」に関する 4 項目、「授業環境」に関する 1 項目、さらに実技・実習授業についてのみ「実習授業のあり方」についての 5 項目の計 20 項目から構成されていた。実際に使用したアンケートは別紙 2 に示した。回答はマークシートであった。

今年度新たに導入した自由記述は自由記述用紙として罫紙（A4）を配布し、授業について感想を自由に書くことを求めた。アンケートと自由記述のいずれにおいても無記名であった。

学生による授業評価は前期、後期の最終授業時間の最後に授業担当者により実施された。実施の手続きは文書（別紙 1）で予め担当者に伝え、実施の意図の統一を図った。学生の授業評価のアンケートの回収にあたっては学生の代表が袋詰めまで行い、担当教員が直接回収することを回避した。自由記述用紙は教員が回収しそのまま持参した。アンケート実施に要した時間は約 15 分であった。

### 教員による自己評価

学生が授業評価のアンケートと自由記述を実施している間、担当教員に自己評価アンケートを実施した。質問項目は学生用の項目と同様のものであるが、記述表現を教員用に変えたものを作成した。記載された用紙は学生とは異なる封筒に入れて事務局に提出した。

### 教員による自己点検評価報告書

担当科目の学生による授業評価の集計結果と教員の自己評価を授業担当者にフィードバックする際、自己点検評価報告書を同封し報告書への記入を求めた。自己点検報告書は次の 4 項目から作成された。

1. 学生による授業評価の結果についてどのように感じたのか。
2. 学生による授業評価の結果と教員自身の自己評価との関係についての考察
3. 上記の結果から、今後の授業へのあり方についての考察
4. 学生の自由記述を読んだ感想

### 3 調査の結果

#### 実施授業数と延べ人数

授業評価を実施した授業数、授業評価した学生の延べ人数を学科別に示すと表1の通りであった。

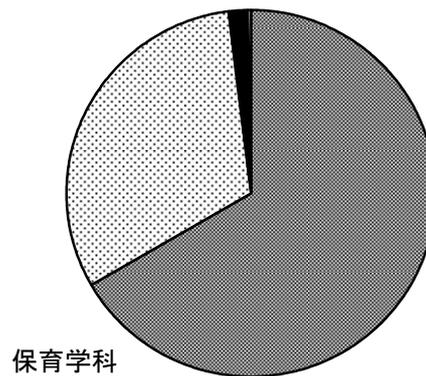
表1 授業評価実施の授業数、学生数

	保育学科	ライフデザイン総合学科
授業数	108	180
学生の授業評価人数	5443	3846

#### 授業への出席状況

授業への出席状況について、全回出席、2/3以上出席、1/2以上出席、1/2未満に分けて示したのが図1-1と図1-2である。全学科では、毎回と2/3以上出席をあわせると96.17%を超えており、授業への出席率は非常に高いといえる。学科別に見ると保育学科において出席率の高いことがわかる。保育学科では保育士資格取得に際して2/3以上の出席回数が義務づけられているので当然の結果であろうと思われる。しかしながら、そのような厳格な取り決めのないライフデザイン総合学科においても極めて高い出席率といえるであろう。

- 1. 毎回
- ▨ 2. 2/3以上
- 3. 1/2以上
- 4. 1/2以下



- 1. 毎回
- ▨ 2. 2/3以上
- 3. 1/2以上
- 4. 1/2以下

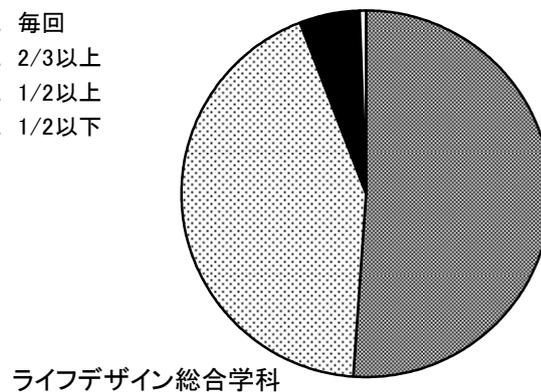
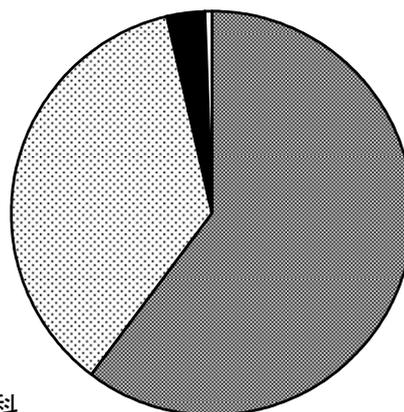


図1-1 出席状況

- 1. 毎回
- ▨ 2. 2/3以上
- 3. 1/2以上
- 4. 1/2以下



全学科

図1-2 出席状況

### 学生による授業評価と教員による自己評価の結果

出席状況に関する項目を除いた 20 項目を昨年度と同様に 5 つのカテゴリーに分類して結果を分析した。それらのカテゴリーは下記に示す A から E の 5 つのカテゴリーであった。

#### A 教員の授業への取り組み姿勢

教員の取り組み姿勢に関する項目は、「発話の明瞭性と速度」(問 1)、「説明の丁寧さ」(問 2)、「板書の仕方」(問 8)、「授業への熱意」(問 9)、「学生への適切な応答」(問 10)、「授業環境への配慮」(問 11) の 6 項目をこれに該当する項目とした。表 2 には学科別に学生による得点の平均と教員による自己評価の平均値を示した。さらに、それらの値について図示したのが図 2 である。

学生による評価の結果は、表 2、図 2 の全学科についてみると「板書の仕方」を除き 4.00 以上であり、全体として学生評価は高いことがわかる。

表2. 教員の授業への取り組み姿勢の結果(2006年度学生評価と教員自己評価の比較)

項目番号	項目	保育			ライフ			全学科		
		学生評価	教員自己評価	有意差(t検定)	学生評価	教員自己評価	有意差(t検定)	学生評価	教員自己評価	有意差(t検定)
問1	教員は大きな声で聞き取り易い速さで話してくれた。	4.23 (0.40)	4.44 (0.65)	**	4.03 (0.55)	4.44 (0.58)	**	4.10 (0.50)	4.44 (0.60)	**
問2	教員は授業内容が良く理解できるように丁寧に説明してくれた。	4.13 (0.45)	4.31 (0.63)	**	3.96 (0.57)	4.27 (0.63)	**	4.02 (0.53)	4.29 (0.63)	**
問8	板書はわかりやすかった。	3.92 (0.45)	3.43 (0.79)	**	3.77 (0.64)	3.85 (0.78)		3.83 (0.58)	3.69 (0.81)	*
問9	授業に対する熱意や真剣さが伝わってきた。	4.22 (0.37)	4.53 (0.64)	**	4.01 (0.49)	4.46 (0.64)	**	4.09 (0.46)	4.48 (0.64)	**
問10	教員は学生の質問や発言などに適切に対応した。	4.16 (0.45)	4.29 (0.61)	*	4.03 (0.52)	4.29 (0.69)	**	4.08 (0.50)	4.29 (0.66)	**
問11	教員は授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくってくれた。	4.13 (0.38)	4.21 (0.71)		3.95 (0.52)	4.03 (0.74)		4.02 (0.48)	4.10 (0.73)	

\* p<.05, \*\* p<.01 ( )内はSD

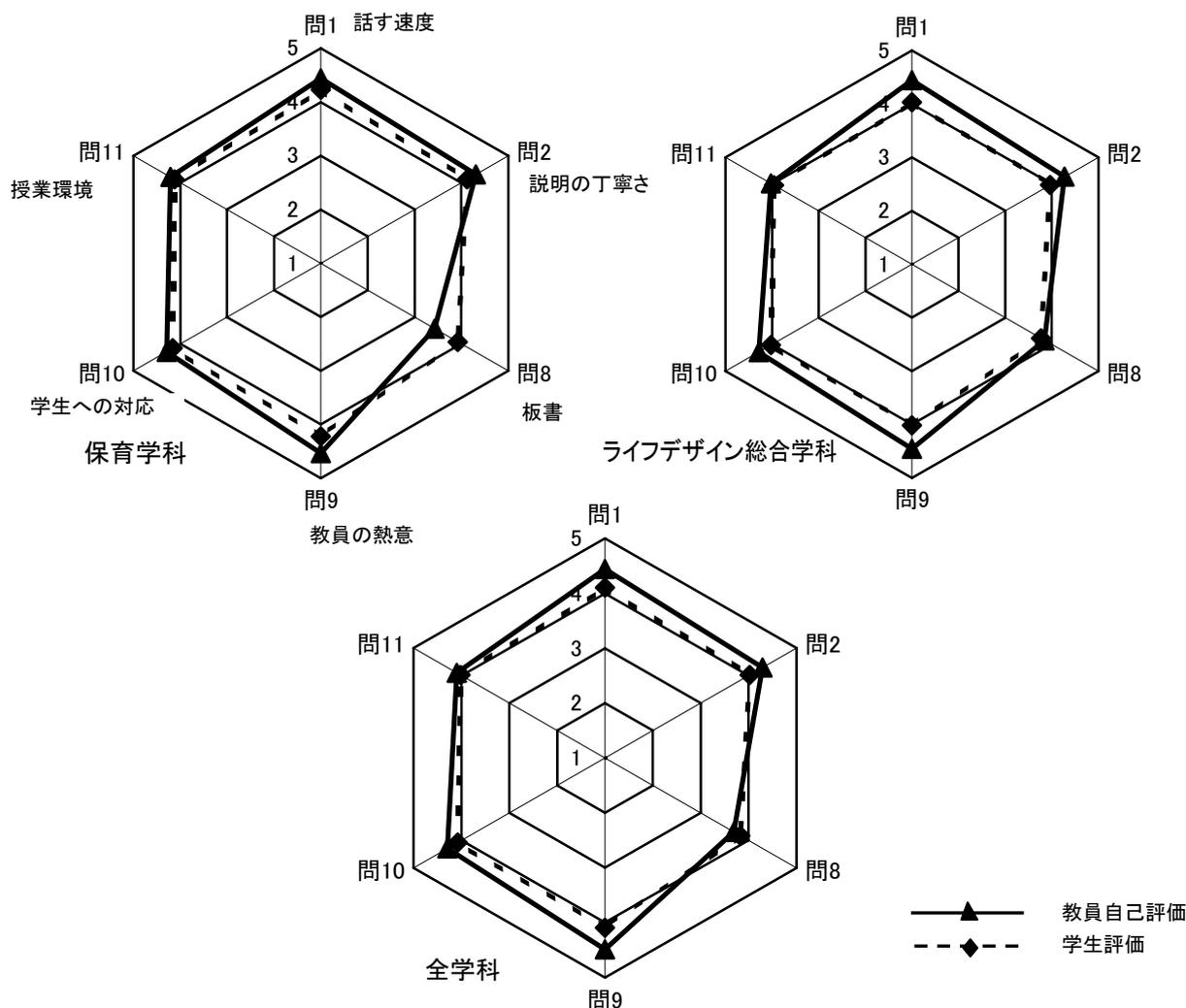


図2. 教員の授業への取り組み姿勢の結果

保育学科とライフデザイン総合学科の学科別に学生の授業評価の得点を比較すると、すべての項目において、保育学科がライフデザイン総合学科よりも上回っていた。両学科の学生の得点についての検定の結果では、保育学科がライフデザイン総合学科よりも有意に得点が高かった。

教員の自己評価の結果については、「板書の仕方」が 3.00 台と低いものの、他のすべての項目において 4.00 以上の得点であり、両学科とも同様の傾向であった。教員の自己評価について両学科について検定したところ、「板書の仕方」(問 8)「授業に集中できる環境への配慮」(問 11)の項目で、有意差が認められた (t 検定による)。ライフデザイン総合学科の教員は保育学科の教員に比して「板書の仕方」により注意を払っていること、保育学科の教員はライフデザイン総合学科の教員に比べて、授業中の私語への注意や授業の雰囲気や学生への注意に特に配慮していたといえる。

次に、学生の評価と教員の自己評価の差異について明らかにするため、両得点の差異について比較した。表 2、図 2 の全学科の結果をみると、「板書の仕方」(問 8)を除いて教員による自己評価の方が学生による評価より上回っており、「授業環境への配慮」(問 11)を除いて有意差が見られる。このことは学生が評価する以上に、教員の授業への取り組み姿勢は教員自身の自己評価の高いことを示している。したがって教員としては、熱意を込めて一生懸命に授業に臨んでいたといえる。し

かし、学生にとっては教員以上には教員の授業への取り組み姿勢を評価していないことがわかる。この傾向は、保育学科、ライフデザイン総合学科にもほぼ共通していえることである。

## B 授業内容について

授業内容については、「シラバス通りの内容」(問3)、「授業への準備と工夫」(問4)、「授業の難易度」(問5)、「授業の進行速度」(問6)、「教材の使い方」(問7)の5つの項目がこれに該当する。表3と図3は授業内容の学生評価と教員の自己評価の結果を表したものである。

学生の自己評価は保育学科とライフデザイン総合学科のいずれにおいても同様の傾向を示しており、「授業の難易度のレベル」と「授業の進行速度」についての評価が低く、この傾向は両学科とも一致していた。しかし、全体としてはすべての項目において、保育学科がライフデザイン総合学科の得点を有意に上回っていた。

教員の自己評価については項目全体としてみるとライフデザイン総合学科において若干得点が高い傾向が見られる。また、全学科の得点を見ると、先に述べた教員の取り組み姿勢についての自己評価(表2)よりもほとんどの項目で、自己評価が低くなっている。このことは、授業への準備と工夫はなされているものの、授業の難易度や進行速度、テキストやプリントの使い方に自己評価が低くなっていることを示しているといえる。

次に、学生の評価と教員の自己評価間の違いは、表3、図3の全学科についての結果を見ると、「シラバス通り」の項目で学生の授業評価が教員の自己評価を上回り、教員が思っている以上に学生が評価しているといえる。しかし、学科別に見るとこの有意な傾向は保育学科の得点によるところが大きいといえる。ライフデザイン総合学科ではそのような傾向があるに過ぎないといえる。

「授業への準備」についてはライフデザイン総合学科では教員自己評価が有意に高いものの、学生による評価は有意に低くなっているといえる。教員は授業への十分な準備と工夫を行っていると考えていたにも関わらず、学生にはそのようには評価されていないといえる。「授業の進行」では保育学科の学生の評価が教員の自己評価よりも高いことが示された。保育学科においては、学生は授業の速度が適切と思っているのであるが、教員は適切ではないと感じていたといえる。想像するに、教員が考えている以上に速度は遅かったと推察される。

表3、図3からも明らかなように、「授業の内容」についての結果は、学生の評価と教員の自己評価間に多くの差異は認められず、両学科間の差異にも一貫した傾向は見られなかった。

表3. 授業内容についての結果(2006年度学生評価と教員自己評価の比較)

項目 番号	項目	保育			ライフ			全学科		
		学生 評価	教員 自己 評価	有意差 (t検定)	学生 評価	教員 自己 評価	有意差 (t検定)	学生 評価	教員 自己 評価	有意差 (t検定)
問3	授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行われた。	4.11 (0.32)	3.91 (0.79)	*	3.99 (0.45)	3.90 (0.91)		4.03 (0.41)	3.91 (0.87)	*
問4	授業には十分な準備と工夫がなされていた。	4.10 (0.36)	4.09 (0.71)		3.95 (0.51)	4.15 (0.71)	**	4.01 (0.46)	4.13 (0.71)	*
問5	授業の難易度のレベルは適切であった。	3.97 (0.44)	3.86 (0.66)		3.85 (0.53)	3.84 (0.72)		3.90 (0.50)	3.85 (0.70)	
問6	授業の進行速度は適切であった。	3.99 (0.43)	3.79 (0.70)	*	3.88 (0.54)	3.91 (0.74)		3.92 (0.51)	3.87 (0.72)	
問7	テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。	4.07 (0.37)	3.77 (0.83)	**	3.95 (0.51)	3.92 (0.74)		3.99 (0.46)	3.86 (0.78)	*

\* p<.05, \*\* p<.01 ( )内はSD

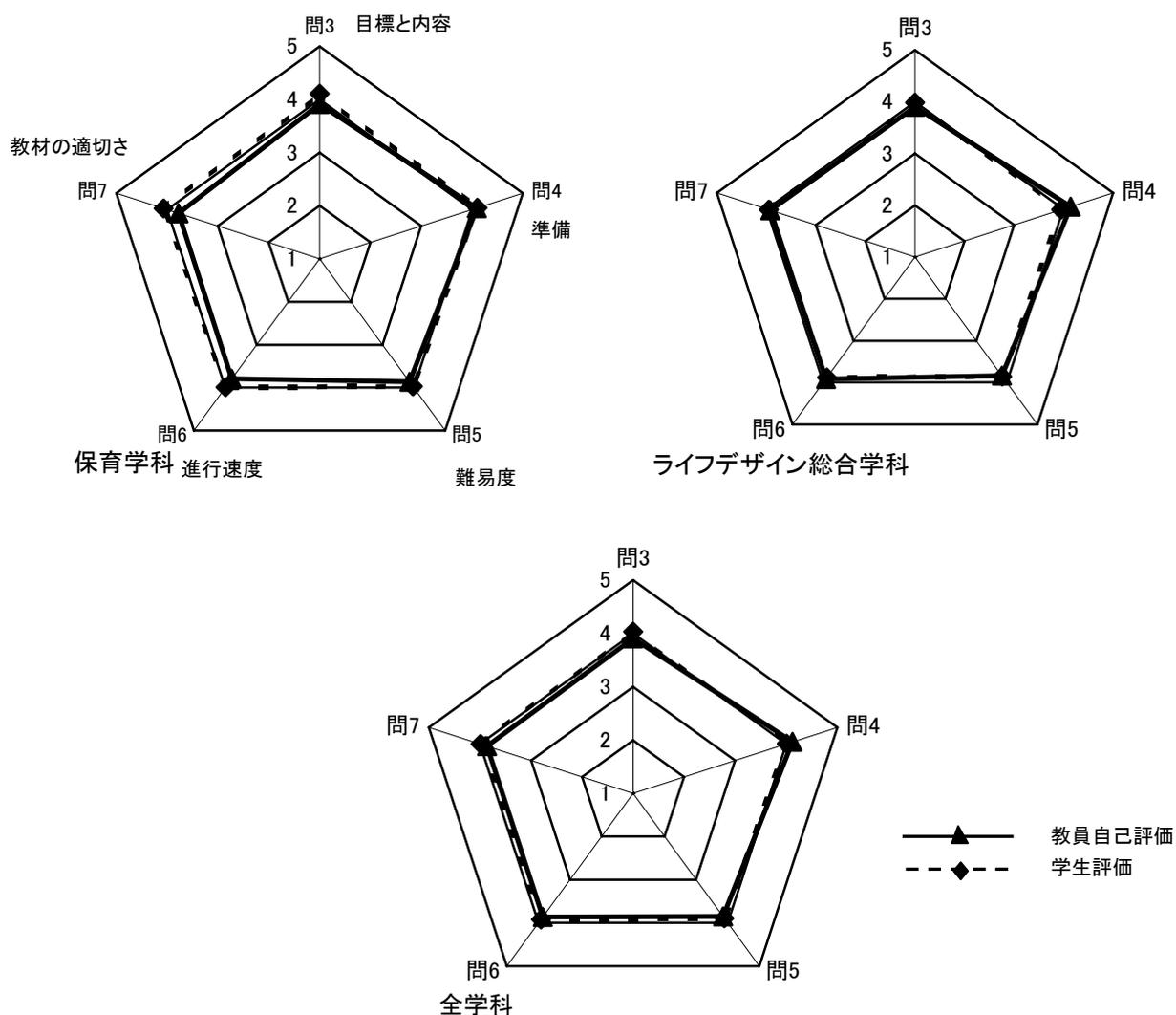


図3. 授業内容についての結果

### C 学生の授業への反応、意識について

学生の授業への反応・意識については、「授業への興味」(問 12)、「授業内容の理解」(問 13)、「より深い関心を持った」(問 14)、「満足度」(問 16) の4つの項目を分析の対象とした。表 4 と図 4 にはこの結果を示してある。

学生の評価を学科別に比較すると、保育学科ではすべての項目において 4.00 以上を示しているが、ライフデザイン総合学科ではすべてが 3.00 台であり、両学科間には有意な差異が認められた。

教員自己評価は両学科のいずれも項目においても 4.00 には達しておらず、また、ライフデザイン総合学科での教員の自己評価が保育学科のそれよりもすべてにおいて若干低い得点であった。

学生の評価と教員の自己評価を比較すると、全学科、及び保育学科、ライフデザイン総合学科別のすべてにおいて、学生の授業評価が教員の自己評価よりも有意に高い得点を示していることがわかる。この結果は、両学科の学生は、授業に熱心に取り組み、よく理解でき、さらなる向上心を持ち、総じて満足しているという評価をしている。そして、すべての項目において、教員による自己評価は学生ほどには高くはないということが、何を意味しているかについて考える必要があるように思われる。

表4. 学生の授業への反応・意識の結果(2006年度学生評価と教員自己評価の比較)

項目 番号	項目	保育			ライフ			全学科		
		学生 評価	教員 自己 評価	有意差 (t検定)	学生 評価	教員 自己 評価	有意差 (t検定)	学生 評価	教員 自己 評価	有意差 (t検定)
問12	授業に興味をもって熱心に取り組むことができた。	4.09 (0.42)	3.90 (0.68)	*	3.88 (0.54)	3.72 (0.80)	**	3.96 (0.51)	3.79 (0.76)	**
問13	授業の内容を良く理解することができた。	4.02 (0.46)	3.69 (0.67)	**	3.81 (0.58)	3.64 (0.74)	**	3.89 (0.55)	3.66 (0.71)	**
問14	授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得でき、もっと深く勉強したくなった。	4.06 (0.43)	3.89 (0.70)	*	3.81 (0.57)	3.71 (0.71)	**	3.90 (0.54)	3.77 (0.71)	**
問16	総合的にみてこの授業を受けて満足している。	4.15 (0.41)	3.82 (0.71)	**	3.96 (0.54)	3.74 (0.70)	**	4.03 (0.51)	3.77 (0.70)	**

\* p<.05, \*\* p<.01 ( )内はSD

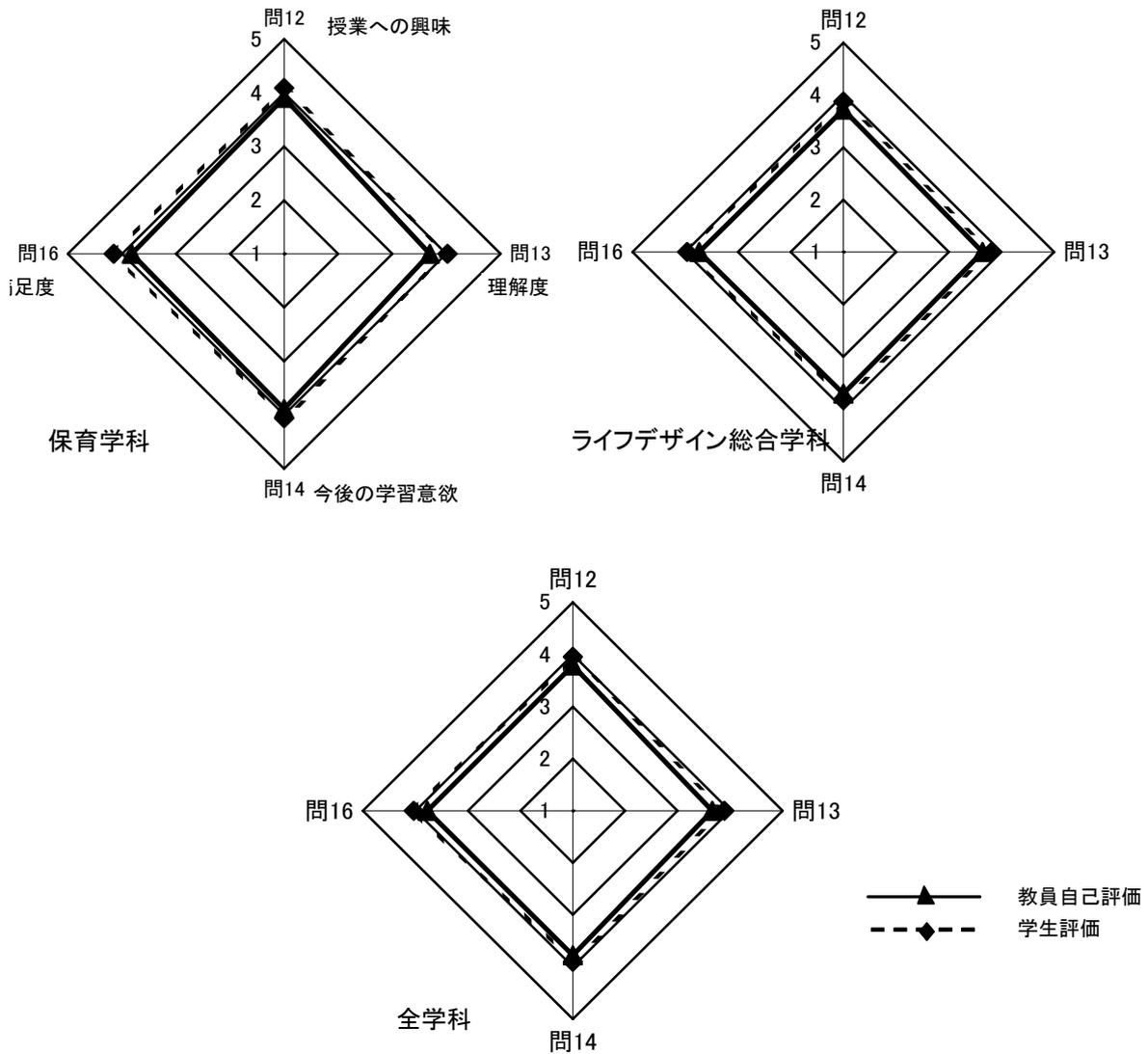


図4. 学生の授業への反応・意識の結果

以上の A～C の結果を総合的にみると、「教員の授業への取り組み姿勢」では、学生の授業評価に比べて、教員の自己評価の得点が有意に高く、「学生の授業への反応・意識」の結果では逆に教員の自己評価が学生の授業評価を有意に下回っていることが明らかにされた。この結果は、教員としては授業に対して、大きな熱意と真摯な態度で臨んでいるのであるが、学生には教員ほどには評価されていない。しかし、教員は学生達が良く理解しているかとか授業に満足しているかについてはやや不安があるが、学生は内容をよく理解でき、授業に満足し、熱心に授業に参加していたと自分自身を評価している。C の項目はいわば学生の自己評価的な意味も含んでいるが、学生は教員が感じている以上に授業に満足しているとも解釈される。

#### D 設備

教室の設備についての項目は一問だけであった。表 5 はその結果を示している。保育学科においてのみ、学生の評価と教員の自己評価間に差異がみられ、学生の評価が有意に高いことがわかる。また、保育学科の評価は学生、教員ともに、ライフデザイン総合学科のそれよりも高いことが示された。設備に関しては、保育学科は前期と後期で学舎が異なり、後期からは新築された新学舎に移転したため、物理的な教育環境は前期のそれとは優に改善されたという背景がある。もちろん、ライフデザイン総合学科においても保育学科との同居による教育環境の悪さからは解放されたことも事実である。このような、学校の事情があるので、ここに結果として出された数値だけで論じることはひかえたい。次年度の調査において 2 学科に差異があるかどうかによってこの問題は論議されるのが正しいと思われる。

表5. 設備についての結果(2006年度学生評価と教員自己評価の比較)

項目番号	項目	保育			ライフ			全学科		
		学生評価	教員自己評価	有意差(t検定)	学生評価	教員自己評価	有意差(t検定)	学生評価	教員自己評価	有意差(t検定)
問15	この授業の教室の大きさや設備(視聴覚機器や教材など)は適切であった。	4.15 (0.37)	3.88 (0.88)	**	3.96 (0.49)	3.84 (0.95)		4.03 (0.46)	3.85 (0.92)	**

\* p<.05, \*\* p<.01 ( )内はSD

#### E 実技・実習

実技や実習を伴う授業についての結果は表 6 に示すとおりであった。ここで実技・実習授業と分類したのは、質問項目の問 17～問 20 に回答している場合の授業について分析の対象とした。

実技や実習を伴う授業数は保育学科では 47、ライフデザイン総合学科では 26 であった。両学科において実習や実技の内容が相当異なるので直接比較はできない。学科別に見ると「課題の量」や「取り組みへの準備の時間」に学生、教員ともに低い評価であったが、「実技向上」「指導の適切さ」については学生、教員ともに高い評価であった。ライフデザイン総合学科では、保育学科よりも学生の評価では高く評価されており、実習・実技での授業は学生に満足するものであったといえる。

表6. 実技・実習についての結果(2006年度学生評価と教員自己評価の比較)

項目番号	項目	保育			ライフ			全学科		
		学生評価	教員自己評価	有意差(t検定)	学生評価	教員自己評価	有意差(t検定)	学生評価	教員自己評価	有意差(t検定)
問17	教員の技能や実技の指導は適切に行われた。	4.16 (0.47)	4.22 (0.81)		4.39 (0.56)	4.00 (0.74)		4.24 (0.51)	4.13 (0.78)	
問18	この授業で課せられる課題の量は適切であった。	3.88 (0.49)	3.89 (0.77)		4.28 (0.57)	4.05 (0.73)		4.03 (0.55)	3.96 (0.75)	
問19	与えられた課題に取り組む時間は充分にあった。	3.77 (0.54)	3.65 (0.99)		4.25 (0.60)	4.00 (0.81)		3.94 (0.61)	3.80 (0.93)	
問20	授業の内容は技術や実技の向上に役立つものであった。	4.21 (0.42)	4.40 (0.69)		4.47 (0.46)	4.11 (0.69)		4.30 (0.45)	4.27 (0.70)	

\* p<.05, \*\* p<.01 ( )内はSD

## 2005年度と2006年度の比較

2005年度においてもほぼ同様の授業評価を行っている。2006年度の調査は2回目であるが、2005年度と2006年度との結果を分析、比較することによって、授業評価で得られた結果の年次的推移と信頼性についても考察することができるであろう。

表7は学生評価、教員の自己評価を2005年度と2006年度の得点を学科別に表したものである。学生による授業評価についてみると、2005年度と2006年度の結果が両学科では全く逆転していることがわかる。保育学科ではすべての項目において、2005年度に比べて2006年度の方が得点が高く、問1、問10、それに問17から問20の実習・実技の項目を除く14項目で2006年度の方が2005年度より有意に高くなっている。これに対してライフデザイン総合学科ではすべての項目において2005年度に比べて2006年度の得点は低くなっており、さらにすべての項目において2005年度と2006年度の得点間に有意差が認められた。

全項目についての平均値を求めると保育学科では2005年度では、3.94、2006年度では4.09、ライフデザイン総合学科では2005年度では4.11、2006年度では3.93であり、ライフデザイン総合学科における得点の有意な低下が認められる。ライフデザイン総合学科の昨年度からの評価得点の有意な減少が、2006年度のみのものであるのか、年次的な傾向として続くのかについては2007年度の報告結果を待たねばならない。しかし、現時点においてさらなる分析をすることによってこの原因を探ることも必要であろう。

これに対して、教員の自己評価についてみると、2006年度の学科間ではほとんど差異はみられなかった（保育学科：4.00、ライフデザイン総合学科：3.99）。そして、両学科共通して2005年度より2006年度の方が得点は低下している。教員は自分の授業の方法には満足しておらず、さらなる工夫の余地があると考えているという考えが、2005年度よりも2006年度においてさらに強く感じていたといえる。

## 受講者数との関係

昨年度の報告において問題点とされた受講者数との関係をみるために、また、ライフデザイン総合学科における学生の評価得点の減少傾向を検討するために、受講者数を10名ごとに分類した各項目の平均得点と受講者数と評価得点の相関係数を表8、表9に示した。

表8、表9の授業数を見ると両学科において1授業あたりの受講者数が大きく異なることが分かる。保育学科（表8）では21～30名の受講者の授業数をもっとも多く、全体の50.9%と約半数にあたり、次いで51～60名、31～40名、41～50名の受講者の授業が多い。これに対し、ライフデザイン総合学科では受講者数が10名以下の授業が全体の23.9%、11～20名の授業が20.6%、21～30名が24.4%となり、30名以下の授業が全体の約70%、20名以下の授業が約44%を占めており、徹底した少人数教育であることが分かる。

受講者数による学生評価の違いを学科別に検討してみよう。保育学科（表8）においては受講者数の変数として学生の授業評価の得点に影響することは非常に少なく、「板書の仕方」に受講者数が多くなるにつれて得点が有意に低くなることに相関が見られ、「より向上心をかきたてられた」という項目において受講者数と負の相関が見られた。その他の項目においては有意な相関が見られなかった。

ライフデザイン総合学科（表9）においては受講者数と学生の授業評価にすべての項目において、受講者数と学生の授業評価とに高い負の相関が見られる。相関係数の有意差検定においてもすべての項目において有意な負の相関がみられ、受講者数が多くなるにつれて、学生の授業評価の得点が有意に低くなることが示された。ライフデザイン総合学科においては、受講者数が授業効果に関係するひとつの要因であることが示されたといえよう。

表. 7 学生評価と教員自己評価の2005年度と2006年度のt検定による比較

項目 番号	項目	保育						ライフ					
		学生評価			教員自己評価			学生評価			教員自己評価		
		2005	2006	有意差									
A	問1	4.13 (0.45)	4.23 (0.40)		4.56 (0.70)	4.44 (0.65)		4.24 (0.58)	4.03 (0.55)	**	4.60 (0.60)	4.44 (0.58)	*
	問2	3.99 (0.50)	4.13 (0.45)	*	4.39 (0.73)	4.31 (0.63)		4.14 (0.62)	3.96 (0.57)	**	4.41 (0.63)	4.27 (0.63)	*
	問8	3.72 (0.53)	3.92 (0.45)	**	3.46 (0.90)	3.43 (0.79)		3.98 (0.65)	3.77 (0.64)	**	3.92 (0.86)	3.85 (0.78)	
	問9	4.11 (0.38)	4.22 (0.37)	*	4.60 (0.72)	4.53 (0.64)		4.19 (0.55)	4.01 (0.49)	**	4.58 (0.69)	4.46 (0.64)	
	問10	4.04 (0.45)	4.16 (0.45)		4.36 (0.70)	4.29 (0.61)		4.18 (0.59)	4.03 (0.52)	*	4.42 (0.65)	4.29 (0.69)	
	問11	3.95 (0.47)	4.13 (0.38)	**	4.32 (0.67)	4.21 (0.71)		4.13 (0.55)	3.95 (0.52)	**	4.17 (0.78)	4.03 (0.74)	
B	問3	3.97 (0.39)	4.11 (0.32)	**	3.81 (0.88)	3.91 (0.79)		4.11 (0.50)	3.99 (0.45)	*	4.04 (0.88)	3.90 (0.91)	
	問4	3.98 (0.42)	4.10 (0.36)	*	4.16 (0.74)	4.09 (0.71)		4.12 (0.56)	3.95 (0.51)	**	4.22 (0.72)	4.15 (0.71)	
	問5	3.80 (0.43)	3.97 (0.44)	**	3.86 (0.90)	3.86 (0.66)		4.03 (0.56)	3.85 (0.53)	**	3.91 (0.85)	3.84 (0.72)	
	問6	3.83 (0.47)	3.99 (0.43)	**	3.84 (0.81)	3.79 (0.70)		4.09 (0.58)	3.88 (0.54)	**	4.10 (0.78)	3.91 (0.74)	*
	問7	3.96 (0.41)	4.07 (0.37)	*	3.82 (0.86)	3.77 (0.83)		4.14 (0.53)	3.95 (0.51)	**	4.04 (0.82)	3.92 (0.74)	
C	問12	3.92 (0.44)	4.09 (0.42)	**	3.84 (0.74)	3.90 (0.68)		4.04 (0.65)	3.88 (0.54)	*	3.83 (0.88)	3.72 (0.80)	
	問13	3.86 (0.46)	4.02 (0.46)	*	3.62 (0.75)	3.69 (0.67)		4.02 (0.65)	3.81 (0.58)	**	3.70 (0.72)	3.64 (0.74)	
	問14	3.84 (0.42)	4.06 (0.43)	**	3.79 (0.77)	3.89 (0.70)		3.98 (0.65)	3.81 (0.57)	**	3.93 (0.74)	3.71 (0.71)	**
	問16	3.99 (0.42)	4.15 (0.41)	**	3.80 (0.76)	3.82 (0.71)		4.14 (0.62)	3.96 (0.54)	**	3.85 (0.75)	3.74 (0.70)	
D	問15	4.03 (0.39)	4.15 (0.37)	*	3.47 (1.07)	3.88 (0.88)		4.19 (0.50)	3.96 (0.49)	**	4.04 (0.91)	3.84 (0.95)	*
E	問17	4.03 (0.41)	4.16 (0.47)		4.34 (0.70)	4.22 (0.81)		4.49 (0.44)	4.39 (0.56)		4.06 (0.76)	4.00 (0.74)	
	問18	3.69 (0.51)	3.88 (0.49)		4.05 (0.77)	3.89 (0.77)		4.41 (0.49)	4.28 (0.57)		4.06 (0.86)	4.05 (0.73)	
	問19	3.56 (0.58)	3.77 (0.54)		3.66 (1.08)	3.65 (0.99)		4.37 (0.48)	4.25 (0.60)		3.81 (1.07)	4.00 (0.81)	
	問20	4.09 (0.40)	4.21 (0.42)		4.44 (0.67)	4.40 (0.69)		4.58 (0.38)	4.47 (0.46)		4.25 (0.61)	4.11 (0.69)	

\* p<.05, \*\* p<.01 ( )内はSD

表8. 受講者数と学生評価の相関(保育学科)

項目 番号	項目	受講者数・( )内は授業数							受講者数 と学生評 価の相関 係数(r)	有意性
		1~10 (5)	11~20 (8)	21~30 (55)	31~40 (13)	41~50 (10)	51~60 (16)	61~ (1)		
A	問1	4.43 (0.41)	4.16 (0.65)	4.25 (0.41)	4.26 (0.33)	4.15 (0.28)	4.13 (0.34)	4.24	-0.10	**
	問2	4.36 (0.52)	4.02 (0.64)	4.16 (0.46)	4.18 (0.32)	4.05 (0.39)	4.00 (0.41)	4.16	-0.11	
	問8	4.18 (0.50)	3.93 (0.49)	3.97 (0.45)	4.04 (0.27)	3.86 (0.54)	3.65 (0.44)	3.47	-0.27	
	問9	4.21 (0.34)	4.11 (0.59)	4.25 (0.39)	4.29 (0.22)	4.16 (0.35)	4.16 (0.33)	4.16	-0.02	
	問10	4.03 (0.64)	4.05 (0.65)	4.20 (0.44)	4.25 (0.25)	4.10 (0.41)	4.09 (0.46)	3.93	-0.01	
問11	4.19 (0.75)	4.11 (0.55)	4.18 (0.34)	4.12 (0.30)	4.05 (0.31)	4.00 (0.36)	3.87	-0.14		
B	問3	3.92 (0.55)	4.03 (0.52)	4.15 (0.30)	4.13 (0.24)	4.11 (0.29)	4.05 (0.26)	4.07	0.03	
	問4	3.98 (0.59)	4.02 (0.49)	4.14 (0.35)	4.20 (0.25)	4.09 (0.35)	3.98 (0.39)	4.11	-0.04	
	問5	3.60 (0.63)	3.98 (0.53)	4.02 (0.44)	4.12 (0.28)	4.02 (0.38)	3.76 (0.39)	4.18	-0.04	
	問6	4.09 (0.26)	3.94 (0.59)	4.00 (0.47)	4.16 (0.33)	4.01 (0.36)	3.82 (0.37)	4.04	-0.10	
	問7	3.93 (0.55)	3.96 (0.53)	4.11 (0.36)	4.18 (0.26)	4.08 (0.36)	3.92 (0.35)	4.18	-0.03	
C	問12	4.01 (0.64)	4.06 (0.54)	4.15 (0.40)	4.18 (0.25)	4.02 (0.45)	3.88 (0.41)	3.98	-0.14	*
	問13	3.97 (0.68)	3.97 (0.60)	4.09 (0.44)	4.16 (0.26)	3.98 (0.46)	3.74 (0.45)	3.98	-0.17	
	問14	4.21 (0.43)	4.02 (0.57)	4.11 (0.42)	4.15 (0.30)	4.02 (0.46)	3.84 (0.45)	3.80	-0.20	
	問16	4.30 (0.40)	4.07 (0.57)	4.19 (0.42)	4.32 (0.23)	4.09 (0.43)	3.97 (0.42)	3.92	-0.17	
D	問15	4.02 (0.61)	4.10 (0.61)	4.19 (0.35)	4.23 (0.23)	4.14 (0.33)	4.02 (0.36)	3.96	-0.06	
E	問17	4.48 (0.27)	3.98 (0.63)	4.18 (0.46)	4.04 (0.07)		4.29	0.04		
	問18	4.03 (0.29)	3.88 (0.54)	3.87 (0.54)	3.89 (0.13)		3.96	-0.13		
	問19	3.87 (0.41)	3.76 (0.58)	3.75 (0.58)	3.81 (0.27)		4.04	-0.10		
	問20	4.55 (0.42)	3.92 (0.60)	4.25 (0.38)	4.13 (0.06)		4.11	-0.02		

\* p<.05, \*\* p<.01 ( )内はSD

表9. 受講者数と学生評価の相関(ライフデザイン総合学科)

項目番号	項目	受講者数・( )内は授業数							受講者数と学生評価の相関係数(r)	有意性
		1~10 (43)	11~20 (37)	21~30 (44)	31~40 (27)	41~50 (25)	51~60 (6)	61~ (8)		
A	問1	4.25 (0.60)	4.11 (0.58)	4.05 (0.43)	3.80 (0.57)	3.78 (0.33)	3.81 (0.64)	3.78 (0.27)	-0.31	**
	問2	4.22 (0.62)	4.08 (0.61)	3.96 (0.46)	3.71 (0.53)	3.68 (0.39)	3.75 (0.70)	3.66 (0.24)	-0.34	**
	問8	4.09 (0.71)	3.93 (0.57)	3.71 (0.50)	3.46 (0.63)	3.52 (0.49)	3.58 (0.80)	3.35 (0.33)	-0.36	**
	問9	4.30 (0.45)	4.11 (0.55)	3.99 (0.39)	3.76 (0.48)	3.76 (0.36)	3.76 (0.50)	3.72 (0.22)	-0.40	**
	問10	4.35 (0.54)	4.08 (0.55)	4.00 (0.43)	3.79 (0.48)	3.76 (0.39)	3.82 (0.46)	3.69 (0.28)	-0.39	**
	問11	4.29 (0.54)	4.04 (0.51)	3.92 (0.38)	3.64 (0.49)	3.68 (0.40)	3.77 (0.52)	3.60 (0.34)	-0.42	**
B	問3	4.19 (0.55)	4.09 (0.48)	3.98 (0.33)	3.79 (0.40)	3.78 (0.28)	3.80 (0.43)	3.70 (0.23)	-0.36	**
	問4	4.25 (0.53)	4.07 (0.52)	3.90 (0.37)	3.69 (0.48)	3.66 (0.38)	3.72 (0.58)	3.65 (0.21)	-0.41	**
	問5	4.11 (0.61)	4.00 (0.57)	3.78 (0.42)	3.63 (0.42)	3.60 (0.41)	3.56 (0.66)	3.63 (0.15)	-0.36	**
	問6	4.16 (0.60)	4.00 (0.58)	3.81 (0.40)	3.68 (0.47)	3.56 (0.41)	3.56 (0.74)	3.64 (0.18)	-0.38	**
	問7	4.25 (0.52)	4.03 (0.54)	3.92 (0.35)	3.70 (0.48)	3.70 (0.38)	3.68 (0.67)	3.63 (0.20)	-0.40	**
C	問12	4.21 (0.55)	4.02 (0.51)	3.82 (0.46)	3.56 (0.50)	3.57 (0.43)	3.75 (0.52)	3.50 (0.23)	-0.41	**
	問13	4.10 (0.65)	3.97 (0.57)	3.78 (0.47)	3.51 (0.52)	3.52 (0.46)	3.58 (0.71)	3.49 (0.24)	-0.37	**
	問14	4.10 (0.60)	3.96 (0.55)	3.78 (0.48)	3.48 (0.53)	3.54 (0.48)	3.65 (0.55)	3.45 (0.23)	-0.38	**
	問16	4.26 (0.54)	4.08 (0.54)	3.91 (0.46)	3.70 (0.52)	3.70 (0.47)	3.79 (0.54)	3.57 (0.25)	-0.39	**
D	問15	4.17 (0.59)	4.02 (0.53)	3.94 (0.38)	3.83 (0.38)	3.74 (0.40)	3.80 (0.48)	3.68 (0.23)	-0.31	**
E	問17	4.56 (0.46)	4.37 (0.76)	4.33 (0.32)	4.70	3.68			-0.25	**
	問18	4.47 (0.41)	4.43 (0.66)	4.07 (0.43)	4.48	3.18			-0.44	**
	問19	4.42 (0.48)	4.38 (0.76)	4.09 (0.43)	4.13	3.27			-0.40	**
	問20	4.56 (0.45)	4.56 (0.56)	4.32 (0.32)	4.78	3.86			-0.30	**

\* p<.05, \*\* p<.01 ( )内はSD

## 授業形態との関係

授業形態には講義・演習形式と実習・実技形式の2種類があるが、この授業形態の違いが授業評価と関係があるかについて検討した。ここでいう授業形態は、教育課程表に定められた講義、演習、実習の分け方とは異なっている。たとえば、教育課程表では講義・演習に分類されている科目であっても、実際の授業形態が実技・実習形態であれば、実技・実習と分類した。授業形態の分類の規準は、アンケートにおいて、問17から問20に回答した場合を実習・実技科目とし、16問までの回答の場合を講義・演習科目とした。その結果、保育学科では講義・演習科目が61授業、実習・実技科目が47授業、ライフデザイン総合学科では講義・演習科目が154授業、実習・実技科目が26授業であった。

学生の授業評価を授業形態別に算出した結果は表10に示す通りであった。表10の結果を見ると保育学科とライフデザイン総合学科の違いが明らかである。保育学科では授業形態による授業評価の違いは、講義形態が実習・実技形態に比べて若干数字は低いが生きていて、有意差は見られず、ほとんど授業形態による差異は認められなかった。これに対して、ライフデザイン総合学科ではすべての項目において、講義・演習形態が実習・実技形態に比べて有意に授業評価が低い結果であった。2006年度のライフデザイン総合学科の授業評価の得点の低い原因の一つが授業形態に関係していたのではないかと推察される。

さらに、表10では2005年度での結果との比較についての結果も同時に示した。表10において□の部分は2005年度より有意に学生評価があがった項目であり、■の部分は2005年度より有意に学生評価が下がった項目である。保育学科では、講義・演習科目において2005年度から2006年度への学生評価の有意な上昇がみられた。学生が興味を持って取り組み、よく理解し、さらなる向上心が続くという、授業への積極的な評価が得られた結果は、2005年度の学生による授業評価を踏まえた教員の授業改善への努力の成果とみなすことができるのではないかと考えている。

一方、ライフデザイン総合学科においてはほとんどの項目において講義・演習科目の評価は2005年度よりも有意に低くなっていることがわかる。実習・実技科目については保育学科以上の評価を示しているにもかかわらず、講義・演習科目において、2005年度よりもさらにその評価が有意に低下していることが示された。

ライフデザイン総合学科の授業評価に関しては、先ほど明らかにされた受講者数による影響に加えて、授業の形態の要因が大きく関係しているのではないかと推察される。講義・演習形態の授業方法によりいっそうの工夫と努力が必要であることを示唆する結果といえる。確かに経験的に年々、講義・演習形態の授業における学生の授業態度や学習への情熱が従来の学生とは異なってきていることを感じることは否めない事実であろう。教員の授業の工夫や努力だけの問題ではないのかもしれないとも思うのが現状であるかもしれない。授業について担当教員がどのように受けとめ、感じているかについては、後に考察する「教員の自己点検報告書」の結果を参考にしたい。

## 4 教員による自己点検報告書の結果

学生の授業評価の結果と教員自己評価の結果について、自由記述で教員に報告を求めた。同一教科を複数で担当する場合は、すべての担当教員に報告を求めた。総回答数は保育学科では、168件、ライフデザイン総合学科では181件であり、教員からの回収率は保育学科では100%、ライフデザイン総合学科では99.5%であり、全体として99.7%の回収率であった。自己点検報告書への回答が教員自身の授業への態度と考えられるので、この回収率の高さは本学の授業担当教員の授業への熱心な取り組みの意識が強く感じられる。そして、この傾向は2005年度の報告においても同様であった。

教員からの回答の具体的な内容は付表に示すとおりであった。回答のうち、「今後の改善点」の内容を「改善点を具体的に明記」「改善への意識が感じられる」「結果への感想」「学校への要望等」「アンケートへの要望」「無回答」に分類し、その割合を求めたのが、図5であった。図5より、具体的な

表10. 講義科目と実技・演習科目の学生評価の比較（2006年度）

項目 番号	項目	保育			ライフ		
		講義 演習	実技 実習	有意差 (t検定)	講義 演習	実技 実習	有意差 (t検定)
A	問1	4.26 (0.38)	4.18 (0.42)		3.98 (0.53)	4.35 (0.54)	**
	問2	4.17 (0.43)	4.07 (0.47)		3.90 (0.55)	4.33 (0.55)	**
	問8	3.94 (0.50)	3.89 (0.39)		3.69 (0.62)	4.25 (0.50)	**
	問9	4.26 (0.34)	4.17 (0.40)		3.96 (0.47)	4.36 (0.49)	**
	問10	4.19 (0.44)	4.11 (0.45)		3.97 (0.51)	4.37 (0.51)	**
	問11	4.15 (0.38)	4.09 (0.37)		3.90 (0.50)	4.28 (0.52)	**
B	問3	4.12 (0.31)	4.10 (0.32)		3.93 (0.43)	4.31 (0.48)	**
	問4	4.12 (0.38)	4.08 (0.34)		3.89 (0.49)	4.32 (0.48)	**
	問5	4.00 (0.44)	3.94 (0.43)		3.79 (0.52)	4.20 (0.50)	**
	問6	4.06 (0.38)	3.91 (0.48)		3.82 (0.53)	4.21 (0.54)	**
	問7	4.11 (0.37)	4.01 (0.36)		3.89 (0.48)	4.28 (0.51)	**
C	問12	4.07 (0.44)	4.11 (0.39)		3.81 (0.52)	4.31 (0.50)	**
	問13	4.00 (0.47)	4.05 (0.44)		3.74 (0.56)	4.26 (0.53)	**
	問14	4.05 (0.43)	4.08 (0.43)		3.73 (0.54)	4.26 (0.52)	**
	問16	4.17 (0.42)	4.13 (0.41)		3.89 (0.53)	4.39 (0.45)	**
D	問15	4.17 (0.38)	4.13 (0.36)		3.92 (0.46)	4.25 (0.54)	**
E	問17		4.16 (0.47)			4.39 (0.56)	
	問18		3.88 (0.49)			4.28 (0.57)	
	問19		3.77 (0.54)			4.25 (0.60)	
	問20		4.21 (0.42)			4.47 (0.46)	

\* p<.05, \*\* p<.01 ( )内はSD

□ は、2005年度より有意に学生評価が上がった項目

■ は、2005年度より有意に学生評価が下がった項目

具体的な改善について述べられていたものが全体の 56.0%を占め、次いで「改善への意識」が 20.6%であった。いずれも教員が授業の改善に向けての積極的な態度を表しており、併せて約 76%であった。このことは、教員は常に授業を改善する態度で結果を受け止めているといえる。2005 年度の結果においてもほぼ同様の傾向が見られ、授業改善への教員の態度が継続的に見られたということは、教員が授業への改善を日々考慮しながら授業に臨んでいることを示す結果であると捉えている。

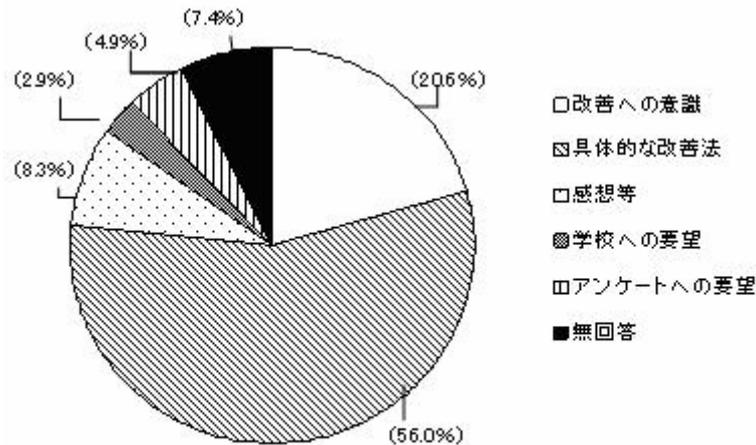


図5 自己点検報告書の今後の改善点の結果

また、2006 年度の調査では新たに学生に自由記述を書かせる方法も導入した。学生の自由記述は担当教員が持ち帰り、回収はしなかったため、回収率や内容について知ることはできないが、教員の自己点検報告書の一つの項目に自由記述についての感想も書く質問を設けた。その回答について内容を分類しその割合を示すと図6の通りであった。実施に意味がないとの回答は 2%、無回答が 22%であり、併せて約 4分の1にもなった。他の記述内容を見ると自由記述を実施することへの意見・感想が多く、全体の 47.1%であった。実施への意見等には「実施することの難しさ」「実施時間の少なさ」「記名式がいい」などの意見があった。自由記述の実施方法については今後検討の余地があると思われる。

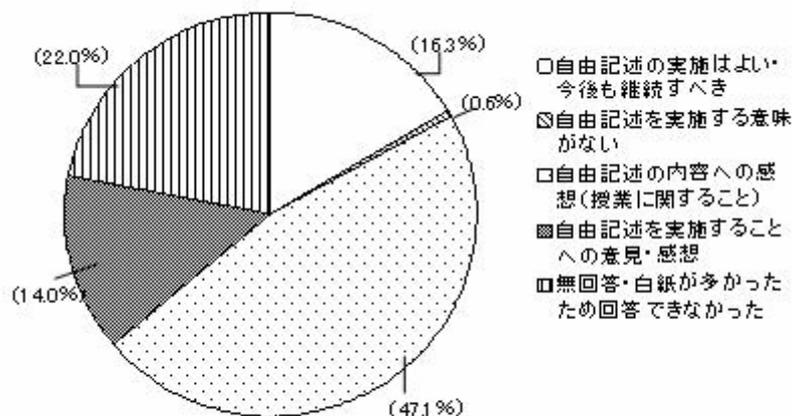


図6 自己点検報告書の今後の改善点の結果

## 5 全体的な考察と今後の問題

今年度（2006年度）の結果を見ると、授業評価項目の中で「教員の授業への取り組み姿勢」に関しては、学生の授業評価に比して教員の自己評価が有意に高いことが分かった。この傾向は2005年度において得られた結果とは同じ傾向であった。また、「学生の授業への意識」に関する項目においては学生の授業評価が教員の自己評価よりも有意に高く、この傾向も2005年度の結果とほぼ同様であった。さらに、「授業の内容」に関する項目では昨年度同様、学生の授業評価と教員の自己評価間には有意な差異は見られなかった。

この調査を実施した2年間において、学生の授業評価と教員の自己評価のズレは同じ傾向を示したことがわかる。いずれにおいても、教員は授業への取り組みへの意識や授業方法に関しては非常に意識的に取り組んでいるのであるが、このような教員の授業への取り組みについては学生には教員が期待するほどには評価されていなかったといえる。また、逆に、学生は授業に一生懸命に取り組む、ほぼ満足が得られ、積極的に自分自身の授業への取り組みを評価しているにもかかわらず、教員は学生の積極的な取り組みに関しては、高い評価をしていないことが示された。このようなところに、教員と学生の授業への意識のズレがあることが感じられる。したがって、教員が杞憂しているほどには学生は授業への達成感を感じていないことはないといえよう。

今年度と昨年度の大きな違いは、学科によって結果が大きく異なったことである。非常に大雑把ではあるが、調査項目の全体平均を求めると、保育学科では2005年度が3.94、2006年度では4.09と全体的に学生の授業評価得点は上昇している。ライフデザイン総合学科ではそれぞれ、4.11、3.93であり授業評価得点は有意に減少しており、得点も逆転していることが分かる。先にも述べたがこのような結果が、今回限りのものなのかどうか、今後の調査による長期的な推移を見て判断する必要があると思われるが、少なくとも昨年度より有意に得点が減少したことの事実については、我々教員が強く留意しておくべき問題であると思われる。

本報告では、この得点減少の原因を探るために、受講者数と授業形態を指標として分析をした。その結果ライフデザイン総合学科では受講者数と授業評価の得点とに有意な負の相関がみられた。また、同時に授業形態による違いがみられ、講義・演習形態の授業では実習・実技形態の授業よりも授業評価の得点が有意に低いことが示された。即ち、ライフデザイン総合学科においては、受講者数が30名以上で講義・演習形態の授業において授業評価の得点が低いことが明らかにされた。ライフデザイン総合学科では受講者数が30名以下の授業が全体の70%をしめており、さらに20名以下の授業が40%にも上っていること、保育学科に比べて徹底した少人数教育をしていることを考えると、今回のこのような評価の低さが何に起因しているのかをさらに明らかにし、今後、受講者数をどの程度の授業にすれば授業効果が上がるのかといった点についても、さらに検討される必要があるだろう。

保育学科の結果は受講者数による授業評価の違いはなく、全体として約半数の授業が30名で程度とほぼ平均した人数で授業が行われている。また、授業形態による授業評価の違いも認められなかった。保育学科ではほとんどの授業が必修授業であり、どの授業もクラス単位で実施されることが多く、固定した受講者による授業が多い。したがって、授業の雰囲気は上手に作られ、好循環すると授業効果はさらに良くなるのではないかと思われる。しかしながら、近年は授業態度の良くない学生もあり、教員の授業への取り組み姿勢や教員の授業への情熱を失わせる残念な現象も起きていることは事実である。このようなことは、授業中に居眠りをしたり、私語をする学生への対応にエネルギーがいるという教員の自己点検報告書からも察せられるところである。

さて、このような授業評価について、学生の本音を聴くことを意図して、学生に自由記述を書かせて、担当教員に読んでいただいた。学生の自由記述用紙の委員会への提出は求めなかったが、教員の中には「学生の本音が言葉で聞けた」、「学生の授業の捉え方が実感できた」など積極的な意見もあった。しかし、「学生がきちんと書いていない」、「白紙で提出する」、「書くための時間が不足している」、

など今後検討の余地があると思われる意見がみられた。これらの点に関しては 2007 年度の実施に際して改善していきたいと考えている。

ところで、2 年間続けて実施した結果、実施方法についての問題点が FD 委員会で指摘された。それは、授業評価は前期、後期の最終の授業において実施されるのであるが、この方法では、この時期に集中して学生達は毎時間授業が終了するたびに評価することになる。毎時間の評価が 1 週間も続くと、評価者である学生が真剣に評価しているのか、あるいは評価することへの倦怠とも言うべき気持ちが生まれにくいともないと思われる。そこで、次年度からはこのような問題点をできるだけ少なくするように方法を考えることもひとつも問題点として提起したい。

今回新たに導入した学生の自由記述が予想に反した結果であった。アンケートと同時に実施することによって労力的、時間的にも学生に過重負担をかけてしまい、適切な回答が得られなかったのではないかとと思われる。いずれも実施の時期や方法について、今後検討の余地があることが指摘され、これらのことを改善しながらより良い授業に向けての授業評価のあり方を検討していきたいと考えている。

また、結果の分析においては、1 年生と 2 年生を分けずに分析しているが、学生の授業への動機づけや熱意などを考慮すると、学年によって授業への姿勢が異なるのではないかと予想される。学生の授業への関わり方という点からすると、学年を一つの指標として分析することも必要ではないかと思われる。この点も次年度においてとりあげてみたいと考えている。

## 6 要約

2006 年度のすべての授業 (349 授業) について、昨年度に引き続いて授業評価を実施した。学生による授業評価は 5 段階評定法によるアンケートと自由記述の 2 つの方法で行い、教員の授業評価は 5 段階評定法による自己評価と自己点検報告書の 2 つを実施した。結果は、「授業への取り組み」では教員の自己評価が学生の授業評価よりも高く、逆に「学生の授業への取り組みや意識」に関する項目では教員の評価よりも学生の授業評価の方が高かった。

学科によって結果に大きな差が見られ、保育学科では昨年度に比して授業評価が高くなったのに対して、ライフデザイン総合学科では昨年度に比して今年度の授業評価が有意に低くなった。また、受講者数と学生の授業評価には負の相関が見られ、授業形態による分析では「講義・演習」形態が「実習・実技」形態に比べて授業評価が低いことが明らかにされた。

付表 「教員による自己点検報告書」—学生の授業評価より—

科目名	担当者	学生による授業評価調査の集計結果について	教員による自己点検評価と学生による授業評価について-昨年度の結果と比較して- (分析と問題点)	学生からの「自由記述」について	今後の改善点について
子ども文化	淡路和子	ほとんどの項目で40%以上の学生が(5.そう思う)というよい評価であった。問8(板書は適切であった)という項目には授業の性質上、回答しにくいのか、学生と教員の評価に隔たりがあった。	配布資料・視聴覚教材などの授業準備面、聞き取りやすく話すこと・静かな環境作りなどの点で、学生から予想以上に良い評価をうけた。		教室の大きさと移動式白板のアンバランスについて善処したい。
子ども文化	島長恵美	毎回書かせて頂いておりますが、この授業は純粋な講義科目としての内容だけでなく、お話を読んだり、制作をしたり、体を動かしたりと実習的な内容も多いので、問8の板書については、よろしく理解下さい。	学生と教員の評価に差がある点については、前出の通り実習的なことも含めた盛りだくさんの内容にしているため、教員側の「あれもして、これもして」という気持ちに比べて、学生によっては何に集中したらよいのかとまどうケースもあったのではないかと考えられます。	無記名なので、具体的な感想等も書かれていてよいと思います。	保育者として必要なことを常に学生に伝え、そのために学生の間に行うべく、今後とも努力していきたいと思えます。
子どもの美術	木村和照	ズボラな授業に高い評価をもらい恐縮している。	自分の姿勢が変わりがないので、学生の質による変化と考えられ、私個人としては、比較できない。	この記述に30分～40分の時間が必要で、90分の授業の実施にウエイトを置くなら問題ではないか。	特に考えていない。
くらしと環境	藤田真一	学生授業評価集計結果について、有効回答数24から1名の学生が1のそれは思わないと記入すれば、その全体の割合は約2.5%となりますので、1～2名の学生が該当します。問8の板書は適切であったかの項目意外は3以上であり、ほぼ平均的な授業であったが、平均が4に近い評価であり更にこの値に近づける努力が必要である。	昨年は本学での前任者のシラバスによる最初の講義担当であったので、対象学生の実力把握が充分でなく、若干の戸惑いを感じたが、2年目の今年は自分のシラバスであるため、講義の内容・進度などにやや無理が生じた気がする。教科書を使用せず講演調の授業であり板書もほとんどしなかったことが、問8の項目の評価の結果につながったものと考えられる。時間がかかっても丁寧な板書が全体の理解に必要である。	自由記述欄に意見・指摘など記入してくれる学生は少なく、ほとんどの者が無記入であった。授業のなかでの感想文など書かずと記名のためか2～3名をばらばら書いてくれたのに残念である。	学生の学力の差が非常にあるように感じます。中には講義を受ける資格を疑われるような態度の者もいます。担当者として授業中での注意は多くの学生も不愉快でしょうし、したくないことです。授業科目「くらしと環境」は学生自身が自由に考えてくれるような講義形態を目指しておりますので、楽しい授業と感じてくれればと願っております。
日本国憲法	沼口智則	全体として3のどちらでもないというアンケート結果の比重が20～30% (設問にもよるが)くらいあり、5分の1から3分の1ほどが態度保留にちかかった。	問3のシラバスに示された目標や内容は一週ごとのチェックもあり、こちらとしてはその通りに進んでいても、学生の評価は3どちらでもないが32.2%、4どちらかといえばそうおもうが30%、5そうおもうが32.2%という結果であり、全体を4ないし5にもっていく必要がある。シラバスも含め、学生の評価と私の自己点検評価の多少のくいちがいが設問によってはみられた。	特にありません。大変よい試みだと思っています。	授業の難易度のレベルは、学生の理解度を重視し、わかりやすい授業を心がける必要がある。こちらに熱意があっても、それを学生に十分伝える方法や工夫が必要だと思ふ。
英語(英会話A)	G.A. Moulden	Some students thought the level of the class was too difficult. They wanted me to explain things more to make it easier. Their ratings were lower than my ratings.	I think this year has been better because I am accustomed to the textbook. I think the students have worked hard. The classes have gone more smoothly.	The students who like English enjoyed the class. The students who find English difficult did not like the class as much.	I will continue to use prints as much as I can because students still complain about my writing on the whiteboard.
英語(英会話A)	井上泰子	2クラスのうち、1クラスはプールのあとの授業であったり、両クラスとも狭い教室に詰め込みで、やりにくい面があった。保育士に必要な内容をできるだけ楽しく教えたいという気持ちだけは伝わったように思われる。	自己評価では、まずまずの出来と思っていますが、英語が苦手な学生もあり、欲張りすぎて、理解が不十分なところもあったのではないかと。教材を精選して、丁寧に教えることが大切であると思った。	英語の歌を取り入れるなど、楽しい授業で、英語が好きになった、英語の使える保育士になりたい等、積極的な意見が多い一方で、難しく分からなかったという学生も少数ながらいた。	後期は教室も変わるので、もっと生徒の参加を促す工夫をしたいと思う。前期でも毎時間プリントを準備して、作業を取り入れてきたが、プリント教材をさらに魅力あるものとするよう工夫を加えたい。
スポーツⅠ	鎔 功	全体的にいい評価をしてもらったと思う。	自己評価と、学生評価との差がなくよかったと思う。	学生の自由記述を見ていないので、わからない。	授業で課した課題の量は適切であった間で、それは思わないが他に比べて多かったので、適切な量を考え、今後の課題としたい。
スポーツⅠ	黒石久昭	体育の水泳は、特に女性からは敬遠される種目であるにも拘わらず、評価点が4.2と高いのには、驚いている。質問項目の中で、課題の量の項目において、やや低い得点が見られるのは、やはり、平泳ぎ・クロール・背泳ぎ・バタフライの4泳法の課題が学生にとっては、かなりのハードルになっているようである。しかし、全体の7割の学生がこのハードルをクリアしていることは適切な課題ではないかと考えている。	授業の難易度に少し、学生の抵抗がある。	出来る学生にとっては、楽な授業であるが、出来ない学生にとっては、かなりの苦痛がともなうので、レベルにあった指導をさらに徹底させる必要がある。	不得意とする学生への個別対応の必要性を感じた。
保育者基礎演習A	近藤淑子	2年目の授業なので、私自身の少し工夫した点、学生たちの評価もアップしたようです。教室がリハ学科で、静かに授業ができたことが、みんなが落ちついた気分で授業に参加できたと思います。	クラスによって持っている雰囲気の違い、私も微妙に違っていたと思えます。相手あつての授業なので、授業内容になかなか統一が取れません。	学生自身が参加することが多いので、楽しかったという意見が多いでした。	人と話すことが多い授業なので、どうしても苦手な学生もいます。できるだけ一言でも話せるように努力したいと思います。

保育者基礎 演習A	工藤真由美	学生から全項目で学内平均を上回り、非常に高い評価をいただいたことは大変喜ばしいことと思われまます。さらに授業改善に向け精進したいと思います。	学生の授業に対する取り組みが、教員からはさほど熱心には思われないのであるが、学生自身の自己評価は、授業に熱心に取り組んだことになっている。このギャップは、教員の学生への期待の大きさを示しているものか、学生の自己評価の甘さなのか、今後も注意深く見守って生きたい。	ほとんど記述なしの学生と、授業に関係ない記述の学生に分かれたが、教員と学生とのコミュニケーションと考えれば、できるだけ記述を促していきたい。	学生自身の頑張りや変化を学生自身の目に見えるような形で提示できれば、ますますやる気を出してくれるのではないかと。学生が甘い自己評価ではなく真の自己評価で十分頑張ったといえるような授業形態を模索したい。
保育者基礎 演習B	石村哲代	受講者が1年次生であることもあり、出席率も高く授業態度も良い。また授業内容も専門的な内容ではないので、進度も急ぐことなくゆっくりとしたペースで進めることが出来る。このような授業についての満足度は高いようである。	総じて学内平均、自己評価を上回る結果であった。日常的で身近な問題を捉えた内容なので、理解しやすく興味をもって受講することができるためであろう。	コメントは総じて簡単で、要望などはほとんどみられなかった。	本授業は人間関係スキルをマナーの面から学んで貰うというのが主目的である。目前に控えた実習や最も関心の高い就職試験などに必要ということで熱心に耳を傾ける。しかし頭ではわかっているにもかかわらずなかなか実践に結びつくまでには至らない。形だけではなく、精神面での成長にむすびつくような授業の展開をこころがけていきたいと考えている。
保育者基礎 演習B	淡路和子	学生の回答で5が45.4%、4が28.2%、合計73.6%の評価を得た。とりわけ、問1(話し方)問9(熱意)の項目において、73.9%の学生が5(そう思う)と回答し、予想以上の評価であった。今後も努力したい。	学生の受講態度にばらつきがあり、困る面もあったが、根気強く注意し、静かな環境づくりに努めた結果、問11で、5.4の合計が87%という、予想を上回る評価を得たのは嬉しい結果だった。		問13について特に悪い評価ではなかったが、授業の難易度について、再検討したい。
言葉と表現 I	工藤真由美	学生から全項目で学内平均を上回る高い評価をいただいたことは大変嬉しく思います。今後も精進して行きたいと思えます。	学生の自己評価とのギャップとして毎年気になるのは、質問13「授業内容をよく理解することができた」が、教員の評価よりも上回っているということである。教員が求めているものを学生にもっと十分に伝える努力が必要だと痛感している。	教員との距離が近いと逆に正直に書きにくいのかも知れない。正直な要望などが記入される方法があればよいと思う。	教員が学生に望む授業で身につけて欲しい知識や技術のレベルを明確にせず明示することで、学生の本質的な理解度を高め、教員と学生相互の評価のギャップを埋めていきたい。
音楽 I	麴谷さつき	予想していたより、評価は良い結果になっています。今年度より、指導教材を今までの教材に加え、新しい教材を導入しました。後期の授業をまたなければ結果はなんとも言えませんが、学生の成績の結果を考察し、指導内容の工夫・改善に努力したいと思います。	毎年、学生の能力が違うので、卒業するまでに、いかに現場に適應できる能力を身につけさせるかが大変です。最近の学生の傾向なのか、自主性に乏しく自ら工夫して努力することが苦手なようです。教員と学生の考え方のギャップをバランスをとってレベルアップを考えながら如何に指導していかなければならないか、毎年変わらず悩むところです。		良い評価は参考にし、学生側にとって充分でないと思われる項目については、指導教員も毎年悩んでいるところであるが、その中で、やはり努力して頑張っている学生もいるので、問題になっている学生(言われたことをしない、宿題をしない、練習しない、授業中私語が多い等、一部であるが)が、できるだけ前向きに取り組めるよう指導・内容を考えたいと思います。
音楽 I	杉田清子	学生は全体的に積極的に授業に満足したように見受けられる。ただ時間が少ない(問19)と感じている点について対策を考えなければならない。	自己評価と学生評価に大差がない点、あるいは自己評価だけ極端に良かったという点がない点、前回より学生の理解に近づいていると思われる。	この授業では、前期は4人の学生しか見ることができないので、クラス全体の意見を知ることができて新しい発見である。	学内全体の平均も参考になるが、「音楽 I」であったら、4クラス分の「表現(音楽)」も4クラス分の平均があったらもっと参考になる。
音楽 I	淡路和子	ほぼ予想通り結果であった。平均値では4.5、の合計で66.9%の学生からよい評価を得た。問8について、実技科目なので板書の必要性は少なく、学生は回答しにくいようだ。	ピアノについて、初心者が多いので、読譜力・テクニックの基礎力をつける教材を工夫した。難易度、満足度の項目に結果が表れたように思う。		ピアノについては今後とも、各学生の個人差に留意し、課題・教材について配慮したい。
音楽 I	石崎利子	殆どの項目において、4.0の平均値を得た。但し実技科目への回答では、平均値を全ての項目において下回りました。課題量や時間不足が重荷になっているようです。	昨年度の結果では、学生評価と自己評価は概ね似通った数値でしたが、今回は差異が見られました。課題量や時間不足は昨年度同様。加えて授業での話し方も不十分な面があったようです。	学生自身の言葉でより具体的な希望が聴けてよかったです。ただ最終授業の限られた時間内での自由記述で、白紙等もありました。役立てるのなら十分時間をとりたいたと思います。	前期中の授業や試験に真面目に取り組んだ学生達は、確実に力をつけたと思われませんが、自分では実感が持てないようです。意欲的に勉強を継続できるよう、課題を吟味し、サポートしたいです。課題量については、個人レッスンの授業形態を生かし、個々の力に見合った学習方針を確認し合いながら、向上につなげたいと思います。授業での話し方については、聞きとり易い話し方、環境づくりを心がけたいと思います。
音楽 I	大村満子	学内平均の評価より高い到達度を得られて、満足しています。	授業内容に関しては、役に立ち、身につける必要性のあるものと学生も認識しているようだが、課題の量が多く感じている様子が残念な気がしています。	特にありません。	テストの回数が多くなり、学生が課題に追われている感覚をもったと思われる。前年より課題量は減らしているのに、いかに学生のやる気を引き出すかという方向に改善する必要があるのでは？
音楽 I	野間路代	ほとんどの質問が学内平均を上回っているのに、実技系の設問に対しては学内平均より低い回答が目立つ。特に問18、19は低いというところからみて、課題の量とそれに取り組む時間が適切でないようだ。課題を考えなおす必要がある。	昨年度もそうだったが、教員の平均のほうが、学生のものより高い。特に差がひらいているものについては、よく見なおし、改善すべきであろう。	書かない学生もいて、初めはどうだろう…?と思ったところもあるが、読んでみると「楽しかった」「面白かった」「勉強になった」という意見がたくさん見られ、よかったと思う。	やはり学生の課題に取り組む時間をよく考えて課題を出さないといけないようだ。
音楽 I	淡路和子	個人レッスンを含む複数担当者科目であるが、問9～12で高い評価を得たことから、教員の熱意が学生に伝わったことは嬉しいことである。特に問9では5そう思う、が9.2%、4どちらかといえば5そう思う、が26.9%で、合計95%以上の学生が熱意を受け止めてくれた。	ピアノについては個人差があり、授業の進行速度について、思ったより評価が低い結果だった。		教員の熱意についての評価が高い割には、授業の難易度と進行速度の項目で学生評価は思ったより低い。ピアノ実技は授業時間に加え、自習の必要性が高いので、意欲を高めるよう、工夫したい。

音楽 I	増谷尚子	自己評価に比べて、学生評価が全体的に下まっている。学内評価も非常に低いように思う。	一昨年度と比較してもやはり学生評価が下回っている。学生の授業のとりくみ方にも少し問題点はみられるとおもうが、教員側にも改善する点があると思う。	しっかり意見を記述してくれている学生もおり、こちら側も色々工夫ができた。	学生からの目線で、ものを見ることも必要だと感じました。学生をひっぱっていく為にも後期から色々対策をねり、頑張ってきたいです。
音楽 I	大森由美子	ほぼ全項目に学生は満足しているという結果が出ている。	昨年の反省点から今年は課題を学生のレベルに合った教材にし、時間的にも無理のないように配慮したので、高評価につながったと考えられるが、ピアノの実技低下にならないよう注意が必要。	学生の率直な意見を知ることができ、よかった。	
音楽 I	向山裕子	音楽 I の授業内容、目的等をほぼ全員の学生が理解し、授業に臨んでいる様に思います。	受講者が少ない為、全員に目が行き届き、よい結果につながっているようです。ただ、この授業は土曜日の為、回数が少なく、第二土曜等で授業が抜けるとなかなか次へ進めない学生もいます。	「ピアノが難しい」という意見が多かったです。学生の気持ちが分かり良いと思います。	トータル授業時間はクリアできていても、回数が少ないとピアノのレッスンは進めにくいところがあります。進度の遅れている学生については、夏休みにも呼び出し、レッスンを行っています。ライフデザイン総合学科の学生及び際履修の学生も自主的に練習に来てとどんどん進んでもらえれば良いのですが…。
図工 I	木村和熙	ズボラな授業に高い評価をもらい恐縮している。	自分の姿勢が変わりがないので、学生の質による変化と考えられ、私個人としては、比較できない。	この記述に30分～40分の時間が必要で、90分の授業の実施にウエイトを置いたら問題ではないか。	特に考えていない。
図工 I	中路規夫	もっともだと思う。	私ひとり指導するには、25名の人数では多すぎる。授業内容も高度で量も多すぎる。この内容なら、10名までが限度と考える。	最初は良かったという意見がある。課題の多さ、内容の密度、完成度 etc、最初はみんなついてこようとするが、時間のなさ、人数が多すぎて、私のアドバイスを待つのに疲れ、あきらめてしまう生徒が出てくるのが残念。	人数を少なくするか、課題を減らし、じっくりと指導できる環境が欲しい。
図工 I	元木昭治				問5、6、18、19は特に関連していると思う。授業の課題内容は、絵画の基本を学ぶ要素として最低限の内容で構成されており、課題によってはもっと展開させたいものもある。基本を土台として感覚と一体となって現われるのが技術であり、それを総合したものが作品である。学生1人に当てられる数分という時間を基本とのかかりで再確認する。
幼児体育 I	黒石久昭	高い評価を相対的に与えてくれているとおもう。	昨年同様、高い評価を与えてくれているが、昨年同様、課題の量、時間に若干の問題点があるのでそこを少し改善したい。	面白かった、楽しかったなどの情緒面での感想が多く、課題の質的側面の感想が少ないのは残念である。	課題の質的側面の改善を検討したい。
保育学原論 I	山田秀江	昨年度と同様、授業の難易度、進行速度、また板書についても学内平均より低くなっている。保育の原理について理論的なことを説明するのに、分かりやすい言葉で説明しなければ理解できないようである。どれをとっても大切な内容であり、こちらは丁寧に教えているつもりでも、学生が理解できず、意欲を失うようなことがあってはならないので、さらに、学生のレベルに合った教え方を考え直さなければと思っている。	昨年度よりは授業の内容が理解しやすく、また記録しやすくなるようにプリントの工夫をした。書くことが苦手な学生が多いので、聞きながら書けるように、書くことを精選し、板書もできるだけ丁寧に書くようにした。それでも結果は学内平均より低いので、さらなる工夫が必要だと思われる。	きちんと学ばなければならない内容だとは分かるが、進むのが早くで理解できないという意見があった。教えるなければならないことが多いので、精選してじっくり進められるように努力したい。また、私の実践について話をきくのがとても為になったという意見が多く、理論と実践を結びつけて考えられるよう工夫したい。	できるだけ実物教材を用いたり、視覚で理解できるような教材や板書などの工夫をしたりすることにより、理論と実践を結びつけて考え、理解できるような努力をしなければならぬと感じている。
発達心理学	近藤淑子	授業の難易度の項目が一番低く、内容がむずかしいのかなと反省しています。まったくの講義タイプの授業にしてはいい評価と思います。	内容は昨年より量的には少なくなっていますが、学生の理解が良くないと思いました。講義タイプの授業に不慣れということもあるのでしょうか。	こちらが心配する程でもなく、前向きに感じている学生が多かったです。	視聴覚機器などを取り入れてやるべきか、講義形式で続けようか考えています。
小児保健	吉田和重	学生評価については3項目、学内評価を下回っている。授業改善点として考えなければならない。	学生評価より高い項目がいくつかある。自己満足な授業にならないようにしたい。	記述なしが多かった。少しの学生は専門用語が良くわかりにくいとあった。そのつど理解できる様、説明していきたい。	学生評価は自己評価を上回っているが授業の質を落とさないよう努力していきたいと思う。
社会福祉	合田 誠	各設問に対して教員側の考えていた度合いとほぼ比例していた。つまり、教員側がしっかりと取り組めた項目に関しては、学生も相応の評価をしていた。反面、難易度のレベルや進行度に関しては、教員の受け取り方と同じ傾向で数値が低い結果が示されていた。	昨年度と比較すれば、今年度の受講生は、こちらの抱いたイメージに近い評価をしていたといえる。	教員の熱意ある姿勢を評価する感想や現実の生活に直結する講義内容のため、将来的にも非常に役立つ内容であったとの感想を書いた学生があり、教員の励みになったものもあれば、「黒板を消す際に粉が飛んできたので消し方に気を付けてほしい」など授業内容とは全くかけ離れた感想を書く学生もおり、自由記述に関しては参考意見を聴取できることもあるが、ほとんどは参考になるに至らない内容が大半を占めている。	昨年度も感じたが、本教科は保育士資格を取得するための必修科目であり、厚生労働省から例示されている授業内容を実施していくには、現在の対象学生のほとんどが相当の困難を要する。提示されている授業内容を相当言葉を安易にして、理解できるギリギリのレベルまで下げているが、これでも残念ながら約半数は理解力不足のため、単位修得に苦しんでいるのが現状である。この現状を打開するためには、学生の学力を考慮して、より時間を掛けるの反復学習的方法を取り入れる必要がある。つまり、学習期間を半期から通年に伸ばすのも方法ではないかと考えている。

保育内容環境	森宇多子	学生の評価については「あ、そうか」と受けとめている。時代に合った学生評価は納得するが、ひとりひとりの学生が授業内容をしっかり受けとめていたかは疑問に思う。	貴短期大学で授業ははじめてであったため、自分なりに努力したつもりです。1限目は遅刻が多く、座ると話し、静かだと眠り、この学生には私自身戸惑い、この空気をどうつかんで授業することの難しさを感じた。	内容については「現場の先生…」とか「よかった」「つまらない」などであったが、書いている学生のほとんどは一行程度であった。	少子化社会で生まれてきた学生は、主体的に学ぶにはどう対応し、関わっていけばよいのかが、私の今後の課題と考える。
保育内容言葉	曾和 信一	問9の「授業は熱意をこめて真剣に行った」という項目への評価が最も高い数値となっている。その一方で、問12の「学生は授業に興味をもって熱心に取り組んでくれた」という評価が最も低くなっている。教員の授業に取り組む姿勢と学生の興味・関心とが乖離しているという結果になっている。	昨年度の学生による授業評価全体の平均値に対して今年度の学生による数値は若干低くなっているが、有意差がみられるほどの開きではないといえる。教員による自己点検評価について、学生による授業評価の傾向とほぼ同じ傾向が見受けられる。つまり、教員と学生の両者の間には、授業評価をめぐるの齟齬をきたしていないといえる。	学生の素直な表現による自由記述が多くみられた。学生による授業評価の問題点の指摘について、謙虚に耳を傾けていき、今後の授業に反映させ、活かしていきたいものである。	学生が集中できる静かな教育環境をつくるべく、学生への注意を促していきたいと考える。そのことと共に、授業担当者である私がなぜ静かで集中できる教育環境を必ずしも整えられなかったかということについて反省し、その具体的な方策を立てていきたいと考える。
保育実習 I A	山田秀江	全体的に非常に高い評価をいただいたが、実習の事前指導がおもな内容なので、学生も興味を持つことができたのであろう。しかしもっと内容を充実させていかなければと思っている。	評価は高いが、実際実習に行った後もう一度評価してもらう必要があると感じている。	具体的な保育技術について実践したり、保育実習の手続きをしたりという分りやすい時間だったので、とくに意見はなかった。	学生の評価とは関連しないが、短大に入学してわずか4ヶ月足らずの時間に、実習へ出すための準備をしなければならぬ。事務的なことや、記録や指導案の書き方、マナー、保育技術など教えるべきことが多すぎて、一つ一つ丁寧に取り組めないのが大きな問題点である。効率よく重要なことを教授できる方法や、内容をさらに考えていかなければならない。
英語 II (リーディング)	井上泰子	選択で、少人数の授業なので、コミュニケーションはよくできたと思う。教材は、英語の苦手な生徒には難しかったのではないと思う。	毎時間、注釈のプリントを用意し、できる限り、理解しやすく、説明したと思う。教師の熱意は分かってくれて、学生が同じ位授業内容に関心を持ってつかどうかは難しい。長い目で見て、新しい未知の世界に目が開かれたことに気づいてくれればと思う。	はじめは、どんな授業になるのか心配だったが、人数が少ないのでよく分り安心したとのことである。	通年で、物語を1冊読むことになる。保育にかかわる者にとって大切な感性を磨いていけるよう、物語の内容や背景についても考えさせたい。より深い読書によって、英語で読む楽しさを知り、異文化への関心を深めさせたい。
情報基礎	渡邊伸樹	特にありませんが、評価について毎年同じような傾向があります。したがって、質問項目等(授業科目や授業形態、学生の人数に応じた)改善が必要かと思われます。	自己評価と学生評価とあまり関係がないと思われますので、自己評価の必要性はないかと思えます。	特にありません。	もう少し他大学等と比較しながら改善するとよいと思われます。何年も同じようだと、授業評価が形式的になっていくため、簡易的にしたり、項目を絞ったり、やらずに他の方策をとる大学もあるとのこと。
情報基礎	守屋誠司	実技・実習関係での評価が低い。本人の練習度合いで能力差が大きくなったかと思われる。33名中数人が特に遅れてしまった。	授業中で機器操作に習熟することは難しいので、空き時間に自習をする必要があるが、それができていない。学生は良く理解できたと評価しているが、教員としては不十分である。特に入力速度やマニュアルを自分で読む力が付いていない。	授業の進め方が早いという意見が多くあった。今後は、もう少しゆっくり進めたい。	徐々に個人差が大きくなるので、課題を確実に実施し提出する習慣をつけさせたい。また、1回生前期に開講して、学んだ技能を他教科や学校生活全体で使える機会を増やすことが、習熟に繋がると考える。
音楽 II	石崎利子	学生達からは平均(1~20)4.63の非常に高い評価を得ました。毎週の授業での手応えからは予想を越えた値でした。	学生評価が大きく自己評価を上まわり、少し控えめに自己評価しすぎた感があります。最も学生評価の低かったのは、課題に対する時間の項目で昨年と同様。	学生自身の言葉でより具体的に授業に対する希望がきけてよかったです。	今回の学生評価＝学生たちの向上心として受けとめ、今までにも増して各人の学習計画を綿密に立て、保育士としての実力を身につけてほしいと思います。
音楽 II	麴谷さつき	予想していたより、評価は良い結果になっています。しかし、課題に取り組む時間について、やはり学生の能力に差があるためか、充分でないことは気になります。…	全体的には良評価だったと思います。真面目に取り組んでいる学生は、バランスよく授業できていたのではないかと思います。しかしながら、現実問題、現場に適應できる能力を身につけなければならないので、進度の遅い学生や、あまり取り組みに充分でない学生については大変だと思います。		現在の2年生の様子から、一年生のつちにさらにレベルアップを計れるよう、教材を見直し、実行中ですが、2年生も特に進度の遅い学生、取り組みの充分でない学生についての指導を強化しなければならないと思います。
音楽 II	木谷祐子	課題に取り組む時間に対して、余裕がないと感じていることが分かる。	教員自身の評価と学生の評価に多少の差があるように感じる。		課題の量については、2年間で読譜力や演奏技能をつけるためには、減らすことはできないので、学生に対しては、励まししながら進めていけるよう、こちらも努力が必要だと感じます。
音楽 II	吉岡紀子	全ての項目で授業内容を理解し、意欲的にとりくめている。その中で“どちらでもない”という評価が実技などの項目に見られる。	こちらの目的、こうあってほしいという考えをよく理解し、授業、授業のための準備(各自の練習など)に取り組んでいると感じた。	1人1人が授業のあり方、内容についてどう思っているか明確に分かり、個人対個人だけでなく、全体的な授業のあり方を考えることができ、よいと思う。	授業をうける全ての学生が授業を受けようでの最終的な目標、意味を理解し、より深く、興味をもって取り組めるよう、指導や計画をすべきたと思った。
音楽 II	大村満子	学内平均よりも高い評価に到達しているようで、満足しています。	教員の立場としては、全力で授業に取り組んでいるので、学生の評価もより高く到達してもらえることを期待していますが、結果的にはほぼ満足のいく内容になっていると思います。	特にありません。	音楽の指導といってもより学生の立場に身近に接して学生の将来に役立つスキルを身につけられるよう努力したいと思います。

音楽Ⅱ	島長恵美	選択科目でもあり、学ぼうとする意欲をもつ学生が集まっているためか、学生の意識が比較的高いように思いました。	毎回書かせて頂いていることですが、問8板書については、音楽Ⅱ—特にピアノの個人レッスンではほとんど板書をする事が無いので、評価を記入する際に教員のほうにも戸惑いがあり、この結果になっていると思われます。問19与えられた課題に取り組む時間の項目ですが、昔の学生に比べて今の学生はアルバイトなのかプライベートで忙しいのか、ピアノを練習する時間が短いです。積み重ねが大切なのでたくさん練習してほしいのですが、皆忙しいようで難しいです。	無記名なので、具体的な感想等も書かれていてよいと思います。	2年生は就職のことも身近に迫り、意欲のある学生は前向きです。その意欲を大切に、また目標の定まらない学生には適宜アドバイスをしながら、有意義な授業をしていきたいと思えます。
音楽Ⅱ	角野美穂	全体的にみて、学生はこの授業の内容について満足しているようです。	昨年と同様、学生は課題の量が多く、時間が足りないと感じているように思います。限られた時間の中で、しっかりとした実力をつけるためには、1人1人のレベルに応じて、どんどんたくさん課題を出しています。	「自由記述」はとても興味深く読みました。学生の様々な感想を知るのも大切なことだと思います。	ピアノのレッスンは個人レッスンなので、就職対策など、1人1人の学生の実情やレベルに気を配りながら、更に高い学力が身につくように引っ張っていきたく思います。
音楽Ⅱ	増谷尚子	「どちらかといえば」の結果がほとんどである。「そう思う」が1つもないのが少し問題に感じる。	自己評価と学生評価がほぼ比例している。一昨年度よりは少し学生評価も安定しているように思う。	学生からの「生の声」を聞くことができてとてもよかった。授業が進行しやすくなった。	今回は、学生評価がまあまあよく、色々な点で昨年度より結果が出せているように思う。
発達心理学Ⅱ	近藤淑子	保育学科のカリキュラムでは数少ない選択科目なので、本当に興味のある学生が履修しますので、いい評価が得られたと思います。	今年度の学生はとてもやる気のある学生たちでしたので、授業をしていても楽しかったです。	私が楽しいということは、学生たちも楽しいということでした。そのような記述が多かったです。	学生たちの希望も取り入れた内容にしているのですが、どうしても青年を対象にした発達に偏りがちです。この点についてよく考えていきたいです。
小児保健実習	吉田和重	学生評価については、総合平均4.43であった。全ての項目において学内平均を上回っている。良い評価をもらったと思う。しかし4項目について、0.3%の学生が1である事には今後の反省点がある。	すべての項目が自己評価を上回った。昨年度と比べると、昨年度は学内平均を下回る評価もあった。	授業は全体に楽しく受ける事が出来たと記述があった。実習授業の為、学習効果がすぐ目の前で期待出来たのだと思う。	学生の評価は学内評価と自己評価を上回っているが、より一層努力していきたい。
小児栄養Ⅰ	石村哲代	保育士資格取得のための必修科目であるので、毎時間書き込み用のプリントを用意し、試験の時に持ち込めることを前提に、しっかりと授業を聴き、プリントにまとめるように指導した。しかし授業評価の結果からみて、やはり速すぎる、難しいなどの不満が解消されていないようである。	昨年度の結果を踏まえて、授業内容を減らし、ゆっくりとした授業の進行をこころがけたつもりであるが、昨年度とほとんど変わらない結果であった。これ以上内容を減らすことはできないので、方法についてさらなる工夫が必要と考えている。	専門科目であるので、具体的な不満や要望が把握できるかと期待したが、改善の参考になるようなコメントはほとんどみられなかったのが残念である。	授業の質を落とすことなく「授業内容が理解できない」、「スピードが速い」という声にどう応えていくかが、今後の課題である。視聴覚機器の活用や課題形式の授業展開などを図り、満足度を高めたい努力をしたい。
乳児保育	福岡貞子	毎回の結果は学内平均が高すぎるように思う。	学内平均より、福岡の自己点検数値が高い設問は、問11、問13、問14がある。授業の最後に要点やキーワードの説明をミニレポートにしているが、成果が見られる。	授業中に副教材として作成する。実習に活用できる絵カード、ゲーム、フェルト人形などを喜び、実習に使いたいと書いていた。	90分の授業を講義、演習、教材製作など集中度を高められるような工夫をする。2年生の通年授業であるため、保育界の動き、関連法規の改正など、保育士としての総仕上げを目指す。
児童福祉	牧野一元	思っていたより好意的に評価をしてきていた。くいついてきてくれた学生が必ずしも試験結果が良かったとは限らないが、おおむね内容に批判的でなくて安心。	興味を持ってもらえるよう雑学もまじえながら講義させてもらったが、これがわりと理解しやすかったにつながったのだろうか。	面白いけどノートがとくに難しいという意見を聴いたり読んだりしたが、ノートを提出してもらった多くが要点筆記だけで、これでは後から読み直しても何のことか分からないだろうなと思われた。	板書の量を多くし、ゆっくり話ように気をつける。テキストからあまりはなれて背景に時間をとら過ぎないように、主題を分かりやすいように説明しよう。
家族援助論	曾和 信一	学生による評価平均値を基準にしてみると、問9の項目の値が最も高く、問13、問14のそれが最も低くなっている。しかしながら、各項目間のその平均値から照らしあわせてみると、有意差がみられるほどに顕著なばらつきは認められないといえる。	昨年度の学生による授業評価全体の平均値から今年度のその平均値をみると、その数値は高くなっており、ある程度の改善がみられるかもわからない。しかし、評価する学生が異なるので、そう断定することは慎みたいところである。	授業の評価者が2年次の学生ということで、授業への批判を含めて、建設的な意見を自由に記述してくれたと思う。その記述を最大限に尊重して、授業の改善の手がかりとしていきたいと考える。	学生自身が当該の授業内容を深めるために、まず学生の生の声を真摯に受けとめたいものである。そのことをふまえて、教員自らの人間性ほもとより専門性の深まりと広がりを基底にして、より一層の自己研鑽に動んでいきたいと考える。
社会福祉援助技術	合田 誠	全体的に項目をみると、平均的な評価数値となっている。教員側の思いとしてはもう少し項目間に差異が出てくると予想をしていた。この様な結果になったことを鑑みれば、学生が各項目毎にどれほど真摯に評価に取り組んでいるのかが疑問に思われる。	担当教員としては、昨年度と比べて、授業内容を一部変更したこともあり、よりバージョンアップを図ったが、その効果が学生にどう出たのかがみえてこないのは残念である。	残念ながら全くといってよいほど参考になる記述はみられなかった。	確かに授業内容を改善する余地はまだあるように考えている。受講学生が「人を援助するためにどのような切り口から入るか」をもう少し模索したい。
保育内容人間関係	長屋雄一	学生からの評価は自分の予想よりかなり上回っていたので驚いた。教師の姿勢が伝わる学生たちなので授業のやりがいがあった。	昨年は授業中の私語が多く気になったが、今年度の2年生は、非常に受講態度がよかった。	素直な感想が多くて感心した。	常に新鮮な題材で授業を心がけたいと思えます。
保育内容表現Ⅰ(音楽)	杉田清子	全体的に充実した内容、進行の授業であったと思っていた。学生側も同じ様に感じていると思われる。学内平均と比べてどの項目も評価が良いのは、学生自身が、この授業を積極的に受けた結果だと感じている。	差が1以上開く結果がなかったことから、前回よりもこちらと学生の感じ方がほぼ似ていたと思われる。問3シラバスの内容について「5. そう思う」が極端に少なかった結果より、授業を進める中で、変化したことを来年度シラバス作成時に考慮すべきである。	学生が印象に残った授業の内容や学生が感じた率直な意見が伝わってよかった。今後には生かしたい。	課題(宿題)の内容、出分量、時期など検討し直したい。

保育内容表現 I (音楽)	早川美紗	「どちらかといえば」と「そう思う」と答えてくれた学生が多いので、良い評価をしてあげたいと思います。	授業の内容には良い評価をしてあげたいが、方法については、こちらが考えているよりも低かったです。	アンケートは問いの中から選ばなければならぬけれど、自由記述は学生のより自由な意見を知ることができるので、自由記述の方が学生の気持ちを把握することができやすいです。	自由記述で学生の意見を尊重しながら、授業の方法を考える必要があると思います。
保育内容表現 I (音楽)	野間路代	ほとんどの設問について4~5の回答が出ているようだ。授業としては、まあまあよかったのではないかな…。	教員の平均よりも学生のほうが上回っている結果も多くみられ、予想以上に評価してくれたのだと、少し驚いている。	みんな「楽しかった」とか「勉強になった」等、いろいろな意見を聞かせてくれた。中には「先生好き」などの面白い意見もあった。	いろいろな面で、細かく改善しないといけない部分を見つけたいといけない。
保育内容表現 I (音楽)	吉岡紀子	授業内容、目的などほとんどのことにおいて、理解し、関心をもって取り組んでいるように思う。その中でそれぞれ約1名ずつくらいの学生が「1」「2」の評価をしている。	昨年度と比べ、伝えるべきこと、理解、実際現場で役立たせること、全てがほとんどどの学生に伝わっているように思った。1部の学生の低い評価が昨年度よりは減っているが、理解できずいたり、意欲的に取り組めない人がいるのは変わらない。	団体での授業なので、1人1人の考えがわかり、次への課題が見えた。学生も後期につながる総合表現に向けて前向きに取り組もうとしているのが伺えた。	団体授業のため、授業への取り組み、理解に差がでてしまうのをさけることはむずかしい。できるだけ1人1人への心配りも忘れず、意欲的に取り組める授業環境、内容にしていきたいと思います。
保育内容表現 I (音楽)	角野美穂	授業に対する満足度など、学内平均を下まわっているのが気になります。	全体的に教員による自己点検評価に対して、学生の授業評価は下回っていました。レベルや進行速度、課題の量の多さについて少し不満があるようです。	白紙で提出したり、「特になし」という記入が目立ち、残念でした。	短期間で実力をつけるために課題の量が多いのは仕方ないのですが、何の為に必要なのかを理解してもらい、もっと内容について興味を持ち、全員が積極的に参加できるよう、更に工夫したいと思います。
保育内容表現 I (音楽)	向山裕子	大半の学生は、授業内容をよく理解し、熱心に取り組んでいたと思うが、「どちらでもない」という評価はどう理解すれば良いのでしょうか。一部の学生(1~2名)は、難易度、進行速度も、不適切であったと感じているようです。 ☆問いを全く見ずに記入している学生がいました。もちろん指導はしましたが…。	このクラスは欠席・遅刻が多く、受講者23名中、有効回答は14名。このアンケートのみで評価することはできないと思います。昨年とほぼ同じ進捗で授業を進めてきましたが、ついて来れない学生が多かったように感じました。	14名中提出した学生は5名、内4名が「特になし」1名が「気ぐるみ頑張ります」。最終の授業内でアンケートを実施したためか、こちらも急いで記入する様に指導した為か、学生がゆっくり自分の意見をまとめられなかったのではないかと思います。	このクラスは全体にテンションが低く、学生を引っ張っていくのは大変でした。まともにも悪く、クラス全体で1つの事に取り組み、創作していくという気持ちが感じられず、オープンキャンパスでの手遊び等も、やっている人は一生懸命でしたが、他の学生の協力を得ることが出来なかった為、思わしくない結果になったと思います。学生にあわしている授業が成り立たず、後期もどのように授業を進めていこうかと考えを模索しているところです。
保育内容表現 I (音楽)	大森由美子	ほぼ全項目に学生は満足しているという結果が出ている。	表現と言う授業を理解することは難しいのではと心配していたが、学生は理解し、授業内容に関心を高めてくれたようでよかった。		
保育内容表現 I (音楽)	木谷祐子	平均値で4を下回るものがなく、ほぼ教員の自己評価より高い評価が出ていることが分かる。	この授業は課題の種類が多かったが、学生は興味をもって取り組んでいたように感じられ、そのことが結果にも表れている。	「おもしろかった」などのほんの一言だけの記述があり、深くつこんだ意見があまり得られていないと感じた。	一つ一つ項目を設けてデータ化して知らせていただけるもの良い方法ですが、自由記述を中心に文章として、深い意見をもらう方が、実際に授業の改善点などを考えるときに役に立つように思います。
表現 II (造形)	木村和熙	ズボラな授業に高い評価をもらい恐縮している。	自分の姿勢が変わりがないので、学生の質による変化と考えられ、私個人としては、比較できない。	この記述に30分~40分の時間が必要で、90分の授業の実施にウエイトを置くら問題ではないか。	特に考えていない。
保育内容表現 III (身体)	谷玲子	全項目について学内平均を上回る評価であったので、満足しなければいけないところであるが、教員の自己評価より下回っているところ問1「大きな声で聞き取りやすく」問2「丁寧に説明した」問4「十分な準備と工夫」問9「熱意を込めて」問10「学生の発言に適切に対応」問11「授業態度の悪い学生について注意し」のランについては、私自信最善をつくしたつもりであったが、その評価が得られていないのが残念である。また、逆に問5、6「難易度のレベルは適切」「授業の進行度は適切」の項目は、私自信レベルを下げて教えているので、出来る学生にと手は物足りない授業になっていたのではないかと考えていたが、4.21、4.26の評価を得ているので、その回答が気になる。そうではないと答えた学生の中に、レベルが低すぎたのかその逆に高すぎたのかという点についての評価を知りたいと思う。問15の「授業の大きさや設備」についてであるが、身体表現では、鏡の前に立ち、自己の表現力を自分自身で確認するより効果的であるが、鏡が無いということが最大の難点である。再三お願いをしているが、新校舎には設置されているのでありませんか？⇒(右に続く)	昨年の結果は、覚えていないが、あまり変わっていないと思う。自分自身の感想としては、北条校舎5階の体育館で行う授業は数年間続いているが、年を追うごとに暑さが増し、学生の動きも年を追うごとに鈍くなっているように思われる。総合ホール5回の体育館での授業時には、夏は暑かったとはいえ、ここまで、だらだらと授業をする事が無かったように思う。 ⇒(続き)また、5階の体育館は通気性も悪く、太陽が直接校舎屋根に当たるので、6月からは動いていると汗が噴出し、体の脱力感もあるため、十分には動かす事が出来ないと思う。学生からも暑い暑いとの声が上がっていたのであるが、評価は4.17とほぼ満足しているように思われ、そのギャップに頭をかしげる。熱さのため休憩を入れないと出来ない事もあり、授業の進行度が遅くなる。問16の「総合的に見て授業に満足している」点について、そう思わない、どちらかといえばそう思わない、どちらでもないの学生を合計すると、24.4という約20名がそう思っていないことになる。どう授業を展開していくほうが良いのか、後期の授業で一度聞いてみようと思う。	前期だけでは十分に教えられない内容であるため、少しでも時間を有効にとりたい。学生の自由記述については、休み時間とか、他の時間に記入してもらって、後で回収するようにしたいと思うがそれはどうか？	リズム表現、リズム遊びを1年生の時からさせていたが、実習に行っても、園児との動きがとても大切になるが、貴大学では2年生の本授業が始めるリズム表現身体表現となるため、過去の学生より動きが鈍い。私が幼児体育を持たせていたいた時は、リズムを取り入れた授業を展開していたが、急に解除された理由を知りたい。学生の動きが悪くなったのは確かであるが…何か自分に足りない点があったのかも知りたいと思う。

幼児臨床心理学	北村瑞穂	学内平均よりかなり高い評価を頂いた。全てが4以上で安心した。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。もう少し自己評価を修正して良いようだ。昨年の評価と比べるとかなり今年は評価がよくなっている。内容を部分的に変更したのがよかったのかも知れない。	「先生の授業は、方法も内容も新しいと感じた」という記述があった。パワーポイントを使用したのは、まずまず好評だった。また、ごく最近のニュースの内容や新しい本の内容を授業に組み込んだため、新しいと感じてくれたのだと思う。	来年度に向けて、パワーポイントを見やすく作り変える。プロジェクトが暗いので、グレーの文字などは見にくいようだ。内容も新しいものを追加する予定である。
教育相談	森石加世子	来年度に向けて参考にしたいと考えています。	昨年度の結果を参考にして、改善した点が、学制による授業評価にある程度反映されていたので、今後も参考にしたいと考えています。		問11や問15などは責任の所在を不明確にしてしまうと考えられますので、ご検討いただけないかと思ます。
総合演習	合田 誠	テーマが担当教員の専門に取り組んでいる「虐待」であるため、学生の期待感の高さがよく伝わってきた。	授業内容は昨年度とほぼ同内容であったものの、評価の数値は昨年より高い。だがすでに触れたが、学生の評価作業に取り組む姿勢が乏しいようにも感じられるので各項目毎にもう少し差異があれば、参考になったと思われる。	「虐待」の実態を学習することができ、問題意識をもてたという内容の記述があった。その他に「総合演習」は4人の教員が通年で担当するオムニバス方式をとっている関係で「授業回数」が7回しかなく、十分な学習には至っていないという授業方式に示唆を与える記述があった。	「自由記述」の欄にも記載したが、授業方法に関して改善の余地はある。しかし、演習授業を組むための授業回数確保の課題があることや、担当教員のテーマの選定など課題は山積している。
総合演習	村井隆之	ほとんどすべての項目についての「学生評価」の評点が「学内平均」のそれを上回っており、学生からは予想以上によい評価を頂いたと思う。	問13及び問14の項目についての「自己評価」の評点と「学生評価」のそれとがほぼ一致しており、この意味で予期した通りの結果が得られ満足している。しかし、それ以外の項目については、「自己評価」の評点を最高評点「5」としたのが不適切であったと反省している。やはり、控えめに「4」としておくべきであったと思う。昨年度との比較についても、同様のことがいえると思う。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。ただ、「板書」をもう少し見やすく、また書き取りやすくして欲しいという要望が1、2あったので、この点への配慮が必要と思う。	「学生評価」については、ほぼ満足すべき評点が得られているので、現時点では授業内容や方法を変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていく所存である。
子どもの音楽	淡路和子	回答1が0%、5の回答が75.4%と良い評価が得られた。問8(板書)は5の回答が57.1%と低いが、教室に移動式の小型白板しか設置されていないため、学生は答えにくかったと予想される。	教員の熱意を充分受け取って、熱心に取り組んだ様子が窺われる。シラバスの項目について、選択科目のため、受講者数によって授業内容を変更せざるを得ないが今後改善したい。		授業の性質上、教室には白板や机がないので、学生はメモを取りにくい。今後は配布資料に工夫をしたい。
子どもの音楽	島根恵美	学生たちからは比較的良好な評価をもらっているように思いました。問8の板書については、毎回書かせて頂いていますが、講義と言うよりは実技に近い科目なので、判断が難しい面もあるかと思っています。	昨年度の結果と比較してみると、全項目にわたって学生の評価がよいように思いました(手前ミスですが…)。履修者が昨年より少なめだったことが、かえって良かったのかもしれないが、担当者で授業内容をよく検討し、必要と思われることを模索しながら授業を進めたことの結果かと嬉しく思っています。	自由記述には、無記名である気楽さからか、学生の素朴な気持ちが表されているように思いました。	この授業でしかできないことをより大切に、保育者としての力をつけるために少しでもプラスになることを取り入れて、充実した授業になるよう努めたいと思います。
子どもの音楽	増谷尚子	授業に対して工夫や熱意が伝わっているかという項目では、5の回答が多く、学生も授業に満足しているように感じた。	教員・学生ともに4、5の評価がとても多い。「子どもげきじょう」という大きな行事を終え、一人ひとりが成長したように感じた。授業の進行速度が適切だという質問は、学生評価の方が高かった。教員側はもう少し工夫が必要と感じている。	学生一人ひとりがどのような気持ちで授業に取り組んでいるのかが良く伝わり、自分への反省点も見つけられ、とても良いと思う。	より一層保育の現場に立つ学生達に満足して貰える授業になるように工夫していきたい。
子どもの音楽	向山裕子	全ての設問で学内評価を上回る学生評価でした。	ほぼ大半の学生がこの授業を受けて満足しているようです。	この授業は4時限目だったため、音楽教室の幼稚園のリミックスの一部を見学・参加することができました。学生にとってはとても勉強になったと思います。	将来保育士として授業で勉強し、体験したことが生かされるよう授業内容も含めて努力していきたいです。
英語(英会話B)	G. A. Moulden	The students thought that the textbook and prints were helpful, but they didn't like my notes on the whiteboard. They thought I did well managing students who did not behave well.	The students this year liked the textbook and prints more than last year. Their comments about the blackboard were the same.	Most students did not write comments. A few liked the class, a few thought it was difficult.	The students liked the prints I used, so I will use a lot of prints this year as well. I will try to write more neatly on the whiteboard.
子どもの音楽	向山裕子	すべての設問で学内平均を上回る学生評価でした。	ほぼ大半の学生がこの授業を受けて満足しているように思います。	この授業は4限目だったため音楽教室の幼稚園児リミックスの一部を見学・参加することができました。学生にとってはとても勉強になったと思います。	将来保育士として授業で勉強し、体験したことが生かされるよう授業内容も含めて努力していきたいと思ます。
英語(英会話B)	井上泰子	学生の評価は予想以上に高かったが、どの程度力がついたかはわからない。わかりやすく楽しく学ばせようと努力した点は理解してもらえたのではないと思う。英語の童謡等を適宜取り入れ、欧米の文化にも関心をもってもらえたように思う。	担当者としては、精一杯工夫をし、できる限りの準備をして授業に臨んでいるつもりであるが、対象となる学生の受け止め方に差がある。前期に比べて、今回は全体として学生の評価が自己評価を上回っていた。	大部分が楽しく学べた、英語が好きになったという感想であったのは、嬉しく思うが、学生のレベルがさまざまであるため、よくできる学生には少し不満が残ったのではないかと心配する。予備テストによる学力の把握も必要ではないかと思われる。	学生の学力や学校生活の実態をよく踏まえた指導が大切であると思う。保育実習等による授業期間の中断や時間割変更等にどう対応していくか、効果的なシラバスの作成や授業内容の工夫に努めていきたい。英語教育を通じて保育士としての成長も促したい。
スポーツII	黒石久昭	実技と講義が分かれて担当しているので評価が難しいが、4、3であるならば、学生はまずまず満足していると考えられる。	評価は、4程度ではないかと思っていたが、配布資料が学生の理解力を助けたのではないかと考えている。	特になし	授業内容が理論的であるので、子どもの実際の発達の姿を捉えた写真はかなり有効性があるように思う

スポーツⅡ	鎔 功	学生から、平均4以上の良い評価をいただいた。特に、実技科目のアンケート項目は、より高い評価をいただいた。	全体的に、昨年度と変わりはないが、そうは思わないの%が、少なくなったように思われる。	楽しかったという意見が多く、楽しいだけでなく、本当に役に立ったかが、少し心配である。	スポーツという授業であるから、もう少し運動量を増やしてもいいのではないかと思う。
保育者基礎演習A	工藤真由美	学生の満足度が高く、担当者としても嬉しい。ただ、複数で一科目を担当するので、自分の授業に対してどのように見られているのかの判断が難しい。	授業の難易度、進行速度が適切であるとの質問に対して、そうは思わないに丸をした学生が2.1%いた。やはり全ての学生が、適切であると思う方向を探っていくか悩む。今後の学生の理解力も平均に目を向けるのではなく、一人ひとりの力を考慮することが求められていく。	複数で担当するゆえに、自由記述で、自分に焦点付けてコメントを書いてくれるように依頼したが、かえって良いことしか書きにくくしてしまったのではないかと反省点もある。次年度の課題である。	漢字テストの難易度、繰り返しの必要性(試験のときだけいい点が取れ、すぐに忘れてしまう。)と、それをどれくらいの割合で授業で取り上げるのかを、再検討したい。
保育者基礎演習A	近藤淑子	後期の学生は授業への取り組みが積極的であったので、私も楽しく授業が進められました。参加型授業では学生の授業への意識に強く影響されるが、ほとんど全員が気持ちよく参加していたので、このような評価が得られたと思います。	授業内容の理解が学生評価の方が低く、もう少し内容の理解に努めたいと思います。	私が思うよりも楽しく授業に参加していました。ただ、人との会話が苦手な学生にとっては気持ちの上で苦労したと思います。少しでも自分を開くことができると思います。	できるだけ多くの人と話ができるように、授業の方法を考えて生きたいです。
保育者基礎演習B	淡路和子	すべての項目で学生評価平均が4以上であった。問11の学生への注意の項目は、ほぼ学生の私語もなく、熱心に取り組んでいたため答えにくく学生もいたのではないかと思う。	テキスト、プリントの項目は改善が必要と考えていたが、学生の満足度は4.5回答が多かったため、来年度は学生評価を参考にしたい。	「皆の前に立つのは緊張するが勉強になった」という記述があった。保育学科の学生は在学中の実習、また奉職後も人前に絶つことが多いため少しでも経験を役立ててほしい。	問13について特に悪い評価ではなかったが、授業の難易度について再検討し、配布資料も充実させたい。
保育者基礎演習B	石村哲代	この授業は誰にとっても身近なマナーを取り扱った内容であるので、興味をもって受講してくれた。その結果が評価に表れていると思う。しかし担当者自身は大きな声でゆっくりと話し、熱意をもって講義し静かな環境を心がけているにも関わらず、学生の反応とのズレが目立つ。これを反省点として、さらなる努力を重ねていきたい。	項目1, 9, 11, は担当者として最も重要なこととして日頃から心がけている点であるので、自己評価を5としたが、期待に反して学生評価とのギャップがみられた。前年度の評価を踏まえて、さらにゆっくりとしたスピードで授業を進め、授業環境も静かにさせる努力をしたつもりであるが、努力の結果が必ずしも反映されたとはいえない。前回評価が低かった板書については今回は出来る限り板書するように心がけたが、その成果が若干あらわれたのではないかと評価している。	今年度からの自由記述の導入は、アンケート調査による5段階評価では訴えることができない学生の要望を担当者に把握して頂けるのではないかと考えたからである。前期はわずか2~3行の簡単なコメントしか得られなかった。それが無記名のためではないかと考え、今回は記名での記述を求めた。その結果、量的には無記名と変わらない上、内容的には満足している。楽しかったとする評価しか得られなかった。やはり少数でも本音が聞ける無記名を採用する方が良いでしょう。	前回の評価を踏まえて、自己評価とのズレが見られた授業のスピード、板書などについて、今年度は授業のスピードを落とし大半の要点は板書するなど、改善を心がけた。その成果は若干見られるが、未だ十分とはいえない。自己満足に終わらないよう、学生の反応を確かめながら、さらなる改善をしていきたい。
言葉と表現Ⅱ	工藤真由美	全ての項目で、学内平均を大きく上回っていることは大変ありがたく、また、重く受け止めている。	前年度と比較して顕著なのは、特に教室の広さや設備の点で満足している点。新学舎により改善されている。	自由記述も、昨年よりも記入してくれる学生が大半を占めた。普段あまり話さない学生の意見もわかり、個々の意見を聞くことができて大変良かった。次年度も継続して欲しい。	自由記述の意見が全てとは思わないが、普段あまり発言しない学生の意見を教員に上げることが出来た。次年度以降、グループ編成の方法などで、おとなしい学生が発言しやすい形を探って生きたい。
図工Ⅱ	木村和照	なんとも高い学生からの評価を得たものだろうと驚いている。内容、方法とも一昨年と全く同じ。申し訳ないが、評価委員会(FD)の活動に関わらず、全く同じである。にも関わらず、差があるのは、受講する学生の質、能力によるものと考えられる。ただ相互に楽しく授業ができたのは事実である。	なんとも高い学生からの評価を得たものだろうと驚いている。内容、方法とも一昨年と全く同じ。申し訳ないが、評価委員会(FD)の活動に関わらず、全く同じである。にも関わらず、差があるのは、受講する学生の質、能力によるものと考えられる。ただ相互に楽しく授業ができたのは事実である。	90分の授業励行を旨としながら、この「自由記述」に時間を割くのはどうかと思われる。このアンケートとは別に行なってはどうでしょうか。一定の期間、どこかに用紙をおいておいて、記入したペーパーが指定の教室に届くような方法は考えられないだろうか。	この授業に関しては、全体的に完成されたもので、学生と教師の関係性の「よしあし」以外に考えることはないようです。イイ学生がいればイイ授業が成り立つのでは。
図工Ⅱ	中路規夫	了解しました。	やはり授業の進行速度、課題の量に問題があると思われる。	「自由記述」入っていませんでしたので、読んでません。	じっくりと取り組める、ゆったりとした流れる時間と空間が造形の授業には必要と思われる。
図工Ⅱ	叶 雅夫	参考にし、次年度の授業に生かしたい。	昨年と授業内容が大きく変わっており、比較しにくい点も多々ある。事故評価と学生評価を同じようにする、そしてより良くするためには、教育術を鑑みても、授業内容を落とさなければならぬが、短大生のレベル、創造力をつけるため、(保育現場で要求されること)の授業内容は確保したい。以上のことを考慮して、都度状況に応じて対応する。	理解できる学生は、こちらの意図を理解して納得していた。短大生としての知的レベルに達していない学生の記述、またしっかり考えないような記述もあった。そのような学生にも理解して貰える指導法をしなければと考えている。学生の気持ちを確かめるためには良いのではないかと思う。	授業内容に興味を持たせるよう、内容や指導法を考える。勉強をするということ以前の課題として、座って集中して人の話を聞くことのできない学生、また理解できない学生もいることを考慮しなければならない。教養の授業と実習の授業との違いもある。
図工Ⅱ	元木昭治				図画・工作の内容は、感性とそれを裏打ちする科学とで成り立っている。科学の部分は表現のための技術の向上に大きな役割をもつ。学生に、一般教養程度の科学することをどう知らしめるか。
幼児体育Ⅱ	鎔 功	学生評価が、学内平均よりほぼ上回っていてよかったと思う。	自己評価の平均4.35と、学生評価の平均4.33とが、ほぼ同じで、よかったと思う。	実際に、現場で役に立つ内容で、実習中に使わせてもらったという記述があって、よかったと思う。	楽しいだけでなく、実習や就職してから役に立つ内容を、より多く取り入れていきたいと思う。

保育者論	山田秀江	全体的に良い評価をもらっているが、授業の難易度のレベルや授業進度評価が低くなっている。	昨年度同様できるだけ多くの実践事例をもとに授業を進めたが、今年度は昨年度の学生に比べ反応が少なかった。毎年よく学生を観察し、事例を精選していかなければならないと感じている。	グループディスカッションの時間を多くとったので、人の意見が聞けて参考になったという学生がいた。反面、人とのコミュニケーションが苦手な学生は話をするのが苦痛のようだった。保育はコミュニケーションなしでは成り立たない仕事なので、自分の考えをきちんと話せる環境をつくることは大切なことだと感じている。	保育者になるために、自分の理想の保育者像がイメージできるよう、内容豊かな授業内容で取り組んでいきたい。
教育原理	今井貴代子	全ての項目において、4に近い結果が出ており、それ自体は良かったが、学内平均に至らないものが多く反省点も多くある。自己評価との開きが見られる項目もいくつか見られた。	学生の評価と私の自己評価で最も開きが見られたのは、①と②であった。私の自己評価に比べ学生の評価は低く、来期は学生に声や熱意が伝わる授業に改善していきたい。逆に私が心配していた授業の難易度はそれほど高くなく、関心をもってくれたことは嬉しい。	率直な意見が聞けてよかった。	学生は授業内容に対して非常に関心を持ってきていることがわかったので、来期はそうした関心をより高めていけるような授業作りを心がけたい。例えば、声の大きさや分かりやすさ、熱意のこもった授業、静かな環境づくりなどである。
保育学原論Ⅱ	山田秀江	授業の難易度の適切性、授業速度、授業内容の理解についての評価が低く、保育の基本である授業内容をもちょうと分かりやすい言葉で、丁寧に教える必要があると考えている。さらなる教材の工夫や教授方法の工夫を行い来年度は取り組みたい。	授業内容について、穴埋め式や記述式のプリントを作成し、それに記入しながら授業が聞けるように配慮した。自己評価ではまだまだプリントが不十分だと感じていたが、学生にとっては学びやすいものであったようである。さらに昨年度からの課題である、視聴覚機器を活用し、より分かりやすい授業作りをしていきたい。	授業の進め方が早いという意見があったので、学生の書く早さも考慮しながら進めていく必要があると考えている。	授業内容を理解しやすくするため、教材の工夫、視聴覚機器の活用等を積極的にやりたい。また、保育の素晴らしさ、重要性をさらなる熱意を持って伝えていきたい。
教育心理学	北尾倫彦	厳しい評価であり、反省させられる点もあった。	昨年は勤務していないので、比較できないが、両者の評価のずれが大きい。ただ学生には、学問の本質を見抜く力が欠けており、表面的な印象に左右される傾向があるのではないかと思う。	講義内容そのものに関する記述が少なく、参考になりにくい。	今後に活用することはできないが、真面目に受講している学生の意見を尊重して改善に取り組む必要があると思う。
小児保健	吉田和重	学生評価が学内評価を上回っている。学生の授業の満足度が高いのに少し安堵している。	すべての項目が自己評価を上回っている。問8については今後の工夫が必要であると思う。	良くわかりました。ばかりの記述が多かった。具体的に書いているのは、ほとんどなかった。	板書については再度見つけなおし、分かりやすい授業を心がける。
障害児保育	曾和信一	総合評価として、学生評価の高さと自己評価の低さといったように、その乖離が大きいという結果になっている。パワーポイントを用いた授業の関係で、板書について、学生の評価が最も低いという結果になっている。その創意工夫を図っていききたいものである。	自己点検評価について、臨機応変に対応した結果として、昨年度と同様に、その目標や内容に沿っての授業通りにはゆかなかった。そのところが授業担当者としてのジレンマであるが、できかぎりシラバスに示された目標をクリアすべく努力をしていきたいと考える。	板書が箇条書きで、その文字も丁寧ではないという指摘を受けた。今後、できかぎり板書への書き方の工夫と板書の際の文字の丁寧さに心がけていきたいと思う。	学生の授業への理解度は、板書の適切さの質問項目に次いで、その平均値が低いという結果になっている。シラバス、授業の難易度、板書、学生の理解度などといった質問項目への評価が低いので、授業の質を落とさず、かつ平易な表現での授業をしていきたいものである。
人権保育	井上寿美	授業者の授業に望む姿勢については学生から予想以上の評価を得ているが、難易度等の授業内容については課題が残された。	授業をきっかけとして人権保育に高い関心を抱くようになった(問14)学生が予想をはるかに超えて多かった。	特になし。	学生より得た評価を今後の授業に活かしていくように努める。
養護原理	曾和信一	総合評価について、声の大きさや聞き取り易い速さを問う項目、授業担当者の熱意を問うそれについて、必ずしも低くないと思われる。しかし、板書の適切さを問う項目について、他の授業科目での評価と同様に、厳しい評価結果となっている。	声の大きさや聞き取り易い速さを問う項目について、学生の評価の高さは逆に、自己評価は低いという結果になっている。今後、そのことについて心がけを怠らずにしていきたいものである。	授業内容が難しいという指摘を受けた。学生に対して、難しい内容をいかに平易に概念くださきを行い、その内容を理解してもらうのが大切であると考えている。	全体的に学生評価の高さと比べて、自己評価が低いという結果になっている。両者の評価ができるかぎり齟齬をきたさないように、その自己評価を行っていきたく考える。
養護内容	合田 誠	常に授業は「熱意を込めて全力で行う」ことを信条としているので、この項目に関して学生もそれを受け止めてくれているためか、高い評価をもらっていることに満足している。逆に授業の「難易度」や「進行度」については評価ポイントが最も低くなっている。この点は常に自己矛盾を抱えている部分で、厚生労働省の標準とするシラバスを消化していこうとするならば、現状でも不足部分が多々ある点に気がかりであるうえに、さらに授業の進行速度をこれ以上遅くするのは非常に厳しいといわざるを得ない。「難易度」もこれに連動しているといえ、大きな課題である。	昨年度と比較しても大きな違いは見受けられない。授業に臨む姿勢は昨年と同様である。	半数くらいの学生からコメントももらった。内容的にはほぼ同じ内容で、「施設の中身を詳しく知れて施設実習に役立った。」や「施設の種類の多さや役割を知ること、将来に役立つ知識を得ることができた。」などである。	「1」にも書いたが、限られた時間内で多くの内容をこなしていかなければならない現状に対して未だに対策を見出せていない。学生の習熟レベルに合わせて難易度を下げようとするには、まず「時間」が今まで以上に必要となる。当然この方法は他の授業との関係に影響が及ぶために、単独では解決困難で全体的な見直しから行う必要があると考える。
教育課程総論	大方美香	学生からは予想以上に良い評価を頂いた。どの項目も学内平均に順じており、安心した。授業内容に対する関心を高めてくれたことを嬉しく思う。また例年ポイントが低くなりがちな板書が学内平均を上回り改善できたことを思う。しかし授業態度の悪い学生への注意が少し学内平均を下回っており反省している。	学生評価が全体的にかなり自己評価を上回っていた。これは、非常勤として本務校との調整がうまくいらず学生に補講等で迷惑をかけたという謝罪の念からである。もっと十分に聞わっていったらという申し訳なさである。昨年度以上に自分としては、もっとよい授業をしたかったと思う。	手遊びに対する好意的意見が大半であった。授業の一環として行ってきたが実習で役立ったようである。教育課程という難科目であるが、授業を通して大切さに気づいたという意見も多かった。休講への補講が困ったという意見もあり、申し訳なく思う。もっと授業を受けたかったのという声もあり心苦しい。	学生の声を真摯に受け止め、全体としての評価のポイントではなく、むしろ「1」とつけた1.8パーセント「2」とつけた4.6パーセントの学生に目を向けて生きたいと思う。ひとりの学生も残さずに一人一人の学生の満足度を上げていきたいと思う。

保育実習ⅠA (保育所以外の児童福祉施設における実習指導)	合田 誠	最も高いポイントが「授業は熱意をこめて真剣に行った。」になったことは、こちらの姿勢が学生に浸透していることと認識でき、満足している。逆に最も低い項目が「授業の進行速度は適切であったと思う。」になっている点である。評価基準の「3. どちらでもない。」以下を集計すれば、24.8%となり、およそ4人にひとりまたはすむのが早くして行くことが難しいと訴えていると読めるのではないかとと思われる。では残りの3人が適切な進行速度であったとしているかは、甚だ心許ないのが正直な心境である。	昨年と比較しても大きな変化はない。教員の基本姿勢として、熱意と情熱をベースに授業を展開していることは自負している。ただし、教員がひとり先走っても肝心の学生が、ついて来なければ授業としては成り立たないのはいうまでもない。この溝を埋める手立てに関して苦慮している。つまり、最大の検討事項は実習実施時期(12月)と授業開始時期(10月)の期間が僅か2ヶ月しかなく、この間に取り組める内容が限られてくるため、溝を埋めるには非常に厳しいというのが現状である。	素直な感想として保育士は「日常生活をきちんとこなせないと行けない。」ということに気付いた点である。このような感想を何人かの学生が記しており、保育者としての基本を少し理解してくれたのではないかとと思われる。この基本的日常生活援助を実行できることを常日頃から、学内だけでなく、学外、つまり家庭内でも自然に実施できることが保育者としての基本的資質のひとつに数えられる。	時間的なゆとりをもてるような授業配分ができることが望まれる。しかし、これには全体との調整が必要となり、1科目だけではいかんともしがたい。よって、苦肉の策として、時間的な不足分を放課後等の時間外をフルに活用しているが、相当ハードなスケジュールにならざるを得なく、教員も学生も目一杯であるのが実状で、学習効果を考えれば決してこの方法がベストとはいえない。
英語Ⅱ (リーディング)	井上泰子	選択科目で1名の学生との通年の授業であったため、質問項目で、よく分からないとしか答えようがない部分があったと思う。一方で、コミュニケーションの不得手な学生であったため、本人の意向を十分に汲み取ることができなかったのではないかと反省している。	前期より、視聴覚教材を活用したり、作品の背景をプリントにするなど、関心を高める工夫をしたつもりであったが、本人の置かれている心理状況にそぐわなかったのではないかとと思う。学生が長い目で振り返ってよかったと思ひ起こしてくれればよいと思っている。	14章ある長編を最後の1章を残そうかと思ったが、終わりまでやってほしいという感想を書いていた。本人の意欲に応えるため、授業外の補講を行い、読み切った。本人も満足したようだった。毎回、注釈プリントを作成した努力は理解してもらえたようだ。	学生の学力と負担を考慮して、できるだけ丁寧な指導を心がけてきたが、安易な妥協と受け取られる場合もある。本人の意欲や誇り、充足感を大切に時により高いハードルにチャレンジさせることも大事であることを学んだ。
音楽Ⅱ	西川夏代	学生平均値のほとんどが4以上の評価であった。しかし授業の進行速度や課題に取り組む時間が適切であったか、の数値が少し低いように思われる。	学生評価と自己評価が全体的に同じくらいであり、板書の項目以外はすべて学生評価・自己評価ともに学内平均を上回っていた。		板書を有効に活用できれば、実技の向上にもプラスになるのではないかと。
音楽Ⅱ	藤本紀子	学生からは予想以上のよい評価だ。就職を控えた2年生にとって、単なる授業内容だけでなく、授業外の指導、相談などに対する評価も含まれると思われる。	昨年は教えていないためわからないが、1年次の基礎を培うという、どちらかという教員の熱意が伝わりやすい授業中心に対し、就職試験のサポートという、現実的に見える熱意によるものか、生徒は評価しているようだ。しかしそのためには1年次の授業が必要だったはずで、この集計結果をどのようにみるか、難しいところだろう。	就職試験という重要な活動のサポートとして、具体的にどのような授業や、サポートを求めているのか、わかりたい。	自由記述をみる機会があれば、参考にして、今後につなげたい。
音楽Ⅱ	西川夏代	学生の評価はあまり良いとは思われない。学内平均を下回っているものも多くあり、難易度や課題の量に少し問題があったように思われる。	ほぼすべての設問において学生評価は自己評価を下回っており、特に自己評価の授業に対する思いと、学生の評価との差が目立った。		実技課題は特に、個々のレベルに応じて課題を熟考すべきであった。
精神保健	西田吉男	授業態度については、もう少し注意をしていく方がよいと思った。	学生の授業理解ということでは、テスト結果をみて驚くくらい、こちらの伝えたい本質を理解していると思えた学生がいたのはうれしい。	まじめに講義を受けていることや、授業態度をしっかりと評価してもらいたいということが分かり、大変参考になった。	自己評価が低いのではなく、もう少し工夫する余地があるように思っています。大きく変えることはむづかしいかもしれませんが、小さなことからやってみようと思った。
小児栄養Ⅱ	石村哲代	前年度の評価結果を踏まえて今年度は実習を増やし、授業スピードを落とし、板書を多くするように心がけた。前回の評価に比べて総じて評価が高くなったのはその成果があらわれたのではないかと評価している。	項目1、4、9、11、は担当者として最も重要なこととして日頃から心がけている点であるので、自己評価は5としたが、学生評価との間には未だズレが見られる。今後学生が何も止めているのかを対話しながら、より学生の要望に応えられる努力をしていきたい。	やはり自由記述に対する意欲が低いので、今回は記名式での記述を求めたが、悪い評価は一つもなかった。これはそのまま信じることはできない訳で、やはり無記名の方がよいとわかった。無記名にして、いかに本音を聞きだすが今後の課題である。	学生は座り続けなければならない講義は苦手であるが、身体を動かす実習は非常に興味をもって積極的に取り組む。学生評価を高くしようと思えば実習の回数を増やすことであるとわかっているが、授業の目的達成のためにはそうもいかない。わかりやすく退屈しない講義の進め方が今後の課題である。
小児栄養Ⅱ	奥田玲子	概ね高い評価を頂き、特に問16、20の満足度・実技の向上への貢献に高い評価が示された。しかし問6、18、19の評価点が低く授業の進行速度が速く、多くの課題量に十分とはいえない時間で取り組んでいたことがうかがえた。	昨年度に引き続き課題量についての評価は低かったが、学生の興味・熱意、理解度、実技指導の適否への評価は改善されていた。また話し方、熱意については学生評価に対し自己評価が高すぎ、今後は学生に分かりやすい話し方、熱意の伝わる授業を心がけたい。	実技実習に楽しく取り組んでいたことの記述が多くみられた。今後は、実技の向上に加え、保育者として実技を学ぶことの重要性、意義についても十分理解されるよう指導していきたい。	テキスト、プリント、板書、授業の進め方などに、さらに工夫、改善を加え、引き続き学生の理解度の向上を図りたい。
乳児保育	福岡真子	・前期結果より評価が良いと思う。 ・例年同じであるが、学内平均値の高いことに驚く。	・本年度は自己評価を低くした項目については、学生の評価が高くなっている。学生の評価は大体的捉え方であると思う。 ・乳児保育者を育てようとする熱意は学生に伝わっていると捉えた。(5=42.5%)	保育実習の教材として活用できるものについては喜んでいました。例:遊具、指導案、子どもへの対応のポイントなど。	90分の授業の内容について、講義、事例紹介、ディスカッション、ミニレポート作成等を取り入れ、授業を充実させたい。
社会福祉援助技術	川出朋子	今年は学生とのコミュニケーションがよくとれていた様で、それが結果として表れていると思われる。	昨年度の学生よりも、コミュニケーション(相互理解)が深くできたのではないかと感じていたが、それが今年度と今年度の比較にも表れている。	自分たちが記述したものが、後に教員に渡されると学生が知った場合、本音が書けないのではないかと？	板書について…もう少し丁寧に、心がけます。
保育計画論	曾和信一	保育学科の授業科目の中で数少ない選択科目であり、有効回答数も14と少ない。そのことを前提に、学生評価では、学生の質問や発言に適切に対応したかどうかを問う項目への評価が最も低いという結果になっている。学生の質問などにきめ細かく応えていきたいものである。	授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行ったかどうかを問う項目への自己評価が最も低い。それに対して、学生の評価は自己評価ほどには低くないといった結果になっている。そのギャップを埋めるべく精進していきたいと考えている。	学生の要望に対する対応のまずさを指摘した記述が見られた。一人ひとりの学生への要望にきっちり応えるように配慮したいと思う。	今後の改善点として、シラバスに示された目標や内容に沿った授業を行っていくことで、FDの効果をあげていきたいと考える。
保育内容健康	黒石久昭	今回は、昨年が3.3ぐらいしかなかったが3.8と数値が上がっているのは、子どもの発達の写真を多く資料にもちいたので、理解の力の助けになったのではないかとと思う	1年次からの発展的授業であるが、良く付いてきたのではないかと感想がある。但し、クラスの雰囲気や相対程度影響することも事実である	特になし	できるだけ、学生が参加して意見が言えるようになるならば、最高であるが、すこづつ近づけていく努力だけは惜しんではいけないうらう

保育内容 総合表現	大森由美子	学生の評価は全ての項目で4~5の そう思うとあるが、問18・19の課題の 量や取り組む時間は本当に適切で あったのか疑問である。	問16・20の授業を受けて満足・技術 や実技の向上に役だったと言う評価 は学生評価のほうが高いことから教 員の熱意や授業の目的が伝わった と思う。	大半の学生が「楽しかった」と書いて いることから、卒業後この経験を生か してくれることと期待したい。	2月のこどもげきじょうを前期から意 識し、時間を有効に使う授業を計画 する必要がある。
保育内容 総合表現	吉岡紀子	多くの学生が意欲的に参加できてい るようだ。ただし、この授業が求める ものまで意識できているかどうかは疑 問ではある。	ひとつの目標に向かい(この場合こ どもげきじょうという発表会)授業を進め るにあたって、授業でこちらが求める 内容の理解と少しずれがあるように 思う。	目標に向けての発展途中、模索段階 であるため、解答に迷いがみられる。 できることなら全て終わっての感想が 望ましい。	この授業は最終授業(発表会)が大き な目的であり、それに向けて学生の 意識も高まっていく。そのため、時期 によっては解答が解答が変わって くるように思う。評価の取り方が難しい 教科である。指導者として常に“どう いう意味を表すか”を説いていかなけ ればならない。
保育内容 総合表現	角野美穂	全体的にかなり高い評価を受けてい る。	どの項目も学生評価が自己評価、学 内平均を上回っていた。		限られたスペースや時間の中で、ク ラスで協力してよりよい作品を創り上 げていけるように、さらに工夫した い。
保育内容 総合表現	早川未紗	全体の質問に対して、「そう思う」と答 えた学生が多いので、授業内容を理 解し、満足しているとおもわれる。そ の結果はとても嬉しいことだとおも う。	学生の授業評価は教員が思っている 以上に高かった。授業内容も良く理 解してくれているとおもう。	自由記述は学生のより自由な意見を 知ることができるので、アンケートよ りも学生の気持ちがわかりやすい。	自由記述での学生の意見も尊重しな がら授業の方法を工夫していきたい と思う。アンケートをとる時期を考 える必要があると思う。
保育内容 総合表現	杉田清子	すべての項目において、学生評価が 学内平均、自己評価より下回ってい る。授業を振り返ってみても一部の 学生を除き結果は妥当だと思う。た だ、評価を行った後の制作や練習過 程、こどもげきじょうでの発表を振り 返ると、遅い出発ではあったが学生 は満足していると思う。	話し方、授業の内容、進行、熱意な ど、考え努力しているつもりだっ たが、学生には伝わっていなかったよ うだ。	こどもげきじょうの発表後の意見を聞 きたい。	昨年と同じ授業でも同じようにはい かない。問題点を早期に改善し、学年 全体の進捗を保ちつつクラスに応じた 授業ができるように努めたい。
保育内容 総合表現	向山裕子	全評価が3点台という厳しい結果でし た。このアンケートを実施した時点では 授業内容目標があまり学生に伝わっ ていなかったようです。只、総合表現 の発表会後の学生の感想は授業を 受けて満足しているように見受けら れました。	すべての設問で自己評価より学生評 価が下回り、こちらの熱意が伝わ っていないと感じます。しかし問16、20 でこの授業が自分にとってプラスに なったと感じている学生が半数以上 いたので安堵しました。	全員が白紙でした。	一つの演目をクラス全体で作りに上 げていく上で教員と学生の間、又は学 生同士の間にも温度差があったよう に思います。半期という限られた時 間の中で学生が授業内容を理解し実 際の現場で役立てることができるよう 努めていきたいと思っています。
保育内容 総合表現	向山裕子	全評価が3点台という厳しい結果でし た。このアンケートを実施した時点 では、授業内容の目標が余り学生に伝 わっていなかったようです。只総合表 現の発表会後の学生の感想は授業 を受けて満足しているように見受けら れた。	全ての設問で、自己評価より学生評 価が下回り、こちらの熱意が伝わ っていないと感じます。しかし問 16、20でこの備前が自分にとって プラスになったと感じている学生が半 数以上いたので安心しました。	全員が白紙でした。	一つの演目をクラス全体で作りに上 げていく上で、教員と学生の間、また学 生同士の間にも温度差があったよう に思います。半期という限られた時 間の中で学生が授業内容を理解し、 実際の現場で役立てることが出来る ように努めていきたいと思っています。
保育内容 総合表現	木谷祐子	この授業は実践的な授業で、学生に とっては大いに意味のあるものだ と思えますが、評価において「どちら でもない」を選んだ学生が意外に多い ことが気にかかりました。	この授業は授業時間外での取り組み も必要であり、クラスのみならず等 大いに必要な授業です。学生は大変 な面も多かったと思いますが、問20 の評価がもっとも高く、5の評価もつ けた学生も多いことから、授業を通 じて学生それぞれが向上できたのでは ないかと思っています。		こちら側が良いと思って指導してい ても学生の受けとめ方との間にズレが あることが分かり、今後の参考にし ていきたいと思っています。
保育内容 総合表現	野間路代	全ての質問について平均が4以上と いう結果が出ているので、殆どの学 生が授業に対して不満を持っている 訳ではなさそうです。また1、2と回答 している学生はいなかった。	幾つかの質問について、自己評価よ りも学生評価の方が上回っているも のがあり、嬉しく思った。	殆どの学生があまり書いておらず、 その点が残念であった。しかし書い ている学生もいて、「楽しかった」や 「勉強になった」等の意見を聞くこと ができたので、来年度からも続けて欲 しい。	殆どの学生に4、5と回答して貰える ように頑張りたい。自己評価と学生 評価に大きな差があったもの(問7、 問10)については、検討しないとい けないと思う。特に家での課題につ いて来年度からはもう少し考えたい。
保育内容 総合表現	木村和照	楽しく授業を行なったわりには、いい 評価は少ないようです。このアンケ ットを採ったときが、学生がもっともシ ンドライだったように思われます。この 授業は息の長いスパンで考えたいと 思います。	学生によって創る授業。それも集団 としての学生であり、クラスの構成に よって大きな差があり、比較できるも のでもないようです。	いつでも書いて投函できる制度、一 定期間に投函できる制度があれば。	いつでも書いて投函できる制度、一 定期間に投函できる制度があれば。
保育内容 総合表現	谷玲子	授業集計の結果は、すべて4ポイント を上回っており、授業評価が高いよ うに見える。	授業の完成度は、発表するという点 から完成度を100パーセント求めら れるので、要求度が高く、後期半 期の授業日数は、完成までにかかる 時間数を下回ると思われ、学生には 負担の多い授業となっている。にも かわらず、学生評価は高く、授業 数が足りないことに不満を述べるも のもない。	保育現場に出たら、きっと役立つだ ろうと言う意見が多く見られるが、授業 時間の不足について不満を述べる学 生はいない。	対外的に開かれた「発表会」で見 せるという点から、どうしても教員が必 死になって教える場面が多く、学生 には負担になっている面もあると思 われる。今年度は、完成させるまで 出来ないクラスがあり、授業外指導 も多くなっている。今後、全クラ スを「発表会」で見せるまでに完成 度を上げなければならないのか？学 生間の発表で終わるクラスがあっ て良いのではないかと疑問を抱えな がら授業を終えた。総合表現である 為、美術、音楽の先生方ともできる だけ時間を取って、連絡し、今後の課 題についても協議しながら進めてい るが、時間的に難しい場合もある。台 本すべてを創作していく(音楽、せり ふ、演技、大道具類)と言う点も、ク ラスの能力によって、創作の段階か ら、ある程度仕上がった状態からは じめるなど、あらかじめ教員が与 えることも考えていけたらとも思う。

指導法の研究	山田秀江	全体的に良い評価をもらっている。ただ、授業の準備や教材、板書など自分では反省点が多いので、さらなる努力をしていきたい。	昨年度は低い評価であったので反省し、より実践に近い具体的な事例や教材研究などを取り入れたことがよかったようである。	講義と演習を両方行い、演習ではなく現場で役立つような教材研究を行った。それがよかったという意見が多かった。	今後も保育指導についての基本的な理論とすぐ現場で役立つような具体的な指導法を取り混ぜながら、意欲的に取組める授業を作っていく。
情報機器演習	渡邊伸樹	特に問題はないと思いますが、上には上がりますので。学内平均の平均の取り方がわからないので、判断が困難だと思います。	比較が困難であると思います。(統計的にも意味合い的にも)	自己記述もアンケートも記名式にすると良いと思います。	アンケート自体がマンネリ化するのが良くないと思います。たとえば教員の数値変化はどうなっているのでしょうか?変化するのでしょうか?学生自身のアンケートをつける力(価値観、捉え方)などを先ずつけなければ、正確な判断はできないのではないかと思いますので、その力(統一性)が必要だと思います。
情報機器演習	守屋誠司	「学生の質問や発言に適切に対応した」の評価が低い。本授業科目の特性にも関わり、授業ですでに説明してあるパソコン操作を聞かれた場合に、学生の能力を見ながら質問には即答せず、テキストを見るようにとかヘルプを参照するように意図的に指示した結果である。自分でヘルプやテキストを参照して試行錯誤しながら、自分自身で問題解決すること自体も学習目的になっている。この点を学生に周知させる必要がある。	前期よりも、学生からの評価は上がっていた。技能教科では一定レベルまで上げるのに本人の努力も必要である。しかし、今年度は教室環境の不都合もあり自学自習が難しかった。そのために、定着度合いに個人差も生じた。ただし、全く何もできない状態からみれば、相当にパソコン操作ができるようになり、教育現場で使えるレベルになったと思われる。	授業の進め方が速いという意見と、技能の習得ができて良かったという意見が多かった。一部で簡単過ぎるという意見もあった。個人差が大きいため、今後は、特に後期の科目においては、学級単位ではなく、能力別のクラス編成が望ましいと考える。	技能教科であるので、基本的なことを授業やり、習熟は自学自習に任せなくてはならない。自学自習用の教材の作成を考えている。
幼児臨床心理学	近藤淑子	授業の準備や説明の仕方の項目で学生評価が低かったことが意外でした。逆に、満足度については学生評価が自己評価をはるかに上回っており、授業の捉え方に学生との意識のズレを感じました。	昨年よりは、内容的にも精選したつもりでしたし、自分でも伝えるべきことは伝えたとは思いました。しかしいつもシラバスどおりにはいかない事が修正できません。	自由記述では学生の積極的な意見が多く見られました。その割には、授業態度との落差を感じました。	もう少し、学生の意見を聞ける授業にしたいと思います。どうしてもこちらからの話が多くなりすぎますので、何とか工夫したいです。
総合演習	曾和信一	全体的に見て、学生評価は低くないが、その中でも板書の適切さと、静かな授業環境づくりの評価が低いという結果になっている。授業態度の悪い学生、とりわけ私語については、注意をその都度促し喚起してきたが、その成果が必ずしも十分とはいえないのではないのか。	この授業科目が、学生評価と教員による自己評価の開きが最も多いものである。特に自己評価が低いというところの要因について、授業回数の短さもあり、目標の達成からみて不十分な授業になってしまったところにあるのではないかと考える。	学生の要望について、ビデオ鑑賞などがあり、楽しかったという記述があった。演習授業の関係で、今後学生の主体的参加を促していく工夫をしていきたいと思う。	半期の2分の1(7回)の授業回数については、授業担当者では如何ともしがたいところである。しかしながら、改善点として、総合演習という授業それ自体のあり方を検討し直してもよい時期に差しかかっているまいだろうか。
総合演習	藤田眞一	学生評価平均3.57は学内平均4.1に対してどのような差なのか良く理解できないが、講義に対して適当であったと考えている。問8の板書の件が評価3.18であり、改善の必要を感じる。	2年目の担当科目であり、学生達の受講態度・理解力などある程度はあきつたつもりで臨み自己評価をしたが、ほぼ同程度の学生評価を得た。しかし、各問に評価1をつけた者が1名おり、今後この者の対処法に工夫が必要である。	少人数の演習科目であり、回答人数38名の中、30名が自由記述を提出した。「身近な問題や環境問題について学ぶことが出来てよかった」など地球環境に興味を持ってくれた者が21名、その中でも感謝の気持ちが表現されていた者が7名いた。一方講義の理解度、方法などについての不満的な9名の意見が気になっています。	次年度は30名単位のクラスでの開講であり、十分に学生との意見の交流が出来楽しみである。本年度、特に気になったことは、受講態度、出席状態などに学級(クラス)差が感じられたことである。
教育実習A	田主義行	学生からの評価は予想以上であった。しかし学生が幼稚園教員になることを自覚して学んでくれたかといえ、そうは思えない。	全体に学生からの評価は自己評価を上回っていた。学生の立場に立ち、学生の目の高さから幼稚園を知ってもらおうと考え努力した。幼稚園現場の具体的な事柄を、多く紹介したことはよかったと思う。	「幼稚園現場の具体例についての話が大変役に立った」「実習の研究協議で、いろいろな幼稚園の様子を聞いたことが大変役に立った」などの意見があった。実習前は不安や期待の心が入り混じっているようであり、実習後はそれぞれ園に特色があることがわかり、幼稚園を身近に感じたようである。	幼稚園現場を観察することは大きな意味があるように思う。子ども理解を深め、学習意欲を高めるのに大いに役立つと思う。今後こういった機会を少しでも多く取り入れたい。
音楽 I	淡路和子	5、4の順に回答が多く、平均合計86.4%であった。また、1は0%、回答2も僅か、良い評価を得られた。	通年・実技科目である。昨年度の評価を踏まえ、前期当初授業時に、授業形態と教材について改善した点が良い結果を生んだと考える。		授業形態、教材について、今後も担当者(複数)間の連絡をより密にし学生の期待に応えたい。
音楽 I	井後和恵	学生の評価と教員の評価に大差がなかった事は良かったと思う。授業の進度、教材等を研究し更に質の高い授業ができる様努力したい。	課題に取り組む時間の少なさは、学生・教員とも感じている。この点は今年度も問題点となってくると思うので時間配分等くわしく指導していきたい。	学生からの声が聴けるという事はたいへんありがたい。学生の不安、目標などを理解しつつ授業を進めることは大変重要だと思う。	音楽 I は初めてピアノを勉強する学生にとってかなりハードな授業だと思う。学生の声に耳を傾け、コミュニケーションを計り学生一人一人が前向きに勉強に取り組める様共に努力していきたい。
音楽 I	石崎利子	3クラスの集計結果を頂きました。若干差異はみられるものの学生達は熱心に授業に取り組んでくれたようです。ただ、1つのクラスで「そう思わない」が20%を上回った。課題量と時間不足については学生達の立場に立つて意欲の低下や過度の負担にならないよう検討が必要だと思います。	教員の側も複数担当で集計されていますが、全体に自己評価の方が学生評価を上回っています。定期演奏会や試験に向けてなどこちらも気合が入ります。「どちらでもない」がこれまでより多くなったようですが、授業をうけてことがすぐさまレベルアップや自信につながらないことに起因していると思います。	設問だけでは得られないより具体的な感想が聞けてよかったと思います。	卒業後、現場での保育に直結した授業内容となっているため、短大生になり初めてピアノや音楽に取り組む多くの学生達にとっては大変かと思えます。しかし、個人レッスンの授業形態を生かし、一人一人が意欲的に高い目標を持って勉強できるよう指導したいです。
音楽 I	大村満子	問9～12の結果を見ると学生は講師に対し、学内平均以上に高く評価してくれたように思う。実技の能力を身につけるため、個人の能力に柔軟に対応して指導するよう心がけたことが高い評価に結びついたと思う。	以前と同じように問18,19については課題の量が多いと学生が感じているようで、改善することは出来なかった。		問18,19の改善策としては保育の現場で即戦力として使える実力を身につけ、さらに課題を厳選すべきかもしれない。

音楽Ⅰ	大森由美子	14・16・20の回答が80%を越えていることから新しい知識や技能を習得し授業に対する関心を高め、実技の向上に役だったと考えてよい。	5・6・14の授業内容に関する項目は学生評価の方が自己評価よりも高いことから、授業の目的や教員の熱意は伝わったと思う。しかし実技指導や課題の量については、もう少し検討する必要がある。	ピアノの経験がある者とないで者で授業に対する取り組み方に差があるように思った。	各学生に合った課題の量と指導方法を考えなければならない。
音楽Ⅰ	角野美穂	学生は課題の量が多く、その課題をこなす時間も足りないと感じているようだ。	授業の難易度や進行速度に関しては教員側も少し工夫が必要である。		就職試験に合格して保育の現場でやっていく実力がつくことを願っての課題量ではあるが、ピアノ嫌いにならないように、課題の出し方など更に検討したい。
音楽Ⅰ	河津春奈	思っていた通りの評価です。実技レッスンのため板書はほとんどしていません。	教員の結果よりも学生の結果の方が下回っている。受容内容を良くする為に教員がもっと工夫しなければならないと思う。		各学生の進度に合わせて、適切な課題を与え、学生の技術に合わせた指導法をしっかりと考えなければならない。学生のやる気の出るような授業になるよう努力したいと思う。
音楽Ⅰ	木谷祐子	この授業は実技の授業であるため、自分が努力して課題に取り組まなければ、前へ進んでいかなない面を持っていますが、学生による評価は全体的に高いことから意欲的に取り組んで事がうかがえます。	全体的には学内平均と比べても評価が高いですが、毎年課題に取り組む時間のなさを感じる学生が多いことがわかります。ただ、入学時にピアノの試験を課していない学生を一年間で就職試験に対応できるまでの力を身につけさせるためには学生の側もこちら側も相当な努力が必要ですので、この点については仕方のないことだと思います。		今の状態を維持できるようにすることがまず大切だと思います。
音楽Ⅰ	久保雅世	全体的に高い評価を頂いていた。限られた時間の中で、学生の技術や実技の向上につながったと思う。	学生評価よりも自己評価が上回る項目が多い点が、気になった。	拍子をとってピアノを弾く事が難しいと感じている意見があった。拍を感じてく弾く事の大切さを、生徒一人ひとりに徹底できるようにしたい。	音楽Ⅰは実技科目であるため、個々に合わせた指導を心がけたい。また、基礎的な技術が身につくよう、教材を利用しながら進めていけるよう、努力したい。
音楽Ⅰ	久保雅世	全体的に高い評価を頂いていた。限られた時間の中で、学生の技術や実技の向上につながったと思う。	学生評価よりも自己評価が上回る項目が多い点が、気になった。	拍子をとってピアノを弾く事が難しいと感じている意見があった。拍を感じてく弾く事の大切さを、生徒一人ひとりに徹底できるようにしたい。	音楽Ⅰは実技科目であるため、個々に合わせた指導を心がけたい。また、基礎的な技術が身につくよう、教材を利用しながら進めていけるよう、努力したい。
音楽Ⅰ	麴谷さつき	問5～問7の項目についてクラスにより評価の開きがある。	個人レッスンなので比較できないが、やはり教材や課題に取り組む時間が学生によって問題になっているように思う。また、授業を受ける時間帯によって教室の大きさや設備に問題ありと思っている学生がいる。		教材やプリントの内容を学生の実情も含め考えたい。また、課題に取り組む姿勢について学生ともしっかり話し合う必要がある。
音楽Ⅰ	柴本絵美	平均して大体4～5で、3を下回ることはないので、全体的に評価はそれなりに高いのではないのでしょうか。	課題に取り組む時間は十分にあったと思う。という問いに対して、学生も教員も比較的评价が低く感じられる。	弾ける学生は楽しく取り組んでいるようであるが、苦手な学生にとってはいっぱいいっぱいで、楽しいと思える余裕がなかったように思える。	ピアノに初めて触れた学生や不器用な学生はやはり実技がネックになっているようだ。出来るだけ補講を行ったり、休み中ノバイエルレッスンなども積極的に行うべきであると思う。
音楽Ⅰ	杉田清子	この科目は3クラスを担当した。問6の授業の進行速度について、どのクラスも同じように進めているつもりだったが、クラスによって少し差が出た。しかしどのクラスも総合的に授業を受けて満足している点では共通して学内平均を上回っている。	昨年度は授業の難易度、進行速度について、教員と学生の評価に違いが出たが、今回の結果は比較的似ている。クラスによっては学生側に余裕があったように感じられる。	90分間に4人の学生のレッスンをしなければならぬので、もっとレッスンの時間が欲しいという意欲的な意見があった。私自身、学生一人に対するレッスンの時間がもう少しあればと思うことが多かった。	レッスンでは学生個人の適切なレベルを見極めて課題を進めていき、どの学生も満足できるように努めようと思う。
音楽Ⅰ	西川夏代	実技科目のみ回答のすべての設問において学内平均を下回っており、特に課題の量や課題に取り組む時間に関しては大きく下回っていたのが気になった。	自己評価に対して学生評価は全体的に下回っていた。学生評価と自己評価の差が開いている設問が多くあった。		実技課題の内容に関しては最低限必要な内容であるため、取り組む時間に対して課す課題の適切な量を考えなければならない。
音楽Ⅰ	早川未紗	4、5と回答した学生が多かったので、授業内容を理解し、実技の向上に役立ったのではないかなと思う。	教員評価が学生評価よりも上回っているが、学生評価も4の評価が多いので、満足してくれていると思う。	一人ひとりの学生の意見をしることができるので、自由記述は良いと思います。	学生の技術が向上するように授業の方法を考えていきたいと思います。
音楽Ⅰ	藤本紀子	○学生自身ももっとできるのに、充分に取り組めなかったと自己評価している点に、注目した。○クラスによって教材レベルが適切であったと感じる度合いにばらつきがある。	昨年は教えていないため、比較しづらいが、教員の熱意が生徒に伝わっていないなら、どの部分に問題があったか考えたい。	課題が多いと感じている生徒がいるようだが、学生自身ももっとできるのに充分取り組めなかったと自己評価しているのと矛盾している。しかし2年生へつなげるには必要な課題であるこれらの課題を、今後、課題が多いと感じさせないで進めるようなような努力を講師はする必要があるだろう。	自由記述をみる機会があれば、参考にして、今後につなげたい。
音楽Ⅰ	牧田さやか	ほとんどの項目で、学生からの回答は4以上が多く見られるが、どの質問も、教員の方が評価が高い。しかし、予想よりも学生の評価が高かったため、普段の全体的な授業に対する態度に反して、意欲的に取り組んでいるようだ。	昨年度と比較すると、大きな差はなく、学生からの評価は高い。授業の内容は学生にとってよいもので展開されていると思う。		学生の授業に対する意欲を向上させるように、的確な指導を心がけたい。

音楽Ⅰ	増谷尚子	問5の質問に対して、3の結果が多い。しかし保育の現場に立つということにおいて、必要最低限の技術は身につけなくてはならないので、難易度をかえるのではなく、一人ひとりの学生に対してもう少し目を向けなくてはいけないのか。	難易度が高いと応える学生が多いが、内容理解に関しては、学生評価の方が高い。この授業に熱心に取り組んでくれたかという質問に対しては、教員、学生ともに高い評価なので、授業に対して教員・学生ともに前向きに行ったように思える。	一人ひとりの思いが伝わり、反省点が見つけれられて良い。授業への取り組みもしやすくなる。	実技の授業なので、一人ひとりがレベルが違い、アンケートの回答も変わってくるが、少しでも多くの学生に満足して貰えるように努力していきたい。
音楽Ⅰ	向山裕子	全体的に学生の評価はかなり高いように思います。この授業の必要性を感じているようです。		やはり、ピアノが難しいと記述している学生が目立ちます。	全体的には良い方向で授業が進んでいると思います。しかし2年間で保育士として現場に通用する力をつけるためには一部授業内容を考え直す必要があるかもしれません。
音楽Ⅰ	向山裕子	全体的に学生評価はかなり高いように思います。この授業の必要性を感じているようです。	問16、17で特に学生評価が高いようです。個人差が顕著に現れる授業なので、学生の中にはもっと時間欲しかったと思っている学生もいるようです。	やはりピアノが難しいと記述している学生が目立ちます。	全体的には良い方向で授業が進んでいると思います。しかし2年間で保育士として現場に通用する力をつけるためには、一部授業内容を考え直す必要があるかも知れません。
音楽Ⅰ	八束めぐみ	全体的に学生評価よりも教員の自己評価が上回っている。特に学生と教員の評価に大きな差が見られる問9については、教員の熱意が学生に伝わりにくいと感じられる。	実技のアンケート結果について、昨年度と同様、学生の思いと教員の思いにズレがある。しかし、学生は与えられた課題に取り組む時間が充分にあり、授業で課した課題の量は適切であったと思う。	特になし。	教員の熱意がさらに伝わるように努力したい。学生の実技向上に役立つように、授業の工夫がより必要だと思う。
音楽Ⅰ	吉岡紀子	多くの学生が授業に満足して取り組み、技能の習得、授業の内容を理解できたと考えているようだ。その中で“どちらでもない”という項目を選んでいるものも目立つ。	教員が求める内容の理解、実技の習得に、学生の意識が随分近づいてきている。今年度は実技の課題の進め方を大きく変えたことが大きいと考える。	たいへんは個人の実技指導であり学生との関わりが深い。普段授業時に感じる様子と共通するものがあつたので、とても興味深く思った。	“どちらでもない”という項目を選ぶ学生が多いのはなぜか。実技の教科であり、個人指導または大勢の教員で授業にあたり、時期によっては指導形態が変わるため、質問の解釈を統一する事が困難であったのではないかと思う。
音楽Ⅱ	井後和恵	二年間四條畷学園にて勉強した学生から自己評価より良い評価をいただいたことは大変うれしい。更に良くなるように努力したい。	音Ⅱにおいても、課題に取り組む時間は学生、教員共に少ないと感じている。この点は改善すべきであると思う。予習、復習等の仕方も含めて指導していきたい。	学生は私の先生だと思っている。学生からの評価を確認できるというのは大変良いことだと思う。	社会に巣立っていく学生が授業から技能のみならず、生きていく力をも身につけて卒業できるよう課題の与え方、時間配分等に更に気を配っていきたい。
音楽Ⅱ	石崎利子	2クラスの集計結果を頂きました。ひとつのクラスでは平均(1~20)4.55、もう一方のクラスでは平均(1~20)3.99と予想を上回る高い評価を得ました。意欲的に課題に取り組んでくれたと思います。	評価の低い方のクラスでは学生評価が自己評価を下回りました(3項目を除いて)。全体的に高い評価の中、少数意見ですが、課題量や時間不足で困っている学生のことも見落としはしていないと思います。また、片方のクラスでは「熱心に取り組んだ」の項目で4.85、他方では3.73。この隔たりにも注視したいです。	設問からは得られない希望など窺えてよかったです。	音楽Ⅰの延長上にある音楽Ⅱの授業で2年生の学生達が意欲的なことばとても望ましく嬉しい。個人レッスンやグループセッション中心の授業ですが、クラスによって著しく雰囲気が変わらないように心がけたいです。併せて、課題で困っている学生については個人レッスンやたくさん教員で行う試験でサポートしたいと思えます。
音楽Ⅱ	大村満子	問20の結果はかなり深刻なものではないかと思われる。保育の現場で必要な実技能力を身につけるのに役立つ授業とならなければ課題などの見直しも必要だと思う。	就職活動の実技指導などに重点を置かざるが講師側の熱意が空回りしている感がある。音楽Ⅰと音楽Ⅱの違いが無いとされているようなので、個人別の課題や目標設定を考えるべきかもしれない。		
音楽Ⅱ	大森由美子	項目によって評価に差があるが、16・20の授業に満足している・実技の向上に役立ったと言う項目は良い評価が出ているので良かった。	1・2・9の聞き取り易い速さ・わかりやすい説明・熱意をこめての項目は学生評価に比べ自己評価が高いように思う。このような結果が出たことを反省し次年度の授業に生かせるようにしたい。	特になし。	実技授業のため個人差があることを再認識し、丁寧な指導を心がけたい。
音楽Ⅱ	角野美穂	概ね4の評価が多かったが、どちらでもないといった回答も目立ち、少し残念である。	ほとんどの項目で学生より教員の自己評価が高かった。後期は学生も時間的にはかなりゆとりがあったはずなので、もっと中身が濃くなるように考えたい。		就職試験や保育の現場で役立つように、更に課題を工夫したい。
音楽Ⅰ	河津春奈	学生の評価は思ったより低いように感じている。あまり学生には伝わっていないように思う。	教員と学生との評価に差があるように思う。授業内容を良くするために教員がもっと工夫しなければならないと思う。		各学生の進度に合わせて、適切な課題を与え、学生の技術に合わせた指導法をしっかりと考えなければならぬ。学生のやる気の出るような授業になるよう努力したいと思う。
音楽Ⅱ	木谷祐子	概ね4.5前後と学内平均値より高い評価が出ています。将来、幼稚園教諭となるためには実践的な実技の授業に対して学生が有意義に取り組んでいることがわかります。	このクラスはまとまりもよく全体的に良い雰囲気の中で学生それぞれが課題に取り組んでいる印象を受けました。評価の上でも自己評価・学生評価の間にさほど開きがないことがわかります。		今の状態を維持することが大切です。
音楽Ⅱ	麴谷さつき	全体的に学生の評価は良かったように思います。	個人レッスンが中心になるので昨年度と比較は難しいが学生も熱心に授業に取り組んでくれたと思う。		技術の習得に個人差はあるので常に教材や課題に取り組む時間について考えなければならないと思う。
音楽Ⅱ	柴本絵美	全体的に平均して4をつけている学生が多いようなのでそこそこの評価と思う。	教員が気をつけたり心がけていることが伝わり切れていない部分もあるようだ。	実技が苦手な学生にとっては苦痛に感じる部分もあるようなのでできるだけ取り組みやすいように心がけて授業をしていくべきだと思う。	課題の量が適切であるか考え、苦手な学生に対しても興味をもてるような授業をこころがけていくべきだと思う。

音楽Ⅱ	島長恵美	今回は2つのクラスの結果を見比べることができました。それぞれが何組であるかは想像ができますが、同じように熱意をもって取り組んでいるつもりでも学生たちの反応は違ってくるものだなということに改めて気付かされました。	クラスにもよりますが、自己点検の結果を学生の評価が上回っている項目も多々あり、熱意をもって取り組んだことがよかったのかなと思いました。問8の板書については、毎回書かせて頂いていますが、実技科目なので判断が難しい面もあるかと思っています。	自由記述には、無記名である気楽さからか、学生の素朴な気持ちが表されているように思いました。	学生たちが、何を望んでいるか、今、何をアドバイスするのが適切なのかを常に見きわめ、有意義な指導を心がけていきたいと思っています。
音楽Ⅱ	杉田清子	この科目は2クラスを担当した。一つのクラスは全体的に学内平均をほぼ上回っており予想以上の結果で驚いている。もう一つのクラスは極端に評価が低く、改善すべき点が多かったのではないかと反省している。詳細を見ると、評価が「3どちらでもない」と「5そう思う」に偏っていることから満足している学生とそうでなかった学生とに二分化してしまったようだ。	一方のクラスでは学生評価と自己評価は比較的良好に似ている。もう一方のクラスでは両者に非常にズレがある。特に問9の「熱意を込めて」に関しては差が最も開いてしまった。	2年間音楽の授業を受け、嫌いな点Aが好きになった、楽しかったという意見には大変嬉しく思う。	学生評価が低かったクラスではすべてが学生満足できる授業ができなかった。一部分にならず一人ひとりにしっかり目を向けて全体を見ていけるようにしたい。
音楽Ⅱ	野間路代	「どちらかというそうは思わない」という回答が幾つもあったので、少し残念でした。	自己評価と学生評価の違いが殆どの質問に大きくみられた。もう一度見直しても自己評価の方は変わらないと思うが...	他の教科でもそうだが、殆どの学生が余り書いていない。面白い意見もあるので、来年度もみたい。	学生と多くのコミュニケーションをとって、いろいろな情報交換を心がけた。授業に関する話を話していきたい。
音楽Ⅱ	早川未紗	「どちらかといえばそう思う」の意見が多かったため、全体的に学生は授業内容を理解し、技術を身につけたように思います。	授業内容について良い評価をしてもらっているが、学生は真剣にアンケートに答えてくれているのであろうか。	自由記述では、学生のより自由な意見を知ることができるので、学生の一人ひとりの気持ちがわかりやすい。	自由記述の学生の意見を参考に授業の方法を工夫していきたいと思えます。
音楽Ⅱ	牧田さやか	どちらでもないという回答が多く、そうは思わないという回答も少くない。学生の、授業に対する意欲は欠けていたと思う。	昨年よりも学生の評価は低い。これは、授業での学生の態度を見ても頷ける結果だった。		学生の意欲向上を図るためにこちらがわも熱意を持った授業を心がけたい。与えられた課題に真剣に取り組むよう、学生への励ましを交えた的確な指導を心がけたい。
音楽Ⅱ	増谷尚子	このクラスの学生は余り考えずに評価しているのではないかと。全項目4が43.8%、5が37.5%。このことからじゅぎょうへの関心度は高いように思える。	全体的に教員・学生ともに評価が似ている。しかし学生のアンケートへの関心が全くないように思う。	一人ひとりの学生の思いが伝わり、改善にもつながるのでとても良いと思う。	実技の授業のため、一人ひとりのレベルが違うので、全員の学生に満足して貰えるように最善を尽くしたい。
音楽Ⅱ	向山裕子	クラスにより評価がかなり違ってきます。あるクラスは全評価が3点台という厳しい結果でしたが、その反面、3、どちらでもないの回答が多く、どのように理解すればよいかとまどいます。また、あるクラスはほぼ全設問学生評価が同じという珍現象がおきています。	学生評価の方がやや下まわっているものの、ほぼ同じ似通った結果でした。	ほぼ白紙のため、アンケートの実施事態に疑問を感じます。	このアンケート結果を学生には公開しているのでしょうか？ 真剣に記入してもらう為にも公開したほうが良いように思います。
音楽Ⅱ	向山裕子	クラスにより評価がかなり違ってきます。あるクラスは全評価が3点台という厳しい結果でしたが、その反面3のどちらでもないの回答が多く、どのように理解すればよいかとまどいます。またあるクラスはほぼ全設問学生評価が同じという珍現象がおきています。	学生評価の方がやや下回っているものの、ほぼ同じ似通った結果でした。	ほぼ白紙のため、アンケートの実施自体に疑問を感じます。	このアンケート結果を学生には公開しているのでしょうか。真剣に記入して貰うためにも公開した方がよいように思います。
音楽Ⅱ	吉岡紀子	ほとんどの学生が授業内容とその意味を理解し、熱心にとりこんでいる。その中で、「課題に取り組むための時間は充分にあったか」という問でのばらつきが目立った。	教員の集計結果に対し、クラスによっては全ての項目での割合が似かよっていたりと、結果に疑問を感じるものもあった。	音楽という実技科目に適したとは言えない問や、2のあやふやな気持ちで答えたものよりも、短い文章であっても実際学生が感じることを記述しているものの方が、今後の取り組みに反映しやすいと感じた。	実技の授業において、「課題に取り組むための時間」とは、多くは授業以外の時間の準備をいみするため、学生の意識と計画性がうまくかみ合わなければ良い結果を得られない。各学生に応じた課題、指導法をみだす必要がある。
音楽Ⅱ	久保雅世	授業の理解度が他の項目に比べて、少し評価が下回っている。実技の授業だからこそ、生徒たちが肌で感じて学べるレッスンが心がかたい。	問9の設問に対して、学生評価と自己評価に差がある点が目立った。	授業を通して、音楽を楽しむ事ができた、と言う意見が多数あった。学生評価と照らし合わせても、有意義な時間を過ごせた学生が多かったのではないかと感じる。一方で少数派の意見にも目を向け、来年度の改善点としたい。	限られた時間の中で、たくさんの課題をこなしていく事は学生達にとって大変な事ではあるが、学生時代に自分のレパートリーを増やしておくことが、将来、現場で必ず役立つことを、熱意を持って伝えていきたい。
日本語表現法	石川 承紀	学生からの評価は芳しいものではなかった。声の大きさなど自分では分からない点について改善のヒントを得た。	昨年と変わりはない。漢字の学習等を中心におく必修教科であるので、課題も多く、しかも、一年分を半年に詰め込んでいるので、学生の負担も大きい。	参考となることもあった。	授業の流れを大切にしようとして、質問に応じきれないこともあった。対策として、質問カードを作った。まだ不十分だが、生かしていきたい。
英語(英会話A)	奥田 純	学生からの評価は、学内平均を下回る項目が殆どと厳しい内容であった。ただ、丁寧な説明、授業の進行速度、学生の質問への対応についてはほぼ平均並みで、学生の授業への基本的なつなぎめは確保できていると判断する。(なお、学生評価がクラス「ろ」が「は」があるいは両方のものか不明)	(本年度から担当)基本的に自己評価に対し学生評価が低い、自己評価を5とすると学生数が多いほど学生の評価と乖離しやすく、且つ学生評価は低くなりがちに思われる。この傾向の中でも、授業の静かな環境作りについては、こちらの努力に対して結果が今ひとつの時は、厳しく評価された。	授業時間が長すぎる、黒板の字が読みづらい、英語は嫌いなので楽しくなかった、授業内容が難しかったといった苦情が結構多かった。一方、わかりやすく説明してくれた、面白かったとの評もあった。「は」のクラスの自由意見)	「ろ」、「は」のクラスで同じ教科書を使ったが再考の余地あり。(難易度の問題)少数のうるさい学生を静かにさせる必要がある。また、英語が苦手な嫌いな学生が多いと思われる、教材の選定、教え方に工夫が必要。
英語(英会話A、B)	柏木俊和	予想通りであった。	ほぼ同じ。	まあ、あった方がよいとは思う。	クラス分けで一番英語の苦手な学生のクラスであったので、何とか英語に興味をもたせるよう努力したつもりだが、なかなかそうは行かなかった。中には多少関心をもつ学生もいるので、英語を必修からははずすのも一つの方法だと思う。

英語(英会話 A)	井上泰子	授業の進度が速く、教材が学生のレベルに合っていないかと思われる。よくできるクラスで、上位の学生についてはある程度成果はあったと思われるが、かなり無理を強いていた結果がでていると思われる。	1時間目の授業で、不機嫌なところに、かなりの内容を無理やり詰め込みすぎた嫌いがある。比較的基礎学力のある集団で、できるだけ力をつけたいとの思い入れがあり、欲張りすぎた感がある。	授業の進め方が早く、板書が追いつかないという意見がかなりあった。学生の能力差を考え、改善したい。	教師がこれだけは身につけさせたいというレベルと学生の興味関心のありようがかなりの格差があることに気づいた。レベルを上げて知的好奇心を高めてくれた学生も少なからずいるので、今後、全体をどう高めたいかが課題だと思う。
英語(英会話 B)	奥田 純	上記302と実質同じ授業であったが、教室が302は狭く(北11)この305は広かった(北1)こともあるのか、平均を下回る学生評価であったが、302より評価は良かった。項目別でも基本的に302と同傾向であった。(なお、学生評価がクラス「ろ」か「は」かあるいは両方のものか不明)	(本年度から担当)基本的に302と同じ。自己評価を5として学生の評価の厳しかったものは、静かな環境作り。一方、自己評価4で、学生評価がこれを下回っているものの中では、問14の新知識、技能習得が課題。	音読、会話をもう少しやりたかったとの意見があった。また、黒板の字が読みづらい、週2回も授業がありきつという苦情もあった。一方、面白かった、楽しかったとのコメントも何人かの学生から得た。(「ろ」のクラスの自由意見)	「ろ」、「は」のクラスで同じ教科書を使ったが再考の余地あり。(難易度の問題)少数のうるさい学生を静かにさせる必要がある。また、英語が苦手な学生が多いと思われ、教材の選定、教え方に工夫が必要。
英語(英会話 B)	井上泰子	英語Aと同じクラスで、同じテキストを使用し、同じやり方で指導しているが、評価にかなり違いがある。この時間は金曜日の4限で教える方も、学習する方も気持ちのゆとりがあるからかも知れない。	テープレコーダーを活用して、書き取りを中心に授業を進めてきた。授業のはじめに、時事英語や英米の文化に関するトピックをプリントにして取り上げた。学生にどうしても知ってほしいという思いがあったが、相手によっては独りよがりの部分もあったのではないかと。	進捗が速すぎるという学生がいる一方で、英語が好きになったという学生も少なからずいる。いろいろな知識が増えたと評価してくれる学生もいた。書き取りのテープ速度が学生によっては無理があったようなので、気をつけたい。	本年度は、初めての経験で学生の学力や興味関心についての理解が十分でなかった。学生の声に真摯に耳を傾けることにより、適切な授業内容と指導法を模索したい。但し、安易な妥協は避けるべきであると思う。
情報基礎	畑野清司	学生の集計結果が示しているように難易度、興味、理解度などが平均を下回っている。この科目は、教科書に沿って授業を進めているが、基本になる考え方が、論理的で数学的であるため、数学は苦手という学生にとってはかなり難しく、興味や理解度が低いものと思われる。	ほぼ予測どおりの結果となっている。リテラシーとして身につけてもらう科目なので学生は良く頑張っていると思う。	知らないことばかりで、不安だったがまあまあ楽しく勉強できた、という意見が多かった。一方、板書が見にくいという意見もあった。板書については改善していきたい。	二つのクラスに同じ内容の講義をしているが、理解度に差がある。授業は理解度の上のクラスに合わせて進めたためもう一方のクラスの理解を十分得られなかったものと思われる。
パフォーマンス演習	村井、畑野、中川、北村	「学生評価」の平均値(1~16)は「3.56」である。この数字から判断して、学生のこの授業に対する評価は「可もなく不可もなく」というところである。しかし、当該平均値を少なくとも「4」に近づける努力が必要である。	担当教員の「自己評価」は、問12~16を除いてすべて「5」としたが、この結果、「自己評価」と「学生評価」の間に「1.44」分の乖離が生じた。もしも「自己評価」を「4」としておけば、数字の上では乖離は生じなかったはずである。こうした点についての再検討が必要である。なお、昨年度の結果との比較であるが、データがないので、ここでは論評を差し控える。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。ただ、「板書」をもう少し見やすく、また書き取りやすくしてほしいという要望が1,2あったので、この点への配慮が必要と思う。	「学生評価」については、合格点が得られているので、現時点では授業内容や方法を大幅に変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていく所存である。
モチベーション演習	村井、柏木、石川、畑野、新田、中川、奥田(玲)、奥田(純)、井上、北村	「学生評価」の平均値(1~16)は「3.54」である。この数字から判断して、学生のこの授業に対する評価は「可もなく不可もなく」というところである。しかし、当該平均値を少なくとも「4」に近づける努力が必要である。	担当教員の「自己評価」は、問13~15を除いてすべて「5」としたが、この結果、「自己評価」と「学生評価」の間に「1.46」分の乖離が生じた。もしも「自己評価」を「4」としておけば、数字の上では乖離は生じなかったはずである。こうした点についての再検討が必要である。なお、昨年度の結果との比較であるが、データがないので、ここでは論評を差し控える。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。特に、「私語」が少なく授業の雰囲気良かったという記述が多かった。	「学生評価」については、合格点が得られているので、現時点では授業内容や方法を大幅に変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていく所存である。
ライフデザイン原論	村井、中川、奥田(玲)、黒石	「学生評価」の平均値(1~16)は「3.35」である。この数字から判断して、学生のこの授業に対する評価は「可もなく不可もなく」というところである。しかし、当該平均値を少なくとも「4」に近づける努力が必要である。	担当教員の「自己評価」は、問12、13、14及び16を除いて、すべて「5」としたが、この結果、「自己評価」と「学生評価」の間に「1.65」分の乖離が生じた。もしも「自己評価」を「4」としておけば、数字の上では乖離は生じなかったはずである。こうした点についての再検討が必要である。なお、昨年度の結果との比較であるが、データがないので、ここでは論評を差し控える。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。特に、「私語」が少なく授業の雰囲気良かったという記述が多かった。	「学生評価」については、ほぼ合格点が得られているので、現時点では授業内容や方法を大幅に変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていく所存である。
世界の文学	石川 承紀	日本語表現法よりはるかに良い結果を得た。準備にかける時間、処理にかける時間、皆「日本語表現法」の方が多い。教科の性質・必修と選択の違いなどの為か。	昨年と変わりはない。	「おもしろかった。」が90パーセント。これを喜んでいてはいけない、という印象が強い。	もう少し体系的に「世界の文学」に取り組ませるべきか」とも思う。
日本の歴史	村井良介	授業の声の大きさ、配布したプリント、授業の工夫などについては相対的に評価が良かった一方、学生が興味を持って熱心に取り組めたか、内容をよく理解できたか、知識や考え方を習得し、より関心が持てたかといった点が相対的に評価が低く、内容に関心が持てない学生が多かったと思う。	授業はほぼシラバスどおりに進んだが、学生があまりそのように感じていないのは、内容の理解についての値が低いことと関わっていると思われる。昨年度に比べ、私語を注意するようにしたものの、アンケート結果を見れば、まだ不十分であると思われる。	自由記述は白紙の回答が多かった。学生の私語は全体的に多かったが、中には他の学生の私語や態度などを不快と感じていた学生もおり、より注意が必要であると思う。	授業中、学生への質問を増やすなど、授業に関心に向ける努力が必要である。そのためには内容を質問して回答するという形に合うように、整理していかなければならない。私語や態度などについても、頻繁に注意して、授業に関心向けさせ、あるいは他の学生の集中の妨げにならないようにしたい。
文化と人権	曾和 信一	学生による有効回答数が7名とその絶対数が少ないということを前提にする必要がある。少人数ゆえにフェース・トゥ・フェースの関係となり、学生による授業評価全体の平均値もやや高くなる傾向になることが読み取れるのではないかと。	今年度も昨年度と同様に、パワーポイントとビデオを用いた授業を行った関係で、問7の視聴覚教材等の使い方の適切さへの評価が高くなっている。それに対して、問14の授業内容への関心の高まりへの評価が最も高かったところに、当該授業の問題の所在があるといえる。	学生の自由記述の数は質量ともに少ないが、その中には真剣に記述したものも見られ、今後の授業のあり方の参考となった。自由に記述することについて、学生にはややもすれば煩瑣を強いるかもわからないが、今後とも「自由記述」を大切にしていきたいものである。	授業のプレゼンテーションのあり方を更に多様化し、参加型授業に向けて創意工夫するように努めたいと考える。そのことと併せて、授業内容そのものの理解を促すために、学生の興味・関心に即して、その内容の精選を図ってきたいと思う。

自分探しの心理学	北村瑞穂	学内平均より高い評価を頂いた。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。昨年とほぼ同じ傾向である。もう少し自己評価を修正して良いようだ。	途中から、プロジェクトの調子が悪くなり、暗い中で授業を進めたため、それが辛かったという意見があった。夏休み中に事務所に連絡して対応した。予想以上に、楽しかったという評価をたくさんもらい、安心した。	項目の中では、授業内容に関する理解と関心が、最も評価が低かった。来年度は心理学への関心が高まるように、できるだけ実生活に関わりのあるトピックを用意してみようと思う。
くらしと社会	中川博	まずまずの評価をもらったと思う。受講者が少なく、私語もほとんどなく、学生も授業に集中できたことが、予想外の高い評価につながったのではなかろうか。	受講者が少なく、いささか活気に欠ける雰囲気であったが、落ち着いて講義できて満足している。		
くらしとパソコン	稲浦				
くらしとパソコン	岡安類	特になし。	自己評価より低かった。	特になし。	特になし。
くらしとパソコン	鈴木正彦	学生の評価はいずれも、学内平均を下回っており、今一度、内容の程度、進捗について再考したい。	自己評価を控え目にした調査項目もあるが、学生評価と概ね一致しているものと判断する。昨年度と比較し、担当した2クラスの学生の資質に大きな差が在った。授業展開に一層の工夫が必要であると改めて感じた。	学生への対応については、概ね好評であった。厳しく接した別の教員についての記述には、日本語の表現としては如何なものか…と思う回答もあった。	授業内容の改善、課題の分量の検討を行いたい。甘やかさず、大学教育の質を落とさず…という困難な課題に迫りたい。
くらしと環境	汐見信行	私の思いを100%受け取ってもらえないのは残念。逆に私が自信の無い面は意外に評価している。が、いずれにせよ全て、3~4に評価しており、どこまで真剣に受け止めたかは疑問。静かに90分間かせることの難しさを今さら知った。	大部分が、女子学生(短大)の講義は初めてなので、当初は従来どおりの講義スタイルをとった。自己評価する面と、学生の評価は一見相反していた。これまでとは異なる方法(少人数なので、片っ端から指名して参加させたが)を、考慮する必要がある。	ほとんどの学生が「ありがとう。ためになった。興味をもった」と書いているが、現実の授業態度からはそう読めない。2枚舌とまでは思わないが、Gapを感じる。	私の講義を100%ではないが、本学の学生(多くが女子)に対する良好な方法を模索してみたい。ほとんどの先生が、苦勞していると思うので、色々聞かせてもらう。このアンケート当日、時間が残ったので、5~6の学生とざっくばらんに話しをしたが、その時のほうが興味が有り、良かった。
スポーツI	黒石久昭	まずまずの評価ではないかと思っている。	今年度は、男子・女子の混合クラスとしては、高い評価だと考えられる。	学生はそれなりに、楽しんでくれたようである	男子学生の一部、授業態度に問題があったのではないかと反省している。
ファッションコーディネート演習	本山光子	全体的に学内平均を下回っており、授業内容、進捗などについて、再検討する必要があると感じた。	授業に対する準備と工夫、難易度のレベル、進捗度についてのギャップが自己評価に対して非常に大きかったことに注目した。特に進捗度に関しては学生の状況に合わせて、少し遅くしたつもりであったが、新しい知識、関心を高めてくれたかという質問に対して、自己評価より高かったので、逆効果だったのではないかと反省する。		授業の実習方法をもう少し改善し工夫する必要があると感じた。また進捗速度については、調整しながらも、内容をシラバスの内容を十分消化できるよう努めていきたい。
ファッション販売I	本山光子	進行速度、熱意、授業内容の理解、満足度に関して、学内平均より下回っており、学生のニーズにもう少しきめ細かく対応していく必要があると感じたが、新しい知識や考え、必要な技能の習得については予想より高かったので、もっと内容を濃く、レベルアップしても良かったのかと感じる。	テキストやプリント、視覚教材の使い方、板書についての自己評価と特にギャップが大きかったので、もっと理解しやすいように工夫していく必要があると感じた。		学生の熱心さについて把握しきれていなかった点も反省点であり、よりコミュニケーションを密にし、興味の対象を具体的に把握しながら、重点をおいて説明する部分を絞って進行して行きたい。
メイクアップ(ネイルアート・演習含む)	西澤有香	想定していたよりも「そう思わない」との回答が多く、残念に思います。学内平均よりも下回っている回答が多かったため、後期の授業内容の工夫に努めようと思います。	自己評価よりも下回る評価が多く、授業の内容・使用する資料や教材など改善が必要かと思いました。グループでまとまって欠席する生徒もいたため、もっと魅力のある授業にしていきたい、全ての生徒が出席率100%になるよう努力していきたいと思います。	手元に受け取れたのは出席率の良い、授業に対する意識の良い生徒の意見だったので興味深く学んで頂けたような内容でした。逆に欠席の多かった生徒の率直な意見も聞いてみたいと思いました。	講義が15分以上続く中で集中力が続かない生徒が多かったため、講義と実技のバランスを工夫し、より楽しんで学べる授業にしていこう、授業評価を高めてもらえるよう意識して取り組みたいです。実技中心の授業になってくると気持ちのゆるみが出てきたので緊張感も与えつつ、興味を持って取り組んでもらえるよう授業内容を考えていきたいと思っています。
色彩の基礎	吉真和恵	一昨年と比較して0.57平均評価ポイントを下げる結果となった。特に問11の「授業に集中できる静かな環境をつくる」の項目に関する結果からは「集中しやすい環境を整えること」が最優先課題だと改めて実感させられた。評価の低くなった項目を再確認して、全体的な満足度を得られるよう努めたい。	提出物の提出状況も良好、期末試験での解答率も高く内容の理解度の高い学生が多かったのだが、例年になく学生の集中力や落ち着きが継続しないことが多く、色彩の学習以前の環境作りの段階で問題があった。明確な解決策を見出せないままアンケートに答え、幾分消極的な自己評価を行ったと思う。	同じ内容の講義を受けていても、「おもしろかった。わかりやすかった」(自由記述の74%)という意見と、「騒がしかった。作業が多く大変だった」(22%)などの意見の相違があった。具体的な学生の「生の声」が聞けて、今後の参考になると感じた。	私語などを減らし、全員が集中して授業に臨めるように導き、同時に内容の理解度を上げられるように努めたい。経験豊富な先生方から指導法を伺う機会もあったので、今後の静かで落ち着いた教室の環境作りに活かしたい。色彩にさらに興味を持ってもらえるよう教材にも工夫を凝らした授業を展開したい。
カラーコーディネート論	吉真和恵	平均4.08という評価を頂いたが、昨年に比べると少しポイントを下げる結果となった。「授業に集中できる静かな環境」や、「適切な教室の大きさや設備」の項目の評価が低いことから、授業を受ける際のより静かで心地よい環境の提供が強く求められていると感じる。	一昨年と比較して授業の進め方に関しては大きな変更点はなかったが、授業中の学生の集中力や、取り組み方に対してかなり不安な部分があった。改善したい要素が多いという思いから、かなり厳しく自己採点を行ったことが、評価の数字にも反映されている。	評価の数字ではわからなかったが、自由記述の意見の半数は「色の世界は奥が深い。楽しかった。」などの前向きなものであった。また「色彩の基礎と内容の重なっているところがあった」など今後の授業に参考になる具体的な意見もあり、ぜひ次に活かしたいと思う。	本講義の後に「色彩の基礎」がプログラムされているという順番上、コーディネート論と並行して基礎的な内容を加えるのが、効率も悪く進行が難しかった。提出物や期末試験の成績はこれまでより良かったので、今回の良い点は残しながらも改善策を練りたい。静かな授業環境の提供にも取り組みたい。
シルクスクリーン演習	中路規夫	満足できる結果です。	昨年と同じく、生徒を10名以内に限定したので、じっくりとしっかり指導することができ、満足である。	皆んな、新しい体験の中で、創造の喜びを感じてくれて喜んでいる。	半期だけの授業では、体験するだけに終わってしまっている。年末に行われる全国大学版画展に出品するためには、少なくとも通年で、できれば2年間続けて、受講できるシステムを作りたい。大学版画学会からも2回生以上の生徒の作品を出品するよう言われている。

食生活と健康	奥田玲子	熱意を持って、丁寧にわかりやすい授業を心がけたことは学生にもその通り評価された。が、難易度、進行速度、新しい知識などの項目で学内平均を下回っており改善が必要と思われる。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。授業の進行速度、難易度の評価のみ逆の結果を示した。この結果は昨年度とほぼ同じ傾向を示した。	授業の進め方が早いという意見が少数あった。学生の健康や食事に対する意識を高められたと感じる記述が多くみられた。今後も学生の意識改善、食生活改善をめざし生活に役立つ授業を心がけたい。	授業の進行速度を学生に合わせ、確認をしながら、理解度のアップ、知識の定着に努める。実際の食生活に役立つ新しい知識の提供にも力を入れたい。
食の歴史と文化	中山伊紗子	学生から非常に手厳しい評価を受けて戸惑っている。最も低い評価を受けた内容については教材をもう少し平易なものに変えて対処したいと思う。またもっとゆとりかんで含めるような話し方が求められていることがわかった。	自分なりに精一杯努力した積りなので自己評価を高めたが、学生の評価とはかけ離れていたことでも少し努力して学生の水準に合わせて、授業の組み立てなおしが必要である。	「内容が難しかった。」「ビデオが見にくかった。」「ビデオを見ながらプリントに書くのは難しかった」などのクレームが相次いだ。教材をもう少し平易なものを探ることが求められていると思う。	授業内容の再検討(もう少し平易なもの)、話し方のスピードをおとし、板書に時間を割いて理解の徹底を図る。
食の安全性	坂口守彦	各人の記憶に授業内容を銘記させるため、声を大きく丁寧に、実例をひきながら説明し板書した。本科目は比較的授業しやすいものであるが、それでも、十分に理解されているとはいえない。学生の理解度はほぼ学内平均に近い。	問1、2、6、9、12および14については、できるかぎりの努力をしたにもかかわらず、学生にこちらの熱意が十分伝わっていなかった。一方、問3、7、10および15については、学生による評価が予想以上に高かった。これらの結果は昨年とほぼ同程度類似している。	実例をあげて丁寧な説明であったと比較的好評であった。一方、板書の字が読みにくい、授業に関心をもたせるような話し方ではないという批評が一部にみられた。しかし自由記述させるのは好ましい試みである。	授業は、主として板書により進めたが、ときおりカラー写真、図表などを提示し、プリントを配布した。これらの補助的な教材は学生の理解を助けるために不可欠である。板書、説明、補助教材を組み合わせて授業内容への理解度をこれまで以上に高めたい。
食品材料の基礎知識	坂口守彦	授業開始以前から本科目は上記科目よりも比較的教授しにくいと認識していたが、内容の理解度、満足度などが学内平均をかなり下回っており、予想以上に悪い評価であったことはきわめて残念である。	全般に学生による評価と自己評価は傾向が類似していたが、問1および9について、できるかぎりの努力をしたにもかかわらず、学生による評価が低く、こちらの熱意が十分伝わっていなかったことを示していきわめて遺憾である。この点は昨年にも共通するところである。	板書の字が読みにくい、授業に関心をもたせるような話し方ではない、授業内容のポイントが明確ではないなどの批評がみられた。しかし自由記述させるのは好ましい試みである。	これまで授業は、主として板書により進め、ときおりカラー写真、図表などを提示し、プリントを配布した。しかし、これでは本科目にたいする学生の評価が高いとはいえないので、理解を助けるためにプリントなどの補助教材を多用する方向へ変更したい。
フードマネージメント・メニュープランニング	潘龍諤	平均値は悪くはないが、少なくとも数%の「1. そうは思わない」という回答がある事。今後、0%になるよう心がけたい。	昨年度はお互いの思いが反比例した状態の結果だったが、今回はだいたい同じ値を示しているの、自分なりに改善した事が、結果として表れたのでは…納得。	そのものは良い事だと思うが、結果的には20字足らずの「楽しかった」「良かった」などの表面的な感想しか聞けず、少々残念な思いです。もっと本心をプチ明けた言葉をたくさん書いてもらいたかった。	学生の本心をより細やかにより正直に書き出せるようなものであって欲しい。そうでないと何の為のアンケートか意味がない。
テーブルコーディネート実習	乾博子	ほぼ楽しく受けてくれたと感じております。	少し時間的に余裕がないのかと思います。その他に関しては、学生も満足しているかと思えます。	全体に楽しく学んでくれたと感じています。	実習に向けての話し合う時間を授業内でもう少しとれるようにしたいと思っております。
調理の基礎と科学	石村哲代	この授業は第4講義室でマイクを使用し、学生間の座席間隔も広くして名列順に座らせ、静かな環境でおこなうことができた。また潘先生は厨房見学ののために、ホテルへの引率などの労を取られた。にも関わらず学生評価は総じて学内平均を下回る結果となった。学生への負担が大き過ぎたことが一因かも知れない。次年度は授業内容のさらなる見直しをはかる必要があると考えている。	昨年度の「進捗が速い」、「板書が少ない」「内容が難しい」の声に応じて、今年は毎時間授業内容の要点を書き込ませるプリントを用意、板書も多くなるなど改善を試みた。しかし結果は昨年度とほぼ同程度の評価で、総じて自己評価を下回る結果であった。科学的な内容が多く、専門用語も多いので、内容は減っても興味ある内容に絞って、より丁寧な授業の展開を試みる必要がある。	無記名の自由記述によって5段階評価では把握できない要望がキャッチできるのではないかと期待した。しかし極めて簡単な記述のものが大半を占め、参考になるような意見はほとんどみられなかった。初めての試みであること、何が求められているのかということがよく理解できていなかったためではないかと推察している。あきらめることなく時間をかけて学生の成熟を図る必要がある。	一番大きな悩みは学生の質が両極にあるため、授業のレベルをどこに合わせるかという問題である。高い関心をもって聴いている学生もいるが、比率的には少ない。大学の授業としての一定のレベルを保持し、教えておきたい範囲の授業をしたいと思うが、それを貫徹しようとするとき満足に終わってしまう。さらにレベルを下げてゆくりと授業を進めることが求められることな時間をかけて学生の成熟を図る必要がある。
調理の基礎と科学	潘龍諤	思っている以上に学生は満足しているように感じた。	食い違いが有る部分のいったい何が、どこが違うのかを把握したい。	具体的に何が悪かったのか良かったのか、何を感じたのか、して欲しかったのかなどを記述してもらいたいのに、比較的表面的な評価しか記されておらず少し残念です。	突然、或いは短時間の間に記入できないのであれば、事前に渡して書いてきてもらうか、項目を沢山作って、それに具体的な意見を書いてもらうか…。近頃の子は肝心な所で自己主張しないのでしょうか…?
製菓材料の基礎知識	中山伊紗子	話す速度、授業の進行速度、板書などでとりわけ学生の評価が低いことがわかった。プリントへの書き込みなど、聞き取りだけではできない状態であることの認識不足であったことが反省材料である。	自分なりに精一杯努力した積りなので自己評価を高めたが、学生の評価とはかけ離れていたことでも少し努力して学生の水準に合わせて、授業の組み立てなおしが必要である。	授業内容についてはよく理解できたという学生と話が早すぎてついていけなかったという学生が2:1ぐらいの割合でいた。今後、話のテンポ、丁寧な板書を心がけねばと反省した。質問しやすい雰囲気は心がけている積りであるが、大勢の中では発言しにくい学生もいる。	授業の内容は多少減っても、学生の理解力に合わせたスピードでの授業展開を心がける。
調理実習 I	奥田玲子	1項目を除いて評価点が全て4を上回った。唯一「学生が与えられた課題に取り組む時間が十分にあったと思う」の項目の評価が低かったが、課した課題量については適当であると評価している。実習時間は十分とはいえないが、取り組む課題量には満足していると理解できる。	殆どの項目で、学生評価が自己評価を上回り、昨年度より高い評価をいただいた。学生が受講に満足し、技術や実技の向上に役立ったことに教員として喜びを感じる。	楽しく実習に取り組んだことをうかがわせる記述が多かった。	興味と意欲を持って実習に取り組んでいると評価から理解できるが、今後はさらに科学的な理論の理解にも努めたい。
調理実習 I (テーブルマナーを含む)	中山伊紗子	実習授業でこんなに評価が低い原因はなにか? 心当たりがないので困っている。絶対数が少ないので一人の意見でも評価が大きく動くから?	自分なりに精一杯努力した積りなので自己評価を高めたが、学生の評価とはかけ離れていた。ただ学生も徐々に実習授業に慣れてきているのでそれなりに満足を得られるのではないかと期待をしている。	自由記述では肯定的な意見が多く、少しホッとした。調理の技術を、家庭での再現することの大切さがわかってもらえれば成功と思われる。「失敗したところを後から指摘せずに失敗する前に教えてもらいたい」との辛辣な意見もあり、教室全体に目を行き渡らせることの難しさを感じた。	学生はわからないところが出てきた時に教員に質問するのではなく、他の班のやっていることを做う傾向がある。そのあたりに改善の余地があると思うので指導を徹底したい。

製菓・ラッピング実習Ⅰ	清郷與保子	学生の評価は学内平均より高かったが、その中で、「与えられた課題に取り組む時間が充分にあったと思う。」という問に対するの評価が「4.13」と一番低かったのでこの点に注意して、学生が時間的にゆとりを持って取り組めるように指導したいと思います。	思った以上に学生の評価は高かったが、さらに高い評価を得られるよう力を尽くしたいと思います。	「美味しいものがつくれて楽しい授業だった」という内容が多かったが、ラッピングの時間をもう少し増やして欲しいとのコメントが2~3あった。	前期・後期の受講者で希望者には「ギフト・ラッピングコーディネーター」の資格試験の受験が可能になるので後期はラッピングの授業を少し増やす予定です。
リハビリテーション概論	鈴木康三	教員の情熱や学生に対する期待が空回りしている部分も見られるが、概ね学内評価を上回っているように感じられる。	医学系の科目であり、難易度の点で取り組みに改善する余地があるように感じた。	講義を受ける態度や事前学習がなされていないなど、教員の立場からは種々、意見があるが自由記載では、勉強になった、ためになった、今後役立てたいなどという記述が多くそのギャップに驚いている。	より多くの視聴覚機材の積極的利用などで理解を深める努力が必要だろうと感じている。
社会福祉概論	保科和久	特別の驚きはありません。	昨年の結果よりは、学生に理解が進んだのでは。	自由記述は良いが、説明や読み取れるモノは残念ながら少ない。	学生の能力(興味)に合った内容を考える必要は感じるが、問題の解決は難しい。
介護概論	井上敏機	学生による評価と自己評価についての差がある。差について何故なのかが分かりづらい。	昨年についても同様である。授業内容が十分に理解されていないのか。しかし、短大生である以上は、理解してほしい内容。	学生自身が授業を受ける態度について省みて欲しい。	
公衆衛生学	植村興	ほぼ予想通りの評価を受けている。熱意3.71と満足度の3.71の評価がやや物足りない。理解度3.0は反省を要する評価。	ほぼ予想どおりで、授業環境(問11、問12)作りにはエネルギーを使いたくない当方の意思が評価に現れている。	板書(問8)の評価が低かったが、やむを得ない。教室4は視聴覚設備を使用しているため板書は不可能である。教科書の活用にも不満があった。	授業には工夫を凝らしているつもりであるが、学生に十分伝わっていない。手法のざん新性、内容の専門性の両者について授業のレベルを下げざるを得ない(一部の学生には物足りなさを与えるのを避けつつ)。
医療事務総論	倉戸啓子	前回と同様全体として評価は高くありません。特に授業の難易度、進行速度、丁寧な説明という点での満足度が低い、すなわち難しい、わからない、おもしろくないということになります。	特にありません	パワーポイントの字が小さく見にくいという記述があったので字を大きくしてわかりやすくする工夫をしたい。	授業時間の延長もしていますが授業時間に比して教える内容が多すぎるのが問題だと感じています。内容を削減しより基礎的なものにするには、医療事務演習や診療報酬請求事務演習、医療事務コンピュータの授業に必要な知識が十分に得られないこと、また実際に就職したとき役立たないという点で好ましくないと思います。現状では具体的なことはありませんがさらに改善に努めます。
医療事務演習	倉戸啓子	特にありません	特にありません	特にありません	特にありません
解剖生理学	奥田喜一	評価が最も低い。問8について、昨年と同様だが板書が多いという事だろう。それと問5については、学生に適した難易度を探し出すのは非常に難しい。	昨年と同様、自己評価と学生のそれとは差を生じている。この差を埋めるように努力をせねばならない。		板書のやり方を少し変えてみようと思う。
薬理学	木本達雄	前回とくらべ評価とその傾向に大きな変化は認められなかった。授業の工夫は(設問1~4, 9~11)で少し評価されているが、学力の適正な認識(設問5~8)が問われているようにも考えられる。全般的に曖昧な評価(評点2~4に分布)は授業内容の理解の曖昧さを反映しているかもしれない。	学生と自己の評価の傾向は類似していたが、全般的にまだ1点以内で自己評価が学生による評価を上回っていた。自己の思い入れほど学生にこのカリキュラムの意義や授業内容が理解され、関心を引くものになってきたかどうか問われている。その改善のために次次事項に掲げる項目の実施に務めていく。	授業内容が専門的で容量も多いのに教科書を購入するものが少ない。この状況を補いしかも板書を兼ねるため当日教科書の内容を抜粋し要約したものに資料を加えたプリントを配布した。今後は前の週にこのプリントを配布し予習を促すよう務める。	理解度を高めるために1.授業の難易度のレベルを適正化する。2.授業内容を整理・要約し、わかりやすくする。3.医学と生化学の基礎知識を補足する。4.薬理学の身近なものから関心を引くようにする。5.授業をインタラクティブにする。
医療秘書実務	東野園子	わかりやすく、楽しい授業を心がけている。その点では評価していただいていると思う。	「授業の難易度のレベルが適切」という項目の評価が低い、これは「高い」のか「低い」のか判断しかねる。学生にあわせ、かなり(年々)レベルを下げ、優しく説明しているつもりなので、低すぎるという評価なのかもしれない。	専門学校や短大で教えたしてから、個人的に毎期ごとに書かせていたが、アンケートと一緒にすると、とても短く、一口コメント的になってしまうのが残念。	授業の途中で学生と良いコミュニケーションをとり、今後、授業の難易度について確認しながら授業を進めていきたい。
病院実習	高橋要	私自身、感じていたとおりの結果が出ている。	少し急ぎすぎた面があったので、反省している。学生の自主性を重んじたため静かな環境造り面で問題があった。		
診療報酬請求事務演習	倉戸啓子	特にありませんが受講者数が少ないためどちらかというと好意的な評価がされていると思います	特にありません	特にありません	特にありません
医療事務コンピュータⅠⅡ	倉戸啓子	総合評価で3分の2の学生さんは一応満足してくれたようですが、約3分の1の人の「どちらでもない」という評価については、ふりかえりの必要があると思います。	特にありません	特にありません	特にありません

診療情報管理論	富永純子	学生評価の1、2に評価した学生がいたことに注目、懸命に授業を昨年と同様に行ったつもりでしたが、人数が倍以上になり、声が後まで聞こえにくかったり、白板に書いても後ろの方は見えにくかったりした事が原因ではないかと考えました。	学生評価が昨年より下回っていたことに衝撃を受けました。後期は学生評価が現在よりもいい評価がもらえるよう創意工夫して努力してゆきたいと思っております。	未記入:6件、特に何もないと記入:1件、難しかった:7件スクリーン拡大希望:1件、難しかったけど楽しかった、将来役に立つと思った、わかりやすく教えてくれた:10件 理解度の改善のため、学生全体が授業内容を消化できるように、内容点検をして行きたいと思っております。	診療情報管理論は内容が難しく、学生の理解度にも幅があるため、この点に留意して内容について再点検します。 説明しても聞いているようで聞いていなくて同じことを何度も聞くことが多く閉口したこともあり、平気で机に臥して寝ている学生も少数でしたがいました。今後は前期の評価を頭において授業態度に注意し、改善してゆきたいと考えます。
アロマセラピー(演習含む)	倉津三夜子	全体的に4(平均値)が評価で、進行の方法やペース難易度は学生に合ったものになっていたと見られる。	一昨年と同様に興味の度合いと理解度の評価に両者のギャップがある。より深い興味を引き出し、理解度を高めていきたい。ただ実習態度や試験答案の内容を比較すると一昨年度よりも理解度は高まっているのがかわれる。問12~14について自己評価が不適切であったかもしれない。(一昨年度のデータも送付していただけと考察しやすい。)	実習は楽しかったという感想が多く、アロマセラピーにより興味をもつきっかけになっていたと思う。ただ一行に満たない単文がほとんどで、自発的な表現があまりされていなかったのが残念である。	自分の思いや考えを積極的に表現することが少ないので、実習を通して、自分を見つめ表現する機会を増やしていきたい。そうすることで、自分自身とアロマセラピーに対する興味を深め、より理解するように促していけると考えられる。
リハビリメイク演習Ⅱ	かづきれいこ	板書の文字の大きさ、速さなど適切であったと思われるが、テキスト等をもう少し上手に利用しポイントをわかりやすく指導すべきであった。	受講人数により、教室の大きさが広すぎたようであったが前方にて授業を行ったため問題はなかったと思われるが、生徒たちには広すぎたようである。	そのまま(ありのまま)の様子がわかるので、これからも続けていきたい。	人数の増減に対応できるよう、又、生徒達が楽しく受講できるよう改善に努めたい。
心理学研究法	近藤淑子	学生からの評価は予想以上に良かったです。進み具合が遅く、内容には深みにかけたとは自分では反省しています。	受講者人数が昨年よりも少なかったため、一人ひとりには丁寧に対応することはできませんでした。しかし丁寧にし過ぎた分予定していた内容がすべてできませんでした。	内容は難しいかなと懸念しましたが、興味を示してくれていました。	カリキュラムの中で心理学の基礎的な実験をすることの意味を今一度考えてみたいと思います。
社会心理学	田端拓哉	肝心の「問13 授業内容の理解」の学生評価が低く、「問2 丁寧な説明」、「問5 授業の難易度レベルの適切さ」、「問12 授業への興味」、「問16 満足」などでは「どちらでもない」が多かった。教える量と分かりやすさのバランスを考え直す必要があると考えた。	1.で挙げた点を含め、全体に低下しているため、まずは1.で挙げた対応を行うことを第一としたい。	今回、特に参考になる記述はなかったが、選択式のアンケートでは表現されない内容を知ることができると、実施する意義はあると思う。	教える量を減らすとともに講義内容を比較的高かったテーマを中心に編成しなおす。これを行えば、自ずと他の点も改善されると思われる。
カウンセリング概論	鍛冶谷静	教室の大きさや設備に関する評価がもっとも低かったが、受講人数に比べて少々狭かったということだろうか。	昨年度よりはわずかではあるが学生評価が自己点検評価に近づいた。しかし、学生評価の方が低いのは変わりないので、いっそうの工夫と努力が求められる。	白紙提出が多かった。ふだんの授業の中で、時折感想を求めているがその時の方が学生は答えやすいようである。	理解度向上のために、内容を年々基礎的なものに変更しているつもりだが、個々の学生の理解力や関心度合いの差が意外に大きく、難しさを感じている。一斉講義だけではなく、できるだけひとりひとりの学生と対話できるような講義形式のとりいれなど、検討していきたい。
臨床心理学	奥村和弘	全体的に学生評価が学内平均より上回っており高い評価を頂いたと思われている。今後も学生の知的好奇心を満たせる授業を目指したい。	授業を通じて伝えたかったことがある程度は伝わったのではないかと感じている。今後も学生が体験的に知識的に理解出来るように努めていきたい。	体験的な学習を新鮮だと感じている学生が多く、これらをうまく授業に組み込んでいきたいと考えている。	今後も学生により理解してもらえように向け、板書、教材などを工夫して視覚的にわかりやすいものにしていきたいと考えている。
幼児美術	木村和照	受講生が少なく、その分高評価をもたらしたようだ。	本年は昨年と授業内容を全く変えたので比較できない。	特になし。	特になし。
情報活用演習Ⅰ	新田眞一	問16の回答より、学生はこの授業を受けてよかって、という評価をしている。しかし、問5の回答で授業の進行速度が適切かどうか、については学内平均を下回っているのが気にかかる。	学生評価の評価が教員としての評価を上回っているのは問10と16である。昨年度はこれらの問の評価は逆であった。	頑張っ楽しく授業を受けることが出来た、という記述と、授業についていくのがしんどかった、という記述が複数あり、学生ひとりひとりによって、受け取り方が多様である。	わからない場合は、質問できるような時間的余裕と雰囲気作りをすること。
情報活用演習Ⅱ	新田眞一	概ね良い評価をいただいている。特に、問10では、学生の質問に対する対応について良い評価がうれしい。	昨年度は学生評価が教員評価を上回っている点が多かった。	入学早々の1年次生と2年次生では意見が異なります。2年次生は結構楽しく授業を受けれた、という記述があります。1年次は難しかったとの記述がうかがわれます。	1年次生にEXCELの授業をすることについて、そのやり方を考える必要があるようです。
情報活用演習Ⅲ	新田眞一	もう少し良い学生の評価を期待していたが、少し残念である。しかし、総合的な評価はまあまあである、ことでそれなりの評価をしていただいていることが伺われる。	昨年度の学生評価は良すぎたか、今年は学生評価が全体的に下回っている。難易度についてはさほど下回っていないので安心していい。	むづかしいかったが、頑張れたとの記述がいくつかある。やはり、進度が遅くて時間内に課題が出来なかったため、進度を遅くしてほしいとの回答もあった。	むづかしいが、気を入れてチャレンジすればできる、という体験が出来よう、授業の進め方や課題の与え方をくふうしたい。
マルチメディア表現及び技術	眞下義和	全て学内平均と比べ、下回っていることを問題だと思っています。	2005年後期と比べて、講義の進め方を変更しました。前回は実践して、つまりまずきに対して説明しておりましたが、時間短縮のために、説明・練習してから実践させました。これに学生は抵抗があったようです。また一部コミュニケーションをとりにくい学生もいました。しかし、そういった生徒とも、うまく授業を進めていかねばと思えます。	該当者無しでした。	2005年後期のように、いきなり実践させ、各生徒のつまづき毎にフォローする形に戻ろうと思います。これは私としても負担の大きい進め方ですが、自然と学生とのコミュニケーションも増え、結果的にも学生もよく気になる場合が多かったように思います。

情報倫理	浅羽修丈	全ての項目において学内平均を上回り、さらに平均4.00を超えているので、学生からは非常によい評価を頂いたと感じている。しかし、中でも、問5の難易度のレベルと問14の新しい知識や考え方を習得し、学習内容の関心を高めてくれた、の2項目に関しては、平均4.20を下回っており、気をつけるべき項目であると思った。	全体的に自己評価と学生評価は近い値になっていた。昨年度の結果と比較しても、自己評価と学生評価の差は少なくなっている。しかし、問8の板書の適切性に関しては、自己評価と学生評価の差が大きく、昨年度にない結果となった。	多くの学生から「楽しかった」「声が大きくて聞こえやすかった」「分かりやすかった」などの肯定的な意見を頂いた。ただ、「スライドが早かった」「課題が少し難しかった」などの意見も頂いたので、これらの意見は今後の授業進行の参考になる。	今後の改善点として、課題の難易度を考慮すべきであると感じた。もちろん、やさしすぎる課題は問題があると思うが、受講学生たちにとって適切なレベルの課題を見つける必要があると思われる。また、スライドの速さをもう少し抑えるべきであると感じた。
インターネット演習	浅羽修丈	全ての項目において学内平均を上回り、さらに4.40を超えているので、学生からは非常によい評価を頂いたと感じている。その中でも、問1の声の大きさと問9の熱意、問16の総合点の3項目に関しては、平均が4.86であり、特に良い評価を得ることができた。	昨年度は、学生評価と自己評価に大きな差があった項目が4項目あったが、今回は2項目だけであった。しかし、今回のその2項目は、昨年度においても大きな差があった項目として取り上げている。その2項目は、問7のテキスト、プリント、視聴覚教材の使い方と、問8の板書に関する項目であり、自己評価が大きく下回っている。私の自信のなさが浮かび上がった結果となったので、もっと客観的に評価できる力を身に付けたい。	多くの学生から「楽しかった」「役に立った」「もっと勉強したかった」などの肯定的な意見を頂いた。否定的な意見はなく、自由記述を見る限りでは、学生の満足感を得られたのではないかと思われる。	今回の評価結果を見る限りでは、特に注目して改善すべき点は見当たらないと思われるが、今後はもっと全体的なレベルを上げていくための努力をしていきたいと思う。
情報システム論	浅羽修丈	全ての項目において学内平均を上回り、さらに平均4.00を超えているので、学生からはよい評価を頂いたと感じている。しかし、その中でも、問5の難易度のレベルと問14の新しい知識や考え方を習得し、学習内容の関心を高めてくれた、の2項目に関しては、平均4.00であり、個人的に目標としている平均4.00以上にギリギリであった。この2項目に関しては、何らかの改善を行う必要があると考えられる。	自己評価と学生評価の差が大きい項目が8項目と、非常に多かった。昨年度も差が大きい項目が10項目あり、全ての項目で、自己評価が下回っていた。これは、この授業に対する、私の自信のなさが伺える。この結果の原因は、授業内容の難易度が高く、本当に学生たちに理解させることができたのかという不安感からきているのだと自己分析している。	私が想像していた通り、「難しかった」という意見が大半であった。この結果を真摯に受け止め、授業の改善に取り組みたいと思う。ただ、「楽しかった」「丁寧な説明してくれた」などの意見も多かったため、今の熱意はそのままに授業に臨みたいと思う。	最も改善すべき点は、授業の難易度であろう。学生たちにとって、現在の授業の内容は難易度が高いと見られる。私にできる限り、やさしく解説したつもりであるが、それでもやはり学生たちは難しいと感じるみたいだ。その原因の1つは、授業内容の専門性の高さであろう。今後は、授業内容を再考し、学生たちにとって身近なテーマに取り組んでいきたいと思う。
情報数学	新田真一	学生の総合的満足度がレベル3.45であることは残念である。「学習内容の説明」についてはレベル3に足っていないことは反省を要する。	昨年度は前期扱いであったため、比較はできませんが、学生への説明が十分伝わらなかったことがうかがわれる。	短期集中でしんどかった、との声が多くある。内容も難しかったとの記述も気になる。	授業内容を精選して取り扱う内容を減らすこと。今後(来年度は無理だが)集中ではなく、週1回の授業にすることを検討すること。
プレゼンテーション概論	畑野清司	プレゼンテーション概論は準備に大きな力を入れたが、その割には学生の評価が低かった。また有効回答数が大変少ない。	プレゼンテーション概論は講義だけでなく、実際にテーマを決めて発表する機会が与えられており、準備不足で落伍する学生も出てきた。全員の足並みが揃わないため、教員として準備に力を入れた割には評価が低かった。	学生のほとんどは楽しかった、将来就職に役立つと思う。など前向きに受け止めていた。	授業内容に時系列的な連続性があるため、欠席すると次回の授業についていけない。そのため補習などの機会を設けているが、フォローが難しい。もう少し工夫が必要である。
プレゼンテーション演習 I	福井愛美	学生による評価は全体に学内平均を上回り、まずまずの評価を頂いた。しかし問8の板書に関する項目が学内平均より高いものの、3.92と16項目の中で最も低くなっている。もう少し丁寧な板書を心がけたい。	昨年度は自分なりに熱意を込めて一生懸命取り組んだ項目に関しては5の評価をつけたが、100%完璧はありえないとの反省から、今年はやや辛口の評価にした。学生評価が自己評価より全体的に高くなっていたのはそのせいかもしれない。	人前で話すことは苦手だが、授業が進むにつれて、人前で話す楽しさを覚えた。また人の発表を聞く事が勉強になった、との意見が多数あった。ただ、最終授業に行ったプレゼン発表に関して先生からの評価コメントがほしかった、と書いていた学生が1名いたので、今後はそのための時間を取りたい。	人前に立つという苦手意識を克服できるように、今後も楽しみながら、「プレゼンテーション」が出来るよう授業を工夫していきたい。
マスコミ論	中川博	まずまずの評価をもらったと思う。残り三回で「政教分離の原則と具体例」では板書事項も多く、学生は書ききれなかったかもしれない。それが評価を下げたのだろう。	学生の授業への集中度が年々衰えていくようだ。話すスピードを落としたり、エピソードを挿入するなどの工夫が必要と思う。		
事務機器演習	藤原寛平	集計は全てではないが、学生によっては授業レベルのアップも可能なことを示している。問1、2、8の大きな声、速さ、丁寧さ、板書ともに今年度の学生数が少なく、前の席に座っていたので教える側?に油断したところがあつたのではと思っています。	昨年より学生数が少なく、単純比較だが学生の評価が低い設問が8問から3問となり、3問中の問8(板書は...)が悪くなった。後の2問は昨年と同じで改善されていない。この3問は学生数が少なく前の方の席に全員が座っているので教える側として安心感があつたのが災いしたのではと思っています。	アンケート形式は項目の絞込みなど標準的なものにせざるを得ず細かさには欠けるが、「自由記述」では細かいニュアンスを读取ることができて、具体的に分かりやすい。継続がよい。但し、学生数が増えると分析に時間がかかるので、アンケート形式に替えることはできない。	・黒板の使い方、大きな声、は基本的な改善点とし、説明の丁寧さ、分かり易い速さに気をつける。 ・スクリーンの使い方などでカバーできる点も多く、学生がCRT画面に集中するので説明が耳に入らないなど実技特有の悩みもあるが、説明時にポイントを絞る、強調するなど特長を掴み易くして進める。
事務文書管理	仁平征次	厳しい評価にとまどいを感じている。	前回に比べ1平均でポイント下がった。試験の結果や授業中の反応からみれば、さほど前回と差は感じられなかった。ただ、前回と教室の違いから今回は、ばらけた感じで緊張感がなく、一部に授業に熱心でないグループがあり、うまく対応できなかった点が厳しい結果になったと反省している。	感情的批判が目立った。学生の気持ちをくみうまく対応できなかった点を反省している。	根気よく学生に接する姿勢を心がけたい。
オフィスマネージメント(経営学含む)	木村三千世	企業経営について、あまり興味がなさそうであったことが評価として出ていると思われる。	昨年度より、本年度の学生の意欲を喚起することが難しいように感じられた。	教科書が適切ではないのではないかとこの声があつた。しかし、授業の内容が多分野にわたるため、内容を網羅するテキストは市販されていない。何冊も購入することは負担になるため、従来どおり、テキストを補填するためプリントを使用したいと考えている。	オフィスでの働き方、企業経営について学習する前に、社会人としての役割や労働観について、学生主体で考える姿勢や雰囲気を作ってから、本来学ぶべき内容に取り組める仕掛けを考えたい。

ビジネス実務概論	畑野清司	全ての項目にわたって平均値を上回った。ただ授業の進行速度は彼らの期待通りではなかったようである。この科目はあらゆる作業がタイムチャートで進められるため、学生にとっては追い立てられる感じがあると思う。	助手を含めて十分な準備をして授業に臨んだ。ほぼ期待通りの評価をしていただいた。今後もさらに改善を加えてより充実した授業ができるよう心がけたい。	ほぼ全員が授業が楽しかったと述べている。この授業には適正な人数規模が必要だ。20~25人くらいが良い。	ビジネスの場の厳しさや楽しさを授業を通して体験してもらいたい。考える力、コラボレートする力、発表する力などをさらに向上するよう授業内容の一層の充実を図りたい。
ビジネス実務演習	木村三千世	内容に興味を示した学生は多かったが、学内平均と同じような結果であったので、単位のために履修した学生や社会人として認められることに関心のない学生への喚起がもう少し必要だったと考える。	毎年、就職の時期に当たる学生にとっては興味をもって履修できる科目のように思える。		学生がさらに興味を抱けるような具体的な演習問題を取り入れたいと考える。
現代社会論	中川博	私の話すスピードが幾分速いこともあって、学生が講義についてこれなかったのではと思う。それが低い評価につながったのか。	視聴覚教材としてビデオを使用した。多くの学生は居眠ったのには驚いた。		
比較文化論	村井隆之	ほとんどすべての項目についての「学生評価」の評点が「4」に近く、学生からは予想以上により評価を頂いたと思う。	問12, 13, 14以外のすべての項目において、「自己評価」の評点を「5」としたが、この点はもっと謙虚に「4」とすべきであったと反省している。昨年度と比べたばあい、「学生評価」の評点がやや厳しくなっているように思われるが、なぜそうだったのか検討を要する。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。ただ、「板書」をもう少し見やすく、また書き取りやすくして欲しいという要望が1, 2あったので、この点への配慮が必要と思う。	「学生評価」については、ほぼ満足すべき評点が得られているので、現時点では授業内容や方法を変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていける所存である。
International Communication IA	奥田 純	学内平均以上の学生評価を得た。項目別にも大半の項目で平均を上回った。授業の進行速度、学生の理解度で特に評価が良かった。一方、シラバスとの整合性、新知識・技能習得面では平均を若干下回った。	上記302で述べた自己評価5の傾向はあるが、学生評価が自己評価を上回っている項目もある。授業の理解度、総合的な授業の満足度は自己評価を予想外に大きく上回っている。一方、丁寧な説明という点では若干学生の評価が厳しくなっている。	黒板のマジックのインクが切れて読みにくいことが多かったとの苦情あり。わかりやすく、英語が嫌いだつたが、段々好きになってきたとのコメントもあり。	少人数の選択科目のクラスで、学生のレベルにあった教材の選定と学生の関心を高める授業内容の工夫が改善点の主眼。(黒板の問題は北11に固有の問題でここを使わなければまず大丈夫と思われる)
Advanced International Communication IIA	奥田 純	学内平均以上の学生評価を得た。項目別にも大半の項目で平均を上回った。授業の難易度、板書、授業への熱意、質問への対応等平均をかなり上回る項目があった。一方平均を下回ったのは、新知識、技能習得の項目。また、総合的な授業への満足度は各項目への評価と比べると若干低かった。	上記302で述べた自己評価5の傾向はあるが、学生評価が自己評価を上回っている項目もある。テキスト・プリントの使い方、板書、授業の理解度の項目である。総じて自己評価と学生評価の乖離は少なかったと思われる。	教材の関係もあり、世界各国の情勢を知ることができたのが良かったとのコメントあり。もう少しコミュニケーションとの関係で会話の練習がしたかったとの要望も出た。	少人数の選択科目のクラスで、学生のレベルにあった教材の選定と学生の関心を高める授業内容の工夫が改善点の主眼。(黒板の問題は北11に固有の問題でここを使わなければまず大丈夫と思われる)
Travel English	柏木俊和	こちらが思うより高い評価でまあよかったかなと思っている。	ほぼ同じ。	アンケートに表れない意見を吸収するには必要と思う。	学生が自発的に選択した科目なので、授業も熱心に受講した。出来れば、もう少し学生に発表の機会を多くした方がよかった。
旅行実務演習	西川博	板書や視聴覚教材の取り入れ方についても工夫していく必要があると感じました。	昨年度と比べてもそう大きな変化はないと思いますが、学生の理解度等チェックして、授業に総意工夫していかなければならないと感じています。	自由記述が入ることで、アンケートの項目で出ない点について気づかされることもあるので、よいことだと思います。	授業構成等についても検討を加えていきたい。地理的演習に関してはより一層視覚効果の高い教授法を追求していきたい。
観光関連法規演習	西川博	法規関係の授業は、どうしても難しい面があり、より一層の工夫(プリント、板書、進行速度、教材等)が必要であると感じました。	昨年と比べても学生の評価は厳しくなっており、難しい法律や約款をポイントを絞って教えていく工夫が更に必要であると感じました。	自由記述から読み取れる新しい発見もあり、非常に大事なことだと思います。	毎年、プリント、教材、シラバスについては検討を加えており、今後もアンケートを参考に改善してほしい。
中国語会話 I	沈揚	学生評価の平均値は3.2になっています。ほとんどは「どちらでもない」ところに丸をしているようです。形	今回は学生評価と学内平均が全体的に自己評価を下回っています。予想以外でした。		会話中心の授業の形式を再度検討し、板書をよく工夫して(基礎知識を加えながら)、一人ひとり学生が授業内容をよく理解するように努力します。
韓国語会話 I	張愚診	講義の授業方式に役立つ面が多かったです。より多くの学生たちの参加により、正確な授業方法を知りたいです。	今年が初めてなので、これからよく参考にします。	学生たち、みんながこの科目に興味を持つことになって楽しかったこと。外国語が思ったより難しかったと感じたこと。	自己評価で良いと思ったことが学生評価では低く評価され、また、自己評価で低いと思ったことが学生評価では高く評価されたことで、より現実的な授業方式が要すると思いました。
日本語概論	工藤真由美	学生からは、各項目でほぼ5点の高い評価を頂き、大変に驚いています。今後も学生の満足度を高めるべく精進したいと思います。	クラスの規模が留学生のみの小規模だったため、教員のねらいや意図が、伝わりやすかったのが、学生からの高い評価につながったのではないかとされる。しかし、小規模の点で、少しアットホームになりすぎ、時には脱線することもあるので、反省材料とした。	受講生が少なく記入者が少ないため、記入を促す努力が必要だった。	クラス規模が小さいため学生との距離が近く質問なども受けやすいが、私語とのけじめが重要課題と思う。
日本語表現法 A I	工藤真由美	学生から高い評価を得て、ありがたい、いっそうの精進をと思います。	クラスの規模が小規模だったため、教員のねらいや意図が、伝わりやすかったと思われる。分かりにくいところをとことん説明したり、皆が理解しているところは省略したりということができ、小規模ゆえの良さが前面に出ていると思う。	授業の進め方についてや、内容について、学生が要望を出しやすかったという意見は今後の参考にしていきたい。	受講者数が増えたときにどれだけ学生の個々の理解度やニーズを読み取れるか、意見を摘み上げられるかが、今後の課題になると思われる。

日本語表現法	石川承紀	学生の評価は低いが、まずこんなものだろうと思う。必修の教科であるが、前期に単位を修得できなかった学生たちである。(前期に受講しなかった者を含む)昨年は、受講者三名。今年は21名。欠席・遅刻・授業中手洗いに従って、なかなか帰ってこない者、私語のやまない者、実に多彩なメンバーである。叱りつけるが五分しかもたない。漢字だけは無理にも身に付けさせようとするが、恨めしそうな顔をするばかりである。学生評価など気にせず頑張らせるしかない。	「問題点」前欄に記したように、特殊な受講者たちである。時間割の関係で受講しなかった数人の学生と、やる気の薄い学生が混在する。授業は個別指導に近い時もあった。よい知恵もないが、授業にマイクを使い、勉強する気の学生に、きちんと伝わるようにした。「反省点」普通レベルの課題と易しい課題をもっと用意すべきだった。「期末試験について」二十一名中七名欠席。十一名合格。再試申し込み三名。再試受験者0名。誰も来ない。	ほとんどが白紙で、「ありがとう」などがいくつもあった。「難しかった」と言うものもあり「他の方法もあったか。」と思う。	このような集団は、多分今年だけの特殊な例だと思う。百二十名くらいの学年で、必修科目を後期に二十一名の学生が受講しに来ることは、やや異様である。前期試験を受けながら、私が不合格にしたのは三名に過ぎない。ただ、成績の上下の幅が広いことは、今後も続くことだ。今後は、さらに教材を選び、指導法も含めて難易両用の準備が必要だ。
英語(英会話A)	井上泰子	再履修のための少人数のクラスであるため、英会話の授業には理想的な条件であった。回答数が少ないので早急に判断すべきではないが、学生の実態に合った授業ができたのがよかったと思われる。	どの授業も同じように、準備を行い、ベストを尽くしているつもりであるが、対象により結果は様々である。何より出席させるのに苦労したが、徐々に連帯感が生まれてきたように思われる。英語が苦手な学生も数名のグループだと力を発揮しやすいであろう。学生の評価が全体的に自己評価を上回っていた。	授業は楽しかったとの感想である。ただ、学力差の大きいクラスであったため、よくてできる学生にとってどうであったか気になることである。	次年度は前期に英会話Aと英会話Bを週2時間体制で授業を行うことになる。人数の多いクラスで、どのように授業に積極的に参加させるか、この一年間の経験を活かしたい。毎時間プリントを提出させ、学習の習慣をつけさせるように努めたが、それなりに効果があったように思われる。
英語(英会話B)	井上泰子	英会話Aと同様に、再履修のための少人数クラスで、AとBを同時に受講している学生が半数程度いる。易しい教材で若者に関心のある題材であったため、学生も積極的に取り組み、楽しんでくれたのではないと思う。音声教材も使いやすかった。	火曜日の1限の授業で、起きられないという学生もいて、出席を促す努力がそれなりに報いられたように思われる。定期考査の結果から、学生の成長の跡が同われ、自信につながったのではないと思う。	学生を飽きさせないための工夫の一つとして、英語の歌を取り入れた。授業の雰囲気盛り上げるのにも役立つと思われる。楽しかったと積極的な受け止め方をしてくれていた。	次年度前期に、英会話AとBともに、習熟度の最も高いクラスと最も低いクラスを同時に担当することになるが、それぞれの意欲、関心を高めるため、授業に工夫を加えたい。様々なトピックを掘り起こし、視聴覚教材の活用にも積極的に取り組みたい。
くらしと社会	中川博	1時間目ということもあり、受講生はわずか11名で丁寧な授業ができたと思うが、「板書は適切であった」の項目以外、学内平均を下回ったのは残念である。	教員による自己点検評価と学生の授業評価に大きな隔りがあり、今後はもっとゆとりとした授業で学生の理解度を高めたい。	アンケート回答数5のうち、ひとりだけが「よく理解できた」と記述してくれたことは喜ばしい。	特になし。
くらしと政経	中川博	学内平均を大幅に下回ったのは残念である。	受講者が一昨年は80名を今年度も70名を超えたことが、学生の集中力を割いたのではないと思う。次年度からは50名以下にしたい。	板書に対する苦情が数名からあった。かなり大きめに書いたはずだが、後の座席からは見づらかったのか。	教務と相談し、受講生を50名以下にすること。
くらしと数理	新田真一	こちらが予想していたよりいい評価をいただいている。これは、受講生の人数が少ないことで、ひとりひとりの理解度を確かめながら授業を進めたからであろう。	昨年度と比較して、全般的に学生の評価は良くなっている。授業内容の工夫によるものであろう。	「わかりやすかったが、進む速度が速かった」の指摘が例年のようにある。	進む速度を遅くするように努力すること。
くらしとパソコン	鈴木正彦	予想したとおり、授業態度の悪い学生への注意が足りなかった。度を越す学生には、他の学生のためにも、受講を拒めるような措置も必要かと思う。学生の理解度に大きな差があり、その水準を見出すのが大変であった。しかし、この授業に満足しているとの回答比率が、学内平均を幾ばくか、上回っていた。今後、指導内容の質量の両面について、再検討したい。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。	記述する時間を十分にとったが、提出する学生と、そうでない学生とに二分された。提出した学生はいずれも、「勉強になった」と記している。しかし、未提出の学生はどうか？少数でも気がかりである。	学習者の個人差が如実に出るので、習熟度別課題にも幅と深みをもたせるようにしたい。
日本国憲法	沼口智則	問5の難易度で、平均値3.8で20%が2のどちらかといえそう思わないであった。かなり易しく(レベルは落とさず)と心がけたつもりだが、難しいと思う学生が20%という点は反省材料と考えます。全ての問1~16の平均値は4.00でしたが、もっと高めていく必要性を感じました。	こちらの熱意(問9~12)や授業での様々な工夫(問1~4)と生徒の評価は、少人数だったこともあり、ある程度一致していました。しかし、100%一致ではなく、こちらの評価のほうが少し高いということは、こちらの考えや授業内容の工夫が十分(100%)伝わっていない点があると感じました。	特にありません。	徹底的に生徒の立場に立った授業やその工夫が必要だと痛感しています。こちらの自己満足に終わらせないよう心がける必要があります。内容のレベルをおとさず、しかし分かりやすくしかも理解を深める授業を心がけ、さらに設問のポイントを含む工夫がひとつだと思います。
スポーツII	黒石久昭	受講学生数が少なく、前期からの受講生が多いため、学生相互のコミュニケーションがスムーズにいったためこのような評価になったと思う。	実技のために体を思う存分動かして満足したのではないと思う	特になし	バドミントンとバレーを交互に実施し、学生の意見によりバレーをとりいれたのが今回の好結果につながっていると思う
生活の科学	緑川知子	毎回の講義終了時にアンケートを採っているので、おおむね予想通りであった。	すべての項目について、去年より良い評価を得た。去年の結果をみて、改善した成果が得られたためもあるが、受講生が減ったことも原因の一つに考えている。	とても分かりやすく説明してくれたし、楽しかったとあり、生活のために役立つ発見が多く、賢く生活していかれそうです。	学生の視点に立って、卒業後も学生が独自に学びつづけ、賢い生活者になることを目標にしたい。
衣服と生活	緑川知子	毎回の講義終了時にアンケートを採っているので、おおむね予想通りであったが、最終講義の頃だけ出席した学生からの評価については予想できなかった。	受講生数が増えたからか、最終講義の頃だけ出席した学生とのコミュニケーション不足で正確な評価がえられなかったためか、昨年より評価が下がった項目があった。	分かりやすくて楽しかった人が多かった。	最終講義の際にアンケートを行って、後で結果を示されても、次の受講生にしか成果が反映されないので、講義期間中に学生とのコミュニケーションをはかり、当期の講義にフィードバックさせていきたい。

住生活と快適空間	小倉育代	受講者数が限られましたので、個人個人のパーソナリティーに苦慮した内容に終始しました。受講姿勢(学ぶことへの基本的意志)を引き出せるよう、内容の充実を図りたいと思います。聞く姿勢が身に付いておらず、加えて、出席さえしていればとの姿勢が見えていましたので、非常に邪魔臭がりましたが作業性を高めました。課題的には一つの結果を得たように考えていましたが、学生評価は思いの外低かったように思います。	受講姿勢に対して、いかに自分のモチベーションを高めていけるかが昨年度同様の課題です。	求めているレベルと学生の能力の乖離、受講姿勢を見極めたいと考えています。	一方的な知識の伝達誰でなく、主体的に取り組んでもらうことを求めようとする、初期段階での受講生の質の見極めが重要です。人数が限られますと各階の到達度もクリアーに見えてきますのでいかに対応するか難しいところです。当該年度の学生の質にあわせたいと考えています。
結婚と家族	中川博	受講者は28名と少なく、落ち着いた授業ができたと思うが、学内平均をいずれの項目も下回ったのは残念である。	教員と学生の評価に隔たりがありすぎて残念である。	板書の量が多すぎるとの苦情があった。	ゆっくりとした講義とできるだけ平易なことばに努めたい。
ファッションマーケティング	本山光子	全ての項目で学内平均と同程度の評価となっていることから、学生はまずまずこの授業に満足しているのかとも考えられるが、問11に関しては自己評価との差があるので、次年度は注意すべき点である。	自己評価と比較して概ね学生の評価が高いが、問1と問3、問11で評価に差が大きく見られるのが注目点である。後半少し時間がなくなりシラバスの内容通りには行かなかった。その点を学生が把握していなかったのがわかった。	良かった、面白かったなどの意見のみで、なかなか具体的な記述が見られなかった。	問1と問11の結果に表れているが、授業中の私語が多く、後ろの席の学生には聞き取りにくい場合もあったので、全ての学生が授業に集中できる環境づくりを徹底したい。また問3の結果を受けて初回にシラバスの内容、目的の徹底も必要であると考えられる。
ファッション販売Ⅱ	本山光子	検定試験対策の授業で問題集を使って、次々と問題を解き、その解答を解説しながら内容を理解するという授業であったが、学生の評価が高くやや驚きである。目的意識が高かったために単純な方法でも満足度が高かったのかと考える。	問3に関しては学生評価と差があるが、これは学生がシラバスそのものをあまり理解できていなかった正と考えられる。目的と内容は概ね授業に盛り込めたが、テーマに対して時間配分を学生の理解度によって逐次変更したので、自己評価は低かった。その結果差が大きくなったと考える。	良かった、知識がついたなどの意見が多く寄せられたが、なかなか具体的な記述が見られなかった。	問6の授業の進行度では学生は適切であると感じていたようだが、検定試験を目標として進めると、もう少し早めに多くの内容を盛り込むべきだったと考えた結果自己評価が低くなったのだが、この学生評価を参考に、内容を次々とすすめるより、一つ一つを理解することを重視していきたい。
トータルビューティ演習(アロブクス含む)	千住真智子	学生は、授業内容に一定の評価をしてきているが、到達してもらいたい目標への指導は、まだまだ改善すべき点が残されている。今後の課題として1つ1つ解決してゆきたいと考えている。	特になし。		
メイクアップ(ネイルアート演習含む)	西澤有香	学内平均よりも上回っている回答が多く、自己評価にもほぼ近い回答だったので満足してもらえていたように思います。私自身、この回答に満足することなく次は全学生在「そう思う」と感じてもらえる授業にしていきたいです。	所々、自己評価より下回る評価があったので、この授業を選択して良かったと思っていただけるよう、流行などもっと取り入れて魅力のある授業にしていきたいと思っています。	ネイルの授業を増やして欲しいという要望とペアでのメイク実技は抵抗があった様子でしたが、女性として興味深い授業科目なので楽しく受講できたようでした。	前期よりも講義の中に学生に考えさせて、資料を作成してもらった内容を取り入れたので、無駄話を減らした学生は少く授業に集中してもらえたように感じました。流行に敏感な世代なので、もっと楽しめる授業になるよう講義内容や使用する資料などに工夫をしていこうと思います。
色彩の心理	吉真和恵	昨年の同講義の評価と比較して平均値が0.31ポイントダウンしている。問11の「静かな環境をつくる努力」に関する項目が4を切って厳しい結果となった。	授業の準備や取り組み方に関しては、落ち着いてじっくり取り組めたと自己評価を上げた。それらの部分(問3・4・9・10)を学生の評価と比較すると自己評価の方が上回ってしまい残念。		全体的な評価は昨年度の方がよかったので、もう一度授業全般を見直して満足度をあげられるように工夫したい。色を塗ったり、色について考える時間にどうも騒がしくなりがちな教室を静かに保つこと、メリハリがあり集中しやすい進め方にするなどが当面の課題。
カラーコーディネート演習	吉真和恵	昨年の同講義の評価と比較して平均値が0.03ポイントアップしている。すべての項目で4以上の評価となっており、特に低い項目もなく安定した結果を得られたと感じる。	昨年度と比べて自己点検評価の数値を上げた項目が6つある。(下げたのは1項目。)演習の授業の進め方を模索して方法を変えながらやってきて、本年度は昨年度よりも取り組みやすい演習内容に改善できたことを自己評価した。		本年度はシラバスに沿って授業を行うこと、ひとりひとりの演習の進行速度に合わせて対応するよに特に気をつけた。アンケートの結果から、それが学生にも伝わったことがわかる。全体的にテストの得点も上がり理解度が増した学生が増えたが、一方では出席率の低い学生や進行の速度が遅い学生との格差も広がっており、そこが今後の改善点。
食の歴史と文化	中山伊紗子	授業の難易度・視聴覚教材の使い方・板書などの項目について、手厳しい評価が出された。人数が14名ということで平均値は1.2人の学生の意向が大きく結果を左右している。	前回よりかなり評価は上がったが、まだまだ平均値に達していない。授業の内容をかなり変えて臨んだが、今一度内容の検討が必要であることを認識させられた。	ビデオの内容が難しいとの指摘を受けた。前回よりかなりわかりやすいものを選んで、見せたのにと忸怩たる思いがある。	さらにゆっくりしゃべり、ビデオは途中でとめて、解説を加えながら、ノートに取らせる工夫をしようと思う。
食の安全性	坂口守彦	各人の記憶に授業内容を銘記させるため、声を大きく丁寧に、実例をひきながら説明し板書した。本科目は比較的教授しやすい科目であるが、それでも、十分に理解されているとはいえない。学生の理解度はやや学内平均をうわまわる程度である。	問1、2、8、9、14および16については、できるかぎりの努力をしたにもかかわらず、学生にこちらの熱意が十分伝わっていません。一方、問6、10および15については、学生による評価が予想以上に高かった。これらの結果は昨年のそれと概ね類似している。	説明は丁寧であったと比較的好評であった。一方、板書の字が読みにくい、授業に関心をもたせるような話し方ではないという批評が一部にみられた。このような自由記述をさせるのは好ましい試みであるから、今後も継続するほうがよい。	授業は、主として板書により進めたが、ときおりカラー写真、図表などを提示し、プリントを配布した。これらの補助的な教材は学生の理解を助けるために不可欠である。板書、説明、補助教材(視聴覚教材)を組み合わせることで授業内容への理解度をこれまで以上に高めたい。
食品材料の基礎知識	坂口守彦	授業開始前から本科目は上記科目よりも比較的教授しにくいと認識していたが、内容の理解度、満足度などが学内平均をいくぶん下まわっていた。受講者数が少ないとはいえ、ほぼ予想どおりの評価であった。	全般に学生による評価と自己評価は傾向が類似していたが、とくに問7について、今回できるかぎりの努力をしたにもかかわらず、学生による評価が学内平均の程度であるに過ぎず、こちらの熱意が十分伝わっておらず、きわめて遺憾である。	授業内容が難解である、授業に関心をもたせるような話し方ではない、授業内容のポイントが明確ではないなどの批評がみられた。自由記述させるのは好ましい試みである。	昨年度までの授業は、主として板書により進めたが、これでは本科目にたいする学生の理解度が低いと判断し、今年度はプリントなどの補助教材を多用する方向へ変化した。しかし、効果はあきらかではなかったため、次回からはプリント、カラー写真などを充実することにより対処したい。

食空間のデザインと演出	潘龍諳	恐らくこのような結果であろうと予想したとおりの集計だったので、驚きはしませんでした。ただ、どの項目も学内平均より下回っている事がかなりの驚きであり、あの学生達が満足するには一体どうすれば・・・と。要は眠らせてはならぬ。眠らせるから回答③しか得ない。って事はやはりもつと自分を磨くしかないですね。勉強・努力・勉強・努力そして渴。	自分がしっかり学生を見ているのか？学生が自分を正しく見ているのか？いずれにしても同じような集計だったので、妙に納得。昨年は両者の見方に大きな開きがあったので、今年はこれを無くすのが目標でもあったので、一応はクリア。ただ、この低いレベルは単純に喜べないですね。難しい話をしているつもりはないのですが、眠る学生を起こさせ、⑤ではないこしるせめて④に記しをつけさすだけの授業になるよう来年度の目標にします。	総体的には評価と違い、解りやすかった。板書してくれたので良かった。話が面白かった。いろいろ知れて役立った。と好評だったんですが・・・。中には授業とは違う面白い事(駄や礼儀作法)を言い過ぎるとの記述もありました。レポートではなく生の声で言ってくれたら、駄やマナーの必要性も、授業との関連性も説明出来たのですが、今回はこの事に関して回答しないまま終わってしまい、一番の心残りです。自分としてはこの自由記述を学生の真意と捉えたく思っております。	
テーブルコーディネート実習	乾 博子	全体に高い評価だったので、よかったですと思います。	予想していた項目(時間的余裕についての項目)が他の項目に比べ、ポイントが低かったです。限られた時間内で授業内容のレベルを下げずに時間に無理のないよう授業を行い、授業内容を学生に理解させるのが、今後の課題です。	学生達からのメッセージを受け取る事ができてうれしいです。普段口に出して言わないような、感謝の言葉などを見て、私自身の来年度への意欲になりました。	学生達は楽しく学んでくれているようなので、あとは時間的にもう少し余裕を作ってあげられるようにしたいです。
製菓材料の基礎知識	中山伊紗子	3, 4評価が多く、学内平均には届かなかったものの妥当な線かなという評価であった。今年は急な担当変更でシラバスとは異なる授業内容であったにもかかわらず、この評価には反映されていなかった。学生はシラバスを読んで授業を受けていないのではないと思われる。他の項目についてもそれぞれ真剣に評価しているとは思えない節もある。	前回、話の内容をノートに取るように指示したところ、2~3回繰り返しても書き取れない学生がかなり多く、授業の難易度・進行速度などで厳しい評価を受けたので、今回は全て板書し、それを書き写すよう指示した。これにより授業がかなりスムーズに進めることができるようになり、授業内容の理解度が深まった。ただその分時間が余分にかかり中身は縮小せざるを得なくなった。	「プリントを使う授業でわかりやすかった。」「板書してくれたのでよかったです」と肯定的なものも多く改善のあとがみられた。しかし「書き取る時間が足りなかった」と不満のべた者もあった。全ての学生に満足してもらうのは難しい。	配布プリントの中身を精査し、身近な材料を多く、実際に使う時の注意点を詳しく解説することに転換。できる限り具体的に視覚に訴えるようにすることで更なる理解を得たい。
調理実習Ⅱ	奥田玲子	全ての項目で4.00を上回る高い評価を頂いた。特に問9、10、11、17、20の評価が高く、当方の授業への熱意が伝わり、概ね適切な実技の指導により、学生の実技向上につながったことが実感される結果であった。但し、全項目の中では、問1、2、6の評価点がやや低く、学生に分かりやすい説明(声の大きさ、速さ、丁寧さ)を心がける必要があると感じた。	昨年度は課題量が多く、課題に取り組む時間が短いという学生評価があったが、今年度は、課題に取り組む時間が必ずしも十分ではないが、課題量、実技指導、実技の向上において満足度の高い評価が得られた。	調理に関心があり、調理の好きな学生が受講していることもあり殆どの学生が楽しく実技に取り組んでいたことがうかがえた。	分かりやすい説明により、実技に入るまでの学生の理解度向上を図る。学生が自ら積極的に学べるよう、学生の興味と熱意をより高める授業を心掛ける。
調理実習Ⅱ(調理機器含む)	中山伊紗子	平均値を上回る評価もかなり見られ、実習についてはかなりの学生が満足してくれたものと思われる。	調理実習Ⅰに比してかなり高い評価を得ることができた。学生が実習に慣れてきたこと。人数が減って指導が行き渡ってきたことなどの結果と思われる。	「いろいろな料理が習えてよかった」という感想が多かったが、中に「もっと簡単に家庭で作るお惣菜を習いたかった」という感想を書いた学生がいた。家で全く包丁を握ったことが無い学生が多いことから高度な調理より初歩の調理をもっと献立の中に取り入れなければならないのかもしれない。	短大で調理実習を受講したというにはある程度高度なものも習得させたいという教員側の思いと、全くはじめで包丁を握る学生が期待する初歩の調理技術の習得とのギャップを埋める必要性を感じた。また学生は個々の力量に大きく差があるので全員に満足して貰うのは難しいかもしれない。献立の組換えを行なうなどしてできるだけ多くの学生の満足を得られるように努力したい。
製菓・ラッピング実習Ⅱ	清郷洋子	学生からは毎回自己評価及び学内平均に比べてよい結果を頂いています。その中の評価で気になったのが「シラバスに示された目標や内容に沿って行った。」という【問3】でした。これは前回と同じで、シラバスの作成時にその点を考慮したのですが、毎年時流が変わり、学生からの要望が95%を越えたので変更しました。しかし、シラバス通りを希望する学生もあり今後の課題にしたいと思います。	学生評価が自己評価に比べて【問9】を除き全て上回り、前回よりポイントも少し高くなっていました。特に【問20】「授業の内容は技術や実技の向上に役立ったと思う。」「【問16】「学生はこの授業を受けて満足していると思う。」「の評価が一番高かったのですが、さらに分りやすく満足して貰える授業を心掛け、実社会に役立つ内容にしたいと思います。」	学生からの忌憚りの無い意見を希望していましたが「色々な事が学べて良かった。」「授業が楽しかった。」「先生が好きでした。」等の記述が多く、こちらの希望する授業内容の改善や要望等の建設的な意見が殆ど無く、とても残念でした。	今回学生の評価が高かったのが前述の【問20】【問16】ですが、さらに向上させる為に【問7】【問14】の評価及び学生のノートを考慮し、さらに最新の技術や知識を積極的に取り入れると共に、ラッピングの授業に不可欠な日本古来の礼法についても、「全く知らなかったのでも勉強になった。」というコメントが多々あったのでさらに充実させ、分りやすく指導したいと思います。
社会福祉概論	保科和久	全体としては、ほぼ予想どおりであるが、学内平均も私に対する評価も数字が高すぎる様な気がします。今後の課題は、やはり、学生にわかりやすい教材の工夫・研究をどう進めるかでしょう。	昨年よりは、格差のない結果であると思います。	あまり効果が上がっていないように思います。	最初にも書いたが、学生の興味・能力に応じた教材の工夫が今後必要だと思ふ。
介護概論	井上敏	自己評価と学生による授業評価との差が大きい。特に授業態度に関して、学生の授業評価アンケートとの関連性が理解し難い。	毎回、同様であるが、学生の授業評価そのものが、学生迎合主義に陥る危険を有する。授業に積極的に参加するためには、十分な学習が前提となる。		
公衆衛生学	植村興	全16項目について、約4分の1の学生から5の評価を得たが、全16項目で延べ24人の学生から評価1と評価されたのは遺憾であった。(前回の評価1は、16項目中5項目で各1名、総計5名であったのに対して)問1(聞き取りやすい声と速度)と問3(シラバスに沿った授業内容)で1の評価がなされていたが、この評価は理解できない(自由記述でも手がかりは得られなかった。)		ネガティブ評価の学生の56%が2行以内の記述であった。前回では89%の学生が2行以上の記述で、以後の授業の参考にすべき情報を得られたのに比べて、今回は内容的には物足らなかった。ただし、不満に感じている2点(板書が不十分、最終試験に資料持込なし)は明らかになった。	医療関係科目として、人の健康問題に真剣に取り組んで学習しなければならないことを一層強調し、十分に理解させたい。また、内容が広範多岐にわたるので、小試験及びレポートの回数を増やして各項目ごとに細かく理解度をチェックしたい。

医療事務総論	倉戸啓子	授業の難易度、進行速度、理解度の点での満足度がやや低い、すなわち難しい、わからないということになるかと思えます。	実務に必要な一定の知識、技能を身につけるためには、これ以上内容を削減することは好ましくないと考えられます。授業時間の延長もしていますが、なお時間が十分ではないと感じています。	少人数だったので、前期より質問しやすかったというものがありません	理解をすすめるためにパワーポイントによる説明を取り入れていきたいと思えます。
医療事務演習	倉戸啓子	授業の難易度、進行速度の点での満足度が少し低い、すなわち難しい、進むのが早いと感じている人が、一部にあるということになると思えます。	実務に必要な一定の知識、技能を身につけるためには、これ以上内容を削減することは好ましくないと考えられます。	特にありません	特にありません
解剖生理学	奥田喜一	授業の内容に対する理解と関心についての間に低い評価が出た。これは、授業内容そのものの質的なものと考えられる。	ほぼ予想された結果が出たと思う。昨年度の結果と比較して少し改善された。これは、昨年の評価をふまえ、授業方法を変えたからかと思われる。	数名の学生が授業方法について、楽しいという感想があったのは嬉しいと思う。	授業内容の理解と関心をどのように高めるか工夫していきたい。
薬理学	木本達雄	過去の集計結果と比べて大きな変化はなかった。全問にわたって曖昧な評価(3余り)に集中し、学内平均をいくらか下回っていた。これは一方で薬理学の特性からくる授業内容の理解の曖昧さ・低さを反映しているとも考えられる。そこで今期は理解度を上げることを課題に、シラバスを周知徹底し、購入するものが少ない教科書に代わる資料の事前配布を行い、予習の督促に務めた。それでもやはり学生の勉強意欲や能力、努力による方が大切なことを知った。	評価がひとえに自己の意欲や授業方法にかかわる間(1~4, 7, 9, 11)では身びいきから自己評価が学生による評価をいくらか上回っていた。評価が主に学生の授業に対する感じ方や授業内容や方法が学生にとって適正であったかどうかについての間(5, 6, 8, 10, 12, 13)では両者の評価が曖昧な評価(3)でだいたい一致していた。いずれの間でも多少しも高い評価で両者の評価が一致するようになればよい。一程度は僅かに改善されている。	25名の学生のうち16名が白紙を提出した。授業の内容や方法について具体的に意見を記述したものはなかった。授業が難しいとひとこと述べたものが3名いた。しかし、大学教育としては安易に授業のレベルを下げることでこれを解決してよいものでもなかろう。したがって、たいてい参考にもならなかったが、関心と理解力、記述表現力の低さをうかがうことができ、それらへの対策が必要であらう。	辞職したので感想と願望をのべる。教育の質を高めるためには教員、学生、大学当局がそれぞれの立場で貢献し、互いに協力しあうことが重要である。近年ことに難しいことは授業を成立させ、いかに関心を持たせて内容を理解させるかである。教員ばかりでなく、学生の質の確保も考慮すべき時代になっているのではないだろうか。学生の学力の的確な把握と授業の難易度の適合性が最も重要であり、これを誤ると努力が徒らにならぬ。
医療秘書実務	東野國子	集計結果は妥当なところだと思えます。問15に関しては、教室が人数の割に広がったので、一人ひとりの学生に目がとどかなかったのではと反省しております。	昨年度の反省をふまえ、学生内なるべく質問をし、授業のレベルや進度に気を配ったつもりですが、それに対する評価が低かったので、今後の課題としたと思っています。	昨年書かせていただきましたが、毎期ごとにも授業の感想を書いてもらっていたので、良いのではないかと思います。	実は自由記述で黒板が見にくかったと書いていた学生がいました。席を決める時に横に広がった配置をしたためだと思われます。もっと早く気づいてあげれば良かったと思います。授業の進度にしろ、席に配置にしろ、もう少し学生とコミュニケーションをとるべきだったと反省しております。
診療報酬請求事務演習	倉戸啓子	受講者数が比較的少なかったため、質問にはきめ細かく対応できたと思えます	特にありません	特にありません	特にありません
臨床医学概論	小泉雅子	どちらでもないという半端な意見が予想以上に多かった事が非常に残念。初めての授業で自分なりに精一杯やったつもりが、全体として生徒には余り伝わってなかったことが如実に示され、根本的にレベルを落とさざるを得ないと痛感。授業では何度も「ついてこれるか」の確認はとったものの、特に意見もなかったためそのまま進めた結果がこれなので、生徒の本音をどう引き出して授業に反映すればいいのか、今後、他の講師の方々の意見も聞きたい。	基本的に「教わる姿勢の根付いていない生徒」が少なからずいたこと。教師への要求や質問が、向学心ではなく、自分の利害に基づくもの(書く量を減らせ、写す箇所を指示しろ等)であったのがショックだった。本来自分で取捨選択するのも勉強の1つであるのですが…。友達感覚で接して生徒にこれらをどう伝えるか今後よく考える必要があると感じた。半年教えて見て大体の流れが掴めたので次からは少し余裕を持って臨みたい。	白紙で出されたものが多く、私見を述べるという意思表示がされないことに無味乾燥感を持った。非常に勉強になり楽しかったという生徒と、全く興味を示さなかった生徒が極端であった。この記述を踏まえ、生徒には意思表示から全ては始まるのだから、たとえ不満であれ、まずは何か思う事を相手に伝えると言うことと、それができれば我ではなく意見を伝えるよう指導した。	いずれ医療に携わる者として最低限の事を教えたつもりが、生徒にはいささか難しかったようなので、さらに浅く広い内容に努めること。あとは、こちらが喋る一方の授業ではマンネリの感があるので、次回からは生徒間で討論させたり、生徒の自主性をもっと引き出すような授業展開をしたい。
診療情報管理論Ⅰ	富永純子	学生評価の1~5に至るまで評価されており、学生の授業内容に対する意識度、理解度に大きな相違があることを感じました。診療情報管理という授業は病院の中でも特殊な専門性を持っているため、学生にとって初めて耳にする言葉も数多くあったので難しく感じたのではないかと考えます。	専門性が高いため、できるだけ理解しやすくするため、資料内容も考慮し、授業のため十分な準備をしたつもりでしたが、学生評価が低かったため再度内容点検をし、学生にわかりやすく理解できるように資料を作成し努力したいと考えております。	手渡しても白紙のまま提出する学生も多く、記入していても一行か二行であっさり、よく書いている生徒もいました。記述内容は診療情報管理という仕事があることを初めて知った、医師や看護師も重要な仕事であるが、カルテの点検は病院にとってとても重要な仕事であることを知ったという内容でした。授業の進行度に対する意見や希望などは書かれていませんでした。	授業内容が専門的で、学生側から見れば、興味深く実践に向けて役立つという意識が低かったのではと思われました。今後は、資料内容を再度点検し、診療情報管理という教科をわかりやすく、学生が興味を持って授業を受けることができるように創意工夫していきたいと考えております。また、学生の授業態度も改善の対象にしてゆきたいと思えます。真剣に聞いている生徒、しゃべっている生徒、寝ている生徒、横や後ろを向いている生徒、注意しても聞かない生徒達が授業に集中できるように、授業に引き込むにはユニークさも取り入れて、専念し努力をしてゆきたいと思っております。
ICDコーディング実務演習	富永純子	評価1~5までに渡って評価を受けました。時間が足りない上、教科書一通りを終了しなければならぬということもあり、授業の進め方が速かった点などを考慮して、自己評価を低くしましたが、学生がそれより評価してくれた事、しっかりついて来てくれたことが理解できました。	十分な予習と資料を準備して、演習に臨みましたが、昨年に比べて人数も倍になり、一人一人への対応が少々行き届かなかったのではと思います。自己評価を引きました。学生評価はそれを上回っていました。説明をしっかりと理解できた生徒も数多くいました。	用紙を配布しても白紙で返却する生徒、「コーディングばかりでありません」「コーディングばかりでありません」「コーディングとでも面白かった、ありがとうございました」「コーディングの授業楽しかった」等々いろいろありましたが、疑問点を授業内容についての希望・率直な意見を書いてほしかったと思えました。学生記述について今後は配布時に一言内容について説明しようと考えています。	今年度は少し時間もあり、説明と理解度のチェックを強化し、学生一人一人の意識、コーディング授業の最終目標であるコーディング検定3級に全員が挑戦、合格するという意識付け、授業のポイントをしっかり学生に伝えていきたいと考えております。
リハビリメイク演習Ⅰ	かづきれいこ	授業レベル、進行については満足されたようであるが、学生に与えた課題(技能、実技)について、やや不十分であったと思われる。	課題の量についての細かい分析を行い、それが、実技面であったのか、講義面であったのか把握する必要があると思われる。	表題である「リハビリメイク演習」というように、学生たちの興味があるように思われた。	講義や実技の場面に「リハビリメイク」を少しでも理解していただけるよう、授業内に盛り込みが必要であると思われる。



幼児音楽	大村満子	学生からの評価は学内平均をすべて上回るという結果に正直驚きを覚えました。しかし、講師側の授業に対する取り組みを学生は好意的に受け止めてもらえたように思い、やりがいを感じる事ができました。		学生の中にはもっと楽器のレッスンをしてほしいという声がありました。個人指導をするにはどうしても一人当たりの割り当て時間が少なくなり、学生の満足が得られるほどの時間は確保できませんでした。週によってはレッスン時間を多めにとるなど、工夫が必要かもしれません。	授業期間を通じて習得した学習の成果を発表する場として二月の定期演奏会に出演することが出来たことは、予想以上に上出来だったこともあり、学生にとって得るものがあったのではないかと思います。演奏会に向けての自主的な練習やアンサンブルなどでは他人と呼吸を合わせる大切さなど、経験を通じての成長が見られたように感じます。このことから学習の成果を発表する場を今後も確保しておくべきだと思います。
幼児音楽	角野美穂	すべての項目で学内平均を上回っていた。学生が楽しく音楽していたので良かった。	学生の意欲も高く、少人数であったので、きめ細かく対応できたと思う。		学生の前向きな希望も尊重しながら、さらに音楽に興味を持てるように、教材など工夫したい。
通信・ネットワーク論	畑野清司	通信・ネットワーク論は情報基礎を履修した学生が受講できる科目で、かなり内容が難しく、受講の学生にとってはついていくのが困難な授業科目の一つだと思う。その意味では予想通り、又は予想以上の評価であったと思う。	評価は昨年同様である。特に難易度の点で評価にばらつきが出る。	自由記述の中に、一生懸命授業についてきた一部の学生の本音があり、次年度に役立つ情報がある。	昨年度のアンケートに基づき、内容を精査して、あまり困難な章は削除するなど改善を試みている。徐々に効果が出てくるものと思われる。
情報活用演習Ⅰ	新田眞一	総合的にみてこの授業を受けて満足している、ことで安心である。しかし、説明の丁寧さをより求めていることが読み取れる。	昨年度と比較して、一般的に学生の評価は良くなっている。授業内容の工夫によるものであろう。	「説明がはやすぎる」との指摘が気になる。	説明が早すぎて理解できない場合は、個別に対応するようにすること。
情報活用演習Ⅱ	新田眞一	総合的にみてこの授業を受けて満足している、点がレベル4まであと一息である。レベル4でないことが残念である。	昨年度と比較して、一般的に学生の評価が少しであるが、下がっている。EXCELを取り扱う場合は、数値的内容の取り扱いの説明が足りなかったのではと、考える。	「わかりやすい説明であった」との記述もあるが、「説明がはやすぎる」という指摘が気になる。	説明が早すぎて理解できない場合は、個別に対応するようにすること。数値的内容の取り扱いの説明をすること。
情報数学Ⅲ	新田眞一	内容が少し難しい割には、学生の満足度はレベル4(3.95)あることに安心である。	昨年度と比較して、一般的に学生の評価が少しであるが、下がっている。もっとも昨年は良すぎた感があるが…。授業内容が難しかったのかも知れない。	悪戦苦闘した学生が多かったことがうかがわれる。説明の速度が速いこと、より詳しい説明を求める声がある。	理解できない学生には個別に何回も説明するようにすること。
マルチメディア論	畑野清司	マルチメディア論は、IT社会における最先端のトピックスを目的に応じて編集して講義するもので、基礎から応用まで幅広い内容の授業である。学生の評価はほぼ予想通りである。	難しい内容にも拘わらず、昨年同様の評価をいただいた。今後も出来るだけ分かりやすい表現や記述に心掛けたいと考えている。	集計に見る評価以上に生きた情報が得られることがあり、ありがたい。	授業評価の結果を今後の授業改善には是非役立てたいと考えている。特に難易度を考慮して分かりやすい授業になるよう努力していきたい。
マルチメディア表現及び技術	眞下義和	多くの受講生は可もなく不可もなくと考えているようである。基本的には「どちらかと言えば」肯定的に講義を評価している。	全体的に可もなく不可もなくという評価なので、講義に対する基本的な興味や熱意が薄いと感じた。これは学生の評価数値が示す結果以上に大きな課題だと考える。	おおむね白紙提出が多かったが、記述した感想はほぼ肯定的な内容だった。生の声が聞けるの嬉しい。ただ講義に対する意見とは関係のない悪意を感じる記述も1枚あり残念。	まず第一に、学生が興味を持つような、より今日的なテーマを取り上げて演習に活用すべきであると考えた。第二に作品を制作する都合上、学生各人の特性により進行状況にムラが出来たため、遅延する学生のケア、全体スケジュールの調整をまめにを行い、講義自体に緊張感がなくならないよう努めたい。
情報倫理	浅羽修文	全ての項目において学内平均を上回り、さらに平均4.50を超えているので、学生からは非常に良い評価を頂いたと感じている。前期の反省点として掲げた、問5の「難易度のレベル」と問14の「新しい知識や考え方を習得し学習内容の関心を高めてくれた」の2項目に関しても、前期より高い評価を頂いているので、色々と改善した成果が出たと感じている。	全体的に自己評価と学生評価は近い値になっているが、問4の「授業の準備と工夫」に関しては、自己評価と学生評価の差が大きかった。今回は、授業の準備を少し怠ったと反省していたが、学生はそれをあまり感じていないようだ。しかし、怠ったという事実が変わりはないので、今後は気をつけて準備をしていきたい。	多くの学生から「声が大きくて聞こえやすかった」「説明が分かりやすかった」「楽しかった」などの肯定的な意見を頂いた。特に、「説明が分かりやすかった」という意見が多かったのは、嬉しい。学生に身近な話題を、できるだけ丁寧に説明した成果が出たのではないかと感じている。	今回の授業評価の数値や自由記述からは得られなかったが、授業を行っている最中に「演習の時間が短い」という声を頂いた。本授業では、授業の後半に演習を行わせているが、前半の講義部分が延びたりしたときは、演習時間が短くなってしまふ。今後は、このことを重点的に改善していきたい。
インターネット演習	浅羽修文	全ての項目において学内平均を上回り、さらに平均4.00を超えているので、学生からは非常に良い評価を頂いたと感じている。しかし、その中でも、問11の「静かな環境をつくる努力」と問15の「設備」の2項目に関しては、平均4.18と低目の値となっており、気をつけるべき項目であると感じた。	全体的に自己評価と学生評価は近い値になっているが、問4の「授業の準備と工夫」に関しては、自己評価と学生評価の差が大きかった。今回は、授業の準備を少し怠ったと反省していたが、学生はそれをあまり感じていないようだ。しかし、怠ったという事実が変わりはないので、今後は気をつけて準備をしていきたい。	多くの学生から「声が大きくて聞こえやすかった」「楽しかった」などの肯定的な意見を頂いた。ホームページを作るという授業の性質上、「楽しかった」という意見が多かったのは、狙い通りの授業ができたように思う。	問11の「静かな環境をつくる努力」の平均値が低かったため、その点が改善点となるであろう。授業中には気付かなかったが、後々の学生の声から隣の子のキーボードを叩く音がうるさすぎる」とか、「ヒソヒソ話をしている」といった意見があった。授業中であっても、そのあたりのことに気を配りながら授業を進めたい。
プログラミング	浅羽修文	全ての項目において学内平均を上回り、さらに平均4.00を超えているので、学生からは良い評価を頂いたと感じている。しかし、その中でも、問3の「シラバスに沿って行った」と問5の「難易度のレベル」の2項目に関しては、平均4.11と低目の値となっており、個人的に目標としている4.00以上にギリギリであった。この2項目に関しては、何らかの改善を行う必要があると考えられる。	自己評価と学生評価の差が大きい項目が3項目もあった。これは、この授業の難易度と学生の理解状態に神経質になり過ぎて、予定した授業内容を上手にこなせなかったのではないかと自己分析した結果が、両者の差に繋がったのではないかと考えている。	「楽しかった」と「難しかった」という意見に分かれていた。プログラミングのコツをうまく掴めた学生は、プログラムを作ること自体に楽しさを感じ、そうでない学生は難しく感じたのであろう。いずれにせよ、意見が2つに分かれたという事実は、真摯に受け止めるべきである。	「難しかった」という意見を持った学生を、いかに「楽しかった」に変えるかが、1つの改善点であるように思う。今回の授業は、時間的な問題もあって少し早めに授業を進ませざるを得なかった。その進行速度についていけなかった学生が、難しく感じたのかも知れない。今後は、ステップをひとつひとつ確実にクリアさせながら、授業を進めることが肝心であると思われる。

情報機器利用プレゼンテーション演習	畑野清司	この授業はパソコン台数の制限があるため、受講整数にも制限がある。今回の受講整数は上限値であったが、ほぼ眼が行き渡る範囲であったため、予想通りの評価であった。	昨年同様の高い評価であった。人数が多いので支持が良く行き渡るよう大きな声に心掛けたがほぼ全員の理解を得た。	「自由記述」は、熱心に受講した学生の本音があり貴重な銃砲として受け取っている。その中に「私のプレゼンテーションに対して先生のコメントがもう少し欲しい。」とあった。進行速度の関係でコメント時間を制限したが、シラバス通り進めるためには、受講生をもう少し絞り、内容を充実させる必要があることを示唆する。	「プレゼンテーション概論」の単位取得者がこの科目の受講を認められる。開講コマ数を増やす必要があるのかも知れない。
プレゼンテーション概論	畑野清司	後期の授業は5人という少人数のため、集計の統計的な数字の取り扱いにはあまり意味が無い。数字で見える一人の学生の評価が全体を大きく左右している。しかし概ね意図した結果が出ており、今後の授業展開に活用していきたい。	実質的には大きな差は無い。この授業は、学生の授業に対する思い(取り組み姿勢など)が発表という場を通して表現されるため、「満足」、「不満」など、アンケート調査の数字について、おおよそ理解が出来る。	「自由記述」は記述内容は時間の関係もあり少ないが、貴重な意見として受け止めている。	より良いプレゼンテーションを行うためには、適度の緊張感が必要である。そのためには、適正な受講者数が確保されなければならない。前期と後期の受講者数のバランスをとることが出来れば、より一層充実した授業が出来る。
プレゼンテーション演習 I	福井愛美	後期は演習 I を受講する学生が少なく、有効回答数が6名中3名だったため、問5、問18、以外は全て5であった。	シラバスは、少数の受講者用に多少変更したり、板書も前回の反省から、自己評価を少し低くしたが、学生にとってはさほど気にならないようであった。	人数が少ない分、先生との距離が近く分かりやすかった。はじめは苦手だったスピーチが頑張つてうまくやべれるようになったのが嬉しかった、などの感想が主であった。また社会人として役立てたいとの意見があった。	問5の難易度のレベルと問18の課題の量についての項目は、受講人数が少数のために負担に感じた学生、あるいは物足りないと感じた学生の差が多少あったかも知れない。少数の場合、個々の能力が最大限に引き出せるよう、実力に合わせて指導も心がけたい。
プレゼンテーション演習 II	福井愛美	今期、学生からは全体に4以上のよい評価を頂いた。	前期の反省から、板書をもう少し丁寧にと心がけたため、今期は改善されたと思う。ただ詳しく分析すると高ポイントの中でもやや低い点数なので引き続き心がけたい。	課題が難しかったが、グループで取り組んだので楽しくできた。またグループのチームワークの大切さが理解できた。緊張感を持ってプレゼンが出来た。将来の役に立つ、など前向きな意見の中に、演習 I より中身が少なく面白みに欠けた、との記述もあった。	演習 II では、主にグループワーク中心に授業を進めたが、内容はグループの力量が反映されるので、チームの分け方にも今後いっそうの配慮を行いたい。また一年生と二年生合同の授業のため、課題が難しかったと感じた学生や、授業進度のペースもややゆっくりとったため中身が少なと感じた学生もいたようなので、今後の改善点として課題の見直しをしたい。
事務機器論	藤原寛平	問16の総合に見られるように、充分な満足は与えていないが平均はクリアできたと思っている。しかし、問8の板書と問13のよく理解することができたに付いては評価平均値が3.00を切っており、難易度のレベルにも注意を払って進めたい。	昨年の学生は後半のエクセルを使用する場で習熟度で苦労した所が評価にも現れている。今年は説明方法、プリントなどでの効果が出たのが、評価の差は小さくなっている。項目として大きな声、速さ、丁寧な説明、板書の改善に一層の努力をしたい。	学生の評価と同じく声の大きさ、板書が読みにくい、内容が難しい、の指摘があった一方、詳しく良かった、丁寧でよかった、エクセルがよく分かった、興味がある話が多々あり遅刻せずにちゃんと出席すれば良かった、社会に出て役立てたいなどの声も聞けたのは非常に良かったと思う。	聞き取り易さ、ボードへの記入、説明と応答に気を付けたい。また一層の話す内容、速さ、プリントの内容の吟味に気を配りたい。
コンピュータ会計	藤原寛平	授業の半分近くを簿記の説明に要したが、経済用語の特殊性、処理方法に難しい学科だと感じているようだ。どこまで詳しく、時間をかけるか難しいところである。内容を絞ったのでは会計にならないので、絞りたくない。	学生の評価平均値は少し上がり、各設問の平均値もアップしたが問題点は昨年と同じ聞き取りにくさ、板書の見難さが指摘されている点一層の努力を要する。	内容が難しい、字が読みにくい、説明をもっと詳しくなどの要望がある一方、難しかったが受講して良かった、エクセルもよく分かったの声も有り、この種のアンケートは続けて欲しいと思います。	説明の仕方、スクリーンの使用と内容、プリントを使つての説明と合わせ考えてゆきたい。
事務文書管理	仁平征次	事務や企業の組織の分野は、学生の関心が低いようにみられたが案じた程は、低くはなかったようで、最後まで授業についてきてくれたようである。	学生の評価が、前期平均2.67から4.08に上あがり学内平均より上の項目が、下の項目より多くなり安堵した。前期は少人数のうえ、一部のグループの学生の反感を買った結果だったが、今期は適切な規模の教室と座席指定で落ち着いた環境が整い、また前期の失敗の反省の上に授業方法を変えた点が良かった要因であると考えられる。	感情的な批判はなくなったが、難しいとの意見もあった。改善の余地がある。	今年度より、一部関連したオフィスマネジメントを別に担当し、会社法の改正で企業の制度が複雑化したので、教授内容の面でより難しくなるが、教授内容を絞り工夫を加えたい。また、事務の分野は講義内容に興味薄い傾向があるので、参加型の手法を多く取り入れ興味を喚起し維持するよう心がけたい。
オフィスマネジメント(経営学含む)	木村三千世	企業で働いたという経験のない学生にとっては、難しい授業ととられがちであるため、関心のある人とそうでない人によって受講の感想が大きく異なるかもしれないと思われた。	前期以前と同じような教材を用いたことに加えて、一部パワーポイントなどを使ったことにより、前期以前より受講する姿勢が引き締まったように感じられた。	自由記述の記入をしている人は多くないが、その意見の大半は「役に立った」という内容である。記入しようと思う人は、常に積極的に授業に参加している人であると考えられる。	座って授業を受けるという習慣が身につけていない人についての対処が必要であろうと思われる。また、教材のビジュアル化をするともに、演習も盛り込んだ内容にするとうよと考えられるが、考えながら作業することが億劫な人もいるので、娯楽的要素の高いゲーム等を盛り込む内容が必要なのかもしれない。
ビジネス実務概論	畑野清司	「ビジネス実務概論」は、今回教室に補助椅子を持ち込んで行うほどの多くの学生が受講した。適正人数を大きく上回ったため、きめ細かな授業が展開できなかった反省点もあり評価は妥当と思う。	評価は昨年から下がった。卒業を控えた2年次生が大半で受講を断ることが出来ず、超満員の授業となった。やはり、細かな気配りに欠け、評価が落ちたと考える。	自由記述には、講義の目的・目標を的確に学びとった学生の意見もあり、今後につながる貴重な意見として重要である。	適正人数を上回る受講生がある時の、対応を検討したい。
ビジネス実務演習	木村三千世	就職活動を控えた学生にとっては、興味深く取り組んでいるように見受けられたが、集計結果からはそのようには見受けられない。また、ビジネスの場で必要となる細々とした日常業務に関することを演習問題として取り組むため、関心のある人と何をすることも億劫な人では受講の感想が大きく異なるだろう。	全体的には、前期以前と同じように熱心に取り組んでいるように見受けられたが、集計結果では、昨年より思わしくないようである。状況に応じて進めているが、学生の就職活動の状況と並行する時期に必要な内容を扱う授業にすると効果は高まると思われる。	自由記述の記入をしている人は多くないが、その意見の大半は「役に立った」という内容である。記入しようと思う人は、常に積極的に授業に参加している人であると考えられる。	「動きのある授業」にできる演出が必要なのだと思うが、それと並行して授業を受けること自体が億劫である人を喚起できるように対処しなければならないのであろう。

現代社会論	中川博	「板書は適切であったと思う」の評価が2.90と最低なのにショックを受けた。座席指定とし、私語のないように工夫したつもりだが、集中力に欠けるせいだろうか。	格差社会の到来について、統計資料を配布就職への関心を喚起することに努めたが、一年生の後期ということもあり、実感が沸かなかったようだ。	特になし。	学生の理解を深めるため、授業をゆっくり進めるよう努めたい。
国際関係論	村井隆之	16問すべてについて「自己評価」は4としたが、「学生評価」の平均値(1~16)は3.78である。0.22だけ「学生評価」の方が低かった。	昨年度は、「学生評価」の方が全体的に「自己評価」より高かった。今年は、わずかながら逆転現象が起きたわけだが、その原因は何かについて検討する必要がある。	わずか3名の学生しか記述しなかった。残りは白紙であった。それも二人は1行、一人は3行。ただし、記述は最終授業のレポート作成の後に行われたものである。このことが学生の記述態度に何らかの影響を与えたかも知れない。	「自由記述」は、あと2、3年経過を観察して、もし学生の記述の姿勢に改善が見られなかった場合は、「自由」な記述を改めて、アンケートに答えさせる形式にした方がよいのではないかとと思う。
国際事情	村井隆之	16問すべてについて「自己評価」は4としたが、「学生評価」の平均値(1~16)は3.56である。0.44だけ「学生評価」の方が低かった。	昨年度は、「学生評価」の方が全体的に「自己評価」より高かった。今年は、わずかながら逆転現象が起きたわけだが、その原因は何かについて検討する必要がある。	ほとんどの学生の記述が1行ないし2行どまりである。この意味で、残念ながら、記述に真剣さが認められない。ただし、記述は最終授業のレポート作成の後に行われたものである。このことが学生の記述態度に何らかの影響を与えたかも知れない。	「自由記述」は、あと2、3年経過を観察して、もし学生の記述の姿勢に改善が見られなかった場合は、「自由」な記述を改めて、アンケートに答えさせる形式にした方がよいのではないかとと思う。
異文化間コミュニケーション論	村井隆之	学生評科の平均値(1~16)は3.96。自己評価は4としたので、その差はわずか0.04。この授業については、学生評価と自己評価の乖離がほとんど認められない。この意味では、ほぼ満足すべき結果が得られたと思う。	昨年度は、「学生評価」の方が「自己評価」よりわずかに高かった。	この授業の場合も、学生の記述態度は熱心に欠ける憾みがある。村井担当の他の授業と同じである。ただし、記述は最終授業のレポート作成の後に行われたものである。このことが学生の記述態度に何らかの影響を与えたかも知れない。	「自由記述」は、あと2、3年経過を観察して、もし学生の記述の姿勢に改善が見られなかった場合は、「自由」な記述を改めて、アンケートに答えさせる形式にした方がよいのではないかとと思う。
比較文化論	村井隆之	16問中12問に関する学生評価が4以上である。この意味でこの授業に関する学生の評価はおおむね良好だといえる。	昨年度と比べて、大きな変化は認められない。	受講生の過半数のものが「白紙」であった。記述した学生の記述も、2~3行である。この意味で、残念ながら、記述に真剣さが認められない。ただし、記述は最終授業のレポート作成の後に行われたものである。このことが学生の記述態度に何らかの影響を与えたかも知れない。	「自由記述」は、あと2、3年経過を観察して、もし学生の記述の姿勢に改善が見られなかった場合は、「自由」な記述を改めて、アンケートに答えさせる形式にした方がよいのではないかとと思う。
世界の中の日本文化	柏木俊和	対象学生が1名ということで、学生としても正直な評価がしにくかったのかかもしれません。全部の項目が5というのはまずありえないことですから。	上記の理由で、授業評価と自己点検評価とにかなり差が出ました。一昨年は、対象学生が6、7名でしたので、評価にはばらつきがありました。	特にありません。	少し難しいテキストでしたので、本当はもっとテキストにとらわれずに自由な教材を使う方がこの種の授業にはよいと思います。
Intensive Reading I	奥田 純	授業内容の説明の仕方や、授業への準備、取り組み姿勢と言った点では、一定の評価が得られたと思う。しかし、授業の難易度、進行速度については、評価が分かれた。授業に興味をもって取り組んだ学生も新しい知識や考え方の習得という点では、平均的に今ひとつであった模様。	(今年度より担当)受講生が4人という少人数のクラスで、英語のリーディングのクラスとしては、理想的であったが、受講生の英語力としては、一人を除いて、語彙、文法ともに問題があり、授業が難しく、進み方も早いという結果になったと思う。	説明が分りにくく、授業スピードももっとゆっくりして欲しかったが、最初の時に比べると、だいぶ英語力がついた。	教科書の選定を誤ったのかもかもしれないが、リーディングの教材としては、初級レベルの一番下から2番目のもの。今後、より簡単なレベルの教科書を使い、学生の水準を見ながら、授業の進行速度を調整し、一定の理解が得られるまで辛抱強く教えることが課題。受講生間の英語力の差への対応の仕方も難しいが、課題。
Intensive Reading II	奥田 純	基本的にはIntensive Reading Iと似た評価で、授業の難易度と進行度、授業内容の理解度の評価が厳しかった。	(今年度より担当)受講生が3人という少人数のクラスであったが、このクラスは二人の比較的英語力のある学生と英語力に問題のある学生一人との組み合わせで、Intensive Reading Iより若干満足度は大目であったと思われる。	人数が少なかったので、ゆっくりマイペースで勉強できた。少し、難しいところもあったが、なんとかやっていた。	Intensive Reading Iの上級編で教科書もワンランク上のものを使用。19年度からは、Readingのクラスは1本化されるため、やや簡単な教科書とし、学生の英語力に応じてプリント等で授業内容を補足することも一案。
International Communication IIA	奥田 純	受講生1名で、全ての質問に5をつけたもの。従って、授業評価調査の参考にはならないと思う。	(今年度より担当)左記の事由により、コメント略	参加人数が多いとは思っていなかったが、これ程少ないとは思っていなかった。ただ、その分気楽に受講でき、細かなところまで教えてもらった。英語以外の色々な知識も学べた。	前期の教科書と異なり、リスニングとスピーキングに重点を置いた教科書を使用し、英語をコミュニケーションの手段として覚える授業を目指し、リスニングについては一定の効果があつたと思われる。スピーキングの力をつける授業方法を編み出すことが課題。
Advanced International Communication IIA	奥田 純	受講生1名であったが、問13から15の三つが3.00で残りはすべて4.00の評価であった。	(今年度より担当)International Communication IAの上級編で、教科書はワンランク上のものを使用。レベルとしては、一部かなり難しい内容。問13から15について評価が厳しくなっているのはこれを反映したものとと思われる。	なし。	使用した教科書はうまく作られており、自然な英語のコミュニケーション、語彙に親しめる。International Communication IIAと同じく、スピーキングが課題。
Media English I	奥田 純	板書の適切性、教室の大きさや設備以外は総じて学生の評価は良好であったと思われる。	(今年度より担当)教科書のレベルとしては、Intensive Reading IIと同水準かやや上であったが、授業では、取り上げる章を絞り、扱う範囲を減らしたことで効果があつたのかもかもしれない。また、内容もスポーツ等もあり、変化に富んでいたのもよかったのかもかもしれない。	必須の英語より勉強のしがいがある内容だった。	時事英語は政治、経済といった内容が主流だが、幅広い領域を題材にした教科書を使用、これに学生の英語の水準をうまく組み合わせることが重要。英字新聞、インターネットの英語記事も教材の一部にうまく取り込むことも課題。

Media English II	柏木俊和	学生の授業評価が自己点検評価をほとんどの項目で上回りましたが、少し意外な気がします。時事英語はかなり難しい単語が多く出て来るので、充分理解してくれたかいつか心もとなかったのですが。	上記のとおり、両者の評価に少し差が出ました。一昨年はこの授業は持ちませんでしたので、比較はできません。	特にありません。	知らない時事英語の単語や表現をどうしたら有効に覚えられるか、それは大変な難問です。
Travel English I	柏木俊和	この授業では、学生の評価と自己点検評価とが、ほぼ3分の2くらい一致しました。授業の理解度については、思ったより高い評価でした。一昨年とほぼ同じ結果です。	この授業では、学生の評価と自己点検評価とが、ほぼ3分の2くらい一致しました。授業の理解度については、思ったより高い評価でした。一昨年とほぼ同じ結果です。	特にありません。	海外旅行に必要な基礎的英会話の学習で、ビデオ教材を使用したのはよかったですと思いますが、もう少し受講生に話させる機会を増やすべきだったかとは思っています。
ホテル・レストラン学	小野清和	唯一今後の課題にしたいのは黒板の使い方が生徒にあまり好まれていなかったようです。なるべく書いて理解するようにと考えて黒板を使用したのですが後ろの方では見づらかったようです。	プリントを配布するよりなるべく書いて理解する事を目的として授業を致しましたが、今後パソコンのパワーポイントを使用して改善して行くように致します。授業難易度のレベルは適切であったと思う項目で学生評価と自己評価・学内平均がほぼ同じ基準であったので充分理解はして頂いたと思う。	サービス業って奥深く簡単に思っていたけれども勉強すればするほど難しい事が良く分かりました。との意見が多かった。	今後はもっと現場の状況を動画配信にて何故そうする必要があるのかを徹底して教えてモチベーションの切り替えの大切さや、自分の仕事がかかっている人に与える影響、自分の仕事の社会的な意義や役割は何かと言うサービス業本来の人を中心としたビジネスの本質に触れて行きたいと思っています。
ホテル・ブライダル業務概論	小野清和	学内平均値・自己評価より学生評価が高かった事は嬉しいことです。それだけ学生の興味がある分野であり一度はやって見たい仕事であると思います。もっと内容的に分かりやすくパソコンのパワーポイントで紹介して行きます。	黒板を今年は使用致しましたが評価からみて、今後は一昨年と同じもっと内容的に分かりやすくパソコンのパワーポイントで紹介して行きます。	自分たちが必ず経験する事です。簡単に思っていたけれど歴史・地域によるしきたり・親が言っている意味など良く分かった。自分の場合にはこんな事してみたいと言う自分の意見が多く見られた。	学生の興味がある分野だけにブライダルアシスタントコーディネーター(ABC検定)資格を取らせられる資格認定教科に今年から採用されましたから全員合格が出来るように徹底周知いたします。
観光学	西川博	板書や、授業展開など細部にわたる工夫が必要であると感じました。	それなりの改善が行われたと感じます。	授業の中に効果的にビデオやパンフレットなどを利用した場合が印象深いものであるということがよく理解できました。	テーマの設定の仕方、パンフレットやビデオあるいは学生参加型の授業形式などを取り入れ、更に授業を展開して行くべく、努力していきたいと思っております。
中国語会話 II	沈揚	学生による授業評価は、学内平均とほぼ同じように出ています。しかも、学生の満足度評価は、とても高い点を付けられていますので、私にとっては非常に嬉しいことです。	自己点検評価は学生による授業評価のどこどころより高いです。特に話しの速さ、授業の進行速度のところです。今度学生の立場で考えて授業を行うべきと思います。	新しく導入した学生の「自由記述」の方法は非常にいいと思います。今年度学生からよいアドバイスをいろいろいただきました。それはこれからの私の授業に大きな励ましと促進であると思います。	今のところはまだ思い付くことはありませんが、新学期が始まるまでに、よく考えて、学生にとっても良い、歓迎される講義を行いたいと思っております。
韓国語会話 II	張 愚診	自己評価に上手く出来たと思った項目に関しては学生評価には予想より低く評価されたことや自己評価に上手く出来なかったと思った項目に関しては学生評価には予想より高く評価されたことが結果として出ました。特に、シラバスに書いたとおりできなかったことや授業の進行速度の非適正であることが今年の授業方式の問題点として見つけられました。反省し、より学生向けの授業ができるように努力します。	今年が初めての授業であり、授業評価でした。来年からこの評価に基づいて自己点検評価を行います。	何よりも、授業が楽しかったと言う学生が多かったので先生として嬉しく思っています。それで、韓国語にちょっと興味を持つことができ、これからも勉強を続けたいと言う学生もいたので先生として自信を持ってくださいという学生もいました。	シラバスに基づいた授業の進行速度を維持し、より楽しく授業ができるように適性が高い教材を使ったより易しい授業が出来るように頑張ります。
社会人としての自己表現とマナー	奥田玲子	全ての項目で4.00を上回り、問6、15以外の全ての項目で、学生評価の4と5の占める割合が80%を超える高い評価を頂いた。	問1、7、9で特に自己評価を高くしたが、学生の評価は他の項目とほぼ同じであり開きがみられた。授業に対する熱意、教材の使い方、声や話し方についての学生評価を謙虚に受け止め今後の改善につなげたい。	マナーについては、多くの学生が「これまで知らなかった事が多く、社会に出て役立つことばかりだった」と記述していた。基本的なことから、順を追って丁寧に分かりやすく指導することの大切さを実感した。	昨年に引き続き、社会の変化と学生のニーズに合わせた新しい内容を取り入れ、より学生の興味と熱意を高めていきたい。
社会人としての一般常識	ライフデザイン総合学科の全専任教員(本項の文責・村井)	16問すべての問に対する学生の評価は、「学生評価平均値(1~16)3.64」をやや下回っている。しかし、問12~14については、「学生評価」の方が「自己評価」よりも評価が高い。これは、どう判断すべきであるのか、一考を要する。	昨年度と比べて、大きな変化は認められない。学生評価がすこし良くなったような印象である。	ほとんどの学生の記述が1行ないし2行どまりである。この意味で、残念ながら、記述に真実さが認められない。	「社会人としての一般常識」は必修扱いの授業であり、ライフデザイン総合学科の全専任教員が参加して行われている。授業内容や授業方法については、今後ともよく協議して改善努力を図る必要がある。
社会人としての日本語	石川承紀	全体として、私自身の評価より高い評価を得た。反省するところもあるが、学生からの評価を気にしすぎてもいけないと考えている。	昨年の結果より、評価が多少上がった事になるが、指導内容に変化はない。授業の目標として、「天声人語」程度の文章を理解し自分の考えを述べる事ができるようにしたい、と考えている。これは、就職等の試験を受ける為にも、社会人としても、是非必要な能力だと考えている。ところが、これを難しいと思う学生が三分の一程いる。受験勉強に縁のなかった学生にとっては、無理もないのかもかもしれない。それでも、頑張らせるので、評価は低迷するだろう。	「ありがとう」「楽しかった」など以外に見るべきものはなかった。	質問について一授業の流れを壊されない為に、突然の質問には応じないことがある。このことと、私の耳が悪いこともあって、捕らえられない質問があると思う。その対策として、B6の「質問カード」なるものを作り各学生に数枚ずつ配ってある。これは、随時提出させ、時間を作って答えることにしてある。「文章のまとめ方がわからない」というような質問に驚きながらも、よい機会をもらったと全員を対象に説明したこともある。このカードをより有効にしたい。
職業の心理	北村瑞穂	学生評価は全項目で学内平均を上回った。	昨年に比べて、評価は少し下がったが、昨年は受講者が5人しかいなかったため、5の評価をつける学生が多かったためだと思う。28人に受講生が増えたが、ほぼ4.5に近い評価をもらったことに満足している。	職業に関するDVDが良かったという意見が多かった。ディスカッションが多く楽しかったという意見もあった。	来年度はこの授業は担当しない。

日本語表現法AⅡ(論文作成演習)	工藤真由美	全員が全項目において満足度5をつけてくれたことは、大変嬉しく光栄におもう。	昨年に比べて、編入希望、就職試験対策を真剣に考えて受講している学生ばかりであった。そのため授業内容の照準が一点に合わせやすく、指導効果も上がった。それが今回の高評価につながったと思われる。	自由記述も、全員が記述してくれた。内容も、真剣に授業の中身に触れるものばかりで、大変良かった。	少人数だから出来る指導、目標が同じだから出来る指導。きめ細かく添削しながら作文力を向上させたい。
医療事務コンピュータⅠ・Ⅱ	倉戸啓子	受講者数が比較的少なかったため、質問にはきめ細かく対応できたと思います	特にありません	特にありません	特にありません

## 「学生による授業アンケート調査」（平成18年度前期分）実施要領

平成18年度も昨年に引き続き、先生方の担当授業ご研鑽の一助としていただくことを目的として、学生による授業アンケート調査を実施いたします。

本調査の実施は各授業担当者をお願いしております。実施に際しましては、下記の手順に従ってご進行下さいますようよろしくお願い申し上げます。

### 調査用紙（調査票とマークシート用紙）の確認

1. 調査票とマークシート用紙、学生用自由記述用紙を同封した封筒の表紙に記載されている授業科目名と担当者名をご確認下さい。
2. 表紙に記載の赤の三桁の番号は授業科目と担当者を示す識別番号となっております。

### 実施手順

1. 調査時間は20分程度を予定しておりますが、時間に余裕をもって開始して下さい。
2. 設問項目は調査票に示した通りです。それぞれの設問に対する回答は、マークシート用紙に鉛筆で黒くマークさせて下さい。
3. 授業評価に先立ってまず授業科目欄（番号欄）に、授業科目と担当者を示す識別番号（封筒の表紙に記載の赤の三桁の番号）をマークさせて下さい。次いで学年（年欄）、所属学科（クラス欄）、出席回数（D欄）をマークさせて下さい。
4. 授業評価項目は問1～問20で構成されています。講義・演習科目は問1～問16まで、実技・実習科目については問1～問20までとなっています。それぞれについて5段階評価の該当する数字にマークするようにご指示下さい。
5. 引き続き同封の「自由記述用紙」に、授業に対する要望などを自由に記載させて下さい。

### 調査終了後の取り扱い

1. 調査終了後、学生を指名して調査票とマークシート用紙を回収させて下さい。その後学生自身により調査票とマークシート用紙を元の封筒に収納させ、テープでしっかりと密封をさせて下さい。自由記述用紙は別に回収させ、先生御自身でお受け取り下さい。回収にあたっては、できるだけ学生個人が特定できないようにご配慮下さい。
2. 封筒を学生から受け取り、授業終了後直ちに別添えの先生ご自身が回答された「**授業の自己点検評価用紙**」と共に事務局の担当者までお届け下さい。
3. 学生に自由記述を求めた「自由記述用紙」は別の封筒に収納し、先生御自身でお持ち帰り下さい。後日、「自己点検評価報告書」をご提出下さる際のご参考として下さい。

### 集計結果のお知らせと「自己点検評価報告書」（ご意見）ご提出のお願い

1. 集計結果は、先生にご提出頂いた自己点検評価用紙を添えて9月上旬に先生方まで個別にメールボックス（専任教員）、または郵送（非常勤講師）にてお届け致します。
2. 同封の報告書に集計結果の分析、問題点の所在、改善策など先生のご意見をご記載の上、郵送、またはFDにて9月末日までに表記宛ご提出下さい。

## 授業についてのアンケート調査票（平成18年度前期分）

この調査は授業の改善に役立てるために無記名で実施するものです。みなさんの成績評価とは関係ありません。率直に、かつ真剣に回答して下さい。

※回答はマークシート用紙に鉛筆で黒くマークして下さい。

授業科目名

学年            1. 1年生            2. 2年生            3. その他（留年生、科目等履修生など）

所属学科        1. 保育学科            2. ライフデザイン総合学科

授業出席回数 1. 毎回            2. 2/3以上            3. 1/2以上            4. 1/2以下

評価は次の5段階でおこないます。問1～問16、および問17～問20（実技、実習科目のみ）について、該当する番号に一つだけ○をつけて下さい。

- 5    そう思う
- 4    どちらかといえばそう思う
- 3    どちらでもない
- 2    どちらかといえばそうは思わない
- 1    そうは思わない

- 問1 教員は大きな声で聞き取りやすい速さで話してくれた。
- 問2 教員は授業内容が良く理解できるように丁寧に説明してくれた。
- 問3 授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行われた。
- 問4 授業は十分な準備と工夫がなされていた。
- 問5 授業の難易度のレベルは適切であった。
- 問6 授業の進行速度は適切であった。
- 問7 テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。
- 問8 板書はわかりやすかった。
- 問9 教員の授業に対する熱意や真剣さが伝わってきた。
- 問10 教員は学生の質問や発言などに適切に対応した。
- 問11 教員は授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくってくれた。
- 問12 授業に興味をもって熱心に取り組むことができた。
- 問13 授業の内容を良く理解することができた。
- 問14 授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得できもっと深く勉強したくなった。
- 問15 この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。
- 問16 総合的にみてこの授業を受けて満足している。

5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1

《問17～問20は実技や実習科目のみ回答して下さい》

- 問17 教員の技能や実技の指導は適切に行われた。
- 問18 この授業で課せられる課題の量は適切であった。
- 問19 与えられた課題に取り組む時間は充分にあった。
- 問20 授業の内容は技術や実技の向上に役立つものであった。

5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1

### 担当教員による授業の自己点検評価

今年度から学生による授業評価に並行して「担当教員による授業の自己点検評価」を実施させて頂くことになりました。ご多用中誠に恐縮ではございますが、下記項目にご記入の上ご担当科目についての「学生による授業アンケート調査」実施終了後、回収用紙の入った封筒と共にご提出下さいますようお願い申し上げます。

※一授業科目について1部ご提出ください。

※複数担当者によるオムニバス形式の授業につきましてはその中の代表者をご記入下さい。

ご記入日 

平成18年度	前期	( )	曜日	( )	時限
--------	----	-----	----	-----	----

  
 授業担当者 

--

  
 授業科目名 

--

  
 総受講生数とご担当コマ数 

--

 名 

--

 コマ

評価は次の5段階でおこないます。問1～問16、および問17～問20（実技、実習科目のみ）について、該当する番号に一つだけ○をつけて下さい。

- 5 そう思う
- 4 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらでもない
- 2 どちらかといえばそうは思わない
- 1 そうは思わない

- 問1 授業では大きな声で聞き取り易い速さで話すように心がけた。
- 問2 学生が授業内容を良く理解できるように丁寧に説明した。
- 問3 授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行った。
- 問4 授業には十分な準備と工夫をして臨んだ。
- 問5 授業の難易度のレベルは適切であったと思う。
- 問6 授業の進行速度は適切であったと思う。
- 問7 テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。
- 問8 板書は適切であったと思う。
- 問9 授業は熱意をこめて真剣に行った。
- 問10 学生の質問や発言に適切に対応した。
- 問11 授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくる努力をした。
- 問12 学生は授業に興味をもって熱心に取り組んでくれた。
- 問13 学生は授業の内容を良く理解することができたと思う。
- 問14 学生は授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得し、授業内容に対する関心を高めてくれたと思う。
- 問15 この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。
- 問16 学生は総合的にみてこの授業を受けて満足していると思う。

5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1

《問17～問20は実技や実習科目のみご回答下さい》

- 問17 授業中の技能や実技の指導は適切であったと思う。
- 問18 この授業で課した課題の量は適切であったと思う。
- 問19 学生が与えられた課題に取り組む時間は充分にあったと思う。
- 問20 授業の内容は技術や実技の向上に役立ったと思う。

5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1



## 授業評価報告書

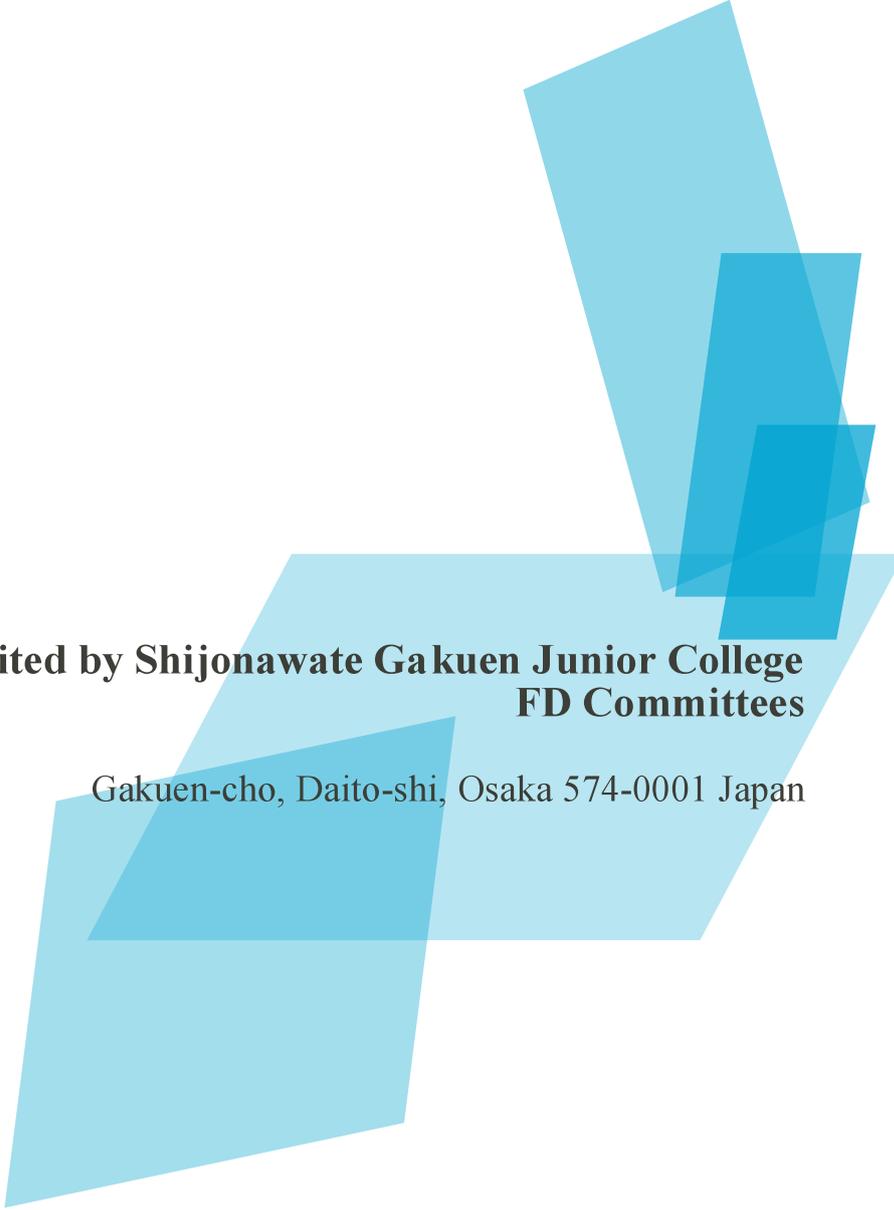
－よりよい授業への改善をめざして－ 2006

©2007 年 7 月 発行

編集 四條畷学園短期大学 FD 委員会  
FD 委員長 石村哲代  
FD 委員 井上泰子 近藤淑子 石川肇 北村瑞穂

発行 四條畷学園短期大学  
〒574-0001  
大阪府大東市学園町 6-45  
Tel : 072-876-1321

表紙デザイン 北村瑞穂



**Edited by Shijonawate Gakuen Junior College  
FD Committees**

Gakuen-cho, Daito-shi, Osaka 574-0001 Japan